

末日聖徒イエス・キリスト教会・2002年4月号

リアホナ



リアホナ



表紙

表紙—「ゲツセマネの祈り」© Del Parson.
フロリダ州ベニス、ミル・ポンド・プレス社のビジョンズ・オブ・フェイス・コレクションより。
裏表紙—「園の墓」リнда・カーリー・クリステンセン画



「フレンド」表紙

「知恵を増し」サイモン・デュイ画。ユタ州アメリカン・フォーク、アトラス・ファイン・アートの厚意により掲載。

一般

- 2 大管長会メッセージ——靈感を伝える言葉
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 6 偉大な栄えある贖罪を証する
十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル
- 25 家庭訪問メッセージ——聖霊の促しに従う
- 30 出エジプトの再現 十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
- 40 トンガ——信仰篤き人々の国 ラリーン・ポーター・ガーント
- 48 『リアホナ』2002年4月号の活用法

青少年

- 14 どのように悔い改めたらよいか知っていますか
七十人 ジェイ・E・ジェンセン
- 18 末日聖徒の声——「希望の輝き」
すべて元どおりに キャサリン・マッシューズ・パビア
闇からの救出 ヘリ・カストロ・ベリース
- 22 リアホナ・クラシック——平和な港の光 ハワード・W・ハンター大管長
- 26 質疑応答——貧しい人が多いこの世で富を持つことは、
道徳に反することでしょうか
- 29 ポスター——よろいを身に着けて！
- 47 御存じでしたか？

フレンド

- 2 預言者と使徒たちの言葉——イエス・キリスト
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老
- 4 秘密の活動 ステーシー・ラスムッセン
- 7 おもちゃばこ——むかしと今 リチャード・ラッタ
- 8 新約聖書ものがたり——いなくなったむすこ
- 13 歌——聖なる神殿 マービン・K・ガードナー、バンジャ・Y・ワトキンス
- 14 分かち合いの時間——もっとも大いなるたまもの ビッキー・F・マツモリ

2ページ参照



「フレンド」2ページ参照



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。
アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギリシャ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイノン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：デニス・B・ノイエンスンバスター

顧問：J・セント・ジョリー、W・ロルフ・カー、ステイブン・A・ウェスト

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン

企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー

グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーグ

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：ジェニファー・L・グリーンウッド

編集副主幹：ロジャー・テリー

編集補助：スーザン・バレット

出版補佐：コレット・ネベカー・オウン

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ

アートディレクター：スコット・バン・カンペン

デザイナー主任：シェリー・クック

デザイナー：トーマス・S・チャイルド

制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ

制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニース・カービー、ケリー・ブラット、ローランド・F・スピークス、カリ・A・トッド、クラウディア・E・ワナー

デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、『リアホナ』予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留が郵便振替

(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 明文社

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines April. 2002.

Japanese. 22984 300

For Readers in the United States and Canada:

April 2002 no. 4. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese

(ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

読者からの便り



宣教師の愛が奇跡を生んでいます

アルメニアで非常に謙遜に働いているすべての末日聖徒にわたしの愛を伝えてください。わたしは今、無限の喜びを感じています。自分の神を見いだしたからです。この力強い愛に満たされて、アルメニアで奉仕するためには来る来てくれたたくさんの兄弟姉妹と知り合いました。彼らは、わたしたちの町々や村々でその愛を分かち合っています。わたしたちはこの愛にむとんちやくを装うことなどできません。そしてこの愛は、荒廃し、希望を失ったわたしたちの心に、すばらしい奇跡を起こしてくれています。完全な幸福とは、救い主イエス・キリストから受ける愛の中に見いだされることを証します。

アルメニア・ヤレバン地方部,

アチャブニャク支部

シルバ・カチャトリアン

カザニに起こった奇跡

わたしはロシアのカザニに住んでいますが、故郷はアルメニアです。今17歳で、1999年6月13日にバプテスマを受けました。カザニに教会ができて数年になります。宣教師や指導者たちは、教会を正式に登録するために長い間努力しましたが、それは決してたやすいことではありませんでした。ようやくわたしたちの祈りがこたえられました。奇跡が起こったのです。今では教会堂が

あります。奇跡は起こり得ることを知っています。「神は奇跡の神であることをやめてはおられない。」(モルモン9:15) 天のお父様の業が地の全面に広がっていることに感謝します。

ロシア・サマラ伝道部,

カザニ支部

レリット・カラペトヤン・デボソボナ



『リアホナ』それは祝福です

わたしの人生に『リアホナ』(スペイン語版)があることは祝福です。『リアホナ』は自分の過ちを正し、救い主にもっと近づくのを助けてくれます。主はわたしと家族のために多くの助けを与えてくださっていますが、『リアホナ』もその一つです。『リアホナ』を読むとき、主の御霊の影響を感じ、主がわたしに何をするように望んでおられるのかが分かります。このすばらしい機関誌を手にとると、神がその子どもたちに抱いておられる偉大な愛を感じ、預言者の言葉や、世界中の会員たちの経験から靈感を受けます。

ペルー・チクラヨステーク,

サンタビクトリアワード

ケーラ・アラプリン・コロネル



靈感を伝える言葉

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー



救い主、イエス・キリスト

「わたしたちが所属しているこの偉大で驚くべき教会は、主がパレスチナのほこりっぽい道を歩まれたときに御自身で定められた諸原則を基として設立されました。神の御子は御自身を低くしてこの世に來られ、ベツレヘムの粗末な馬屋でお生まれになったのです。……主の生涯の奇跡は筆紙に尽くし難いものです。主は贖罪の業によってわたしたち一人一人のためにカルバリの丘でその命をささげられました。その贖罪はわたしたちが実際に理解できる以上の大いなるものです。わたしたちの犯す罪のために、主は御一人で血を流してくださいました。こうして主は、わたしたちが悔い改めの機会にあずかり、赦しを願うことができるようにしてくださったのです。」(1999年3月21日、エルサレムセンター、集会)

「わたしたちの犯す罪のために、
主は御一人で血を流して
くださいました。こうして主は、
わたしたちが悔い改めの機会にあずかり、
赦しを願うことができるようにして
くださったのです。」

主を信じる信仰

「主イエス・キリストを信じる信仰。聖典、すなわち新約聖書、モルモン書、教義と聖約を読んで信仰を絶えずはぐくもうとしていない人、また神の御子、わたしたちの贖い主、わたしたちの主に対して心に信仰を絶えず築こうとしていない人が、今ここには一人もいないことを、わたしは希望しています。」(1998年4月25日、合衆国オハイオ州コロンバス、集会)

死後の生活

「この世の生涯に関して言えば、わたしはやがて死ぬでしょう。わたしはこのことを、この世における事柄と同じように確かに知っています。しかしわたしは、自分が生き続け、善を行い、愛する伴侶や子どもたちとの交わりがあるということについて、心の中に絶対的な確信を持っています。」(1999年7月31日、エクアドル、グアヤキル、集会)

不死不滅

「この世の生涯は永遠の一部です。この世の生涯は永遠の生活の一つの段階です。わたしたちは死んでも、目的があり、活気のある、チャレンジに富んだ生活を続けます。幕のかなたでの生活はここでの生活に多少似ています。ここで清らかで、親切で、善良であったならば、わたしたちはその同じ精神で生き続けます。もしも不正直であったならば、その同じ精神を持ち続けます。わたしはそのことを信じています。わたしは命が永遠であることを信じています。わたしは現在知っている事柄と同じくらい、次のことを信じています。すなわち、現世での死がすべての終

わりではなく、死後に別の生活があること、わたしたちには将来、御父である神と主イエス・キリストに現世での生活について報告する義務があること、次の世でもなすべき業があること、全員いつの日か復活にあずかることです。それはわたしの希望であり、わたしの信仰であり、わたしの証です。」(1997年11月7日、『エルパソ』[El Paso]紙、イグナチオ・カリオンとの会見)

死者のためのバプテスマ

「皆さんは12歳になると、主の宮に行き、亡くなった人のためにそこで生者としての代理人になれます。普通の少年や少女である皆さんが、かつてこの世に住んでいた偉大な男女の身代わりになれるとは何と驚くべきことでしょう。こうした偉大な人々は、皆さんが与えることのできるその祝福がなければ今は先に進む力がないのです。……皆さんにとって、幕のかなたに行った人々に大いなる奉仕をする代理人となること以上の大いなる祝福はありません。主の神殿に参入してそこでほかの人々に代わってバプテスマを受けるにふさわしい生活することは、皆さんの特権であり、皆さんの機会であり、皆さんの責任となるでしょう。」(1999年7月31日、エクアドル、グアヤキル、集会)

神殿推薦状を所持するにふさわしい生活をする

「神殿推薦状を持つにふさわしい生活をしてください。神殿推薦状以上に貴いものはありません。……頻繁に神殿に行くことができても、あるいはできなくても、神殿推薦状を得るにふさわしくあり、推薦状を常に携帯してください。それは末日聖徒として皆さんに何が期待されているかを思い出させてくれることでしょう。」(2000年1月31日、グアム、集会)

イエス・キリストの教会

「わたしたちは、主イエス・キリストの御名を受けている教会です。主イエス・キリストについて証し、また主の模範と教えに従おうと努めています。わたしたちは愛を与えます。平和をもたらします。ほかの教会を損なうようなことはしません。ほかの教会が行っている善行を認めます。多くの事業をほかの教会とともに行ってきました。これからもそれを続けます。わたしたちは主の僕としての務めを担っています。全能者の助けがなければ行っている事柄を成し遂げることはできません。そのことを承知しています。わたしたちの御父、わたしたちの神、またいつも助けてく

ださる御方として全能者に頼り、個人の心を変えることで世界をより良くしていこうと努めています。」(2000年3月8日、全米記者クラブに向けた話)

静かで厳粛な信仰

「仕事に取り組むとき、また指導者の責任を引き受けるとき、皆さんが心の中に、……静かで厳粛な信仰、すなわちあらゆる嵐や困難の中でも保たれ、平安を招く信仰を持続けることができますように。」

2マイル、放蕩息子、良いサマリヤ人の教え、また贖罪の大いなる犠牲によって御自分の命を差し出された神の御子についての教えが、引き続き皆さんを啓発するものとなるよう願っています。」(2000年9月12日、ブリガム・ヤング大学同窓会、ディボーションナル)

もう少し確固として立ってください

「もう少し確固として立ってください。もう少し一生懸命に働き、また末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として頂いている驚くべき祝福をもう少し大いなるものとして尊重してください。そうすれば、会員であることによって、神の御子、世の救い主、主イエス・キリストの神性について力強く、かつ心を動かす証が得られます。」

皆さんもわたしも、神の息子、また娘です。わたしたちの中には神性のいくばくかが備わっています。兄弟姉妹の皆さん、確固として立ちましょう。福音に従って生活しましょう。教会の中で懸命に働きましょう。教会の教義を学びましょう。教会の教えから養いを得ましょう。世の人々の前で信仰と忠実さを増しましょう。」(2000年1月26日、オーストラリア、ケアンズ、集会)

イエス・キリストのまことの福音

「イエス・キリストのまことの福音は決して偏狭な信念を教えません。決して自己欺瞞を教えません。決して傲慢を教えません。イエス・キリストのまことの福音は、兄弟愛、友情、ほかの人々への感謝、尊敬と思いやりと愛をはぐくみます。」(2000年9月12日、ブリガム・ヤング大学同窓会、ディボーションナル)

皆さんが知っていることをわたしは知っています

「皆さんはこの福音が真実であるということを知っています。わたしはそのことを知っています。わたしにはこの業についての証があります。しかし、そのことは、皆さんが

この業について証を持っていることに比べると重要ではありません。わたしがこの業は真実であると知っているように確かに、皆さんがそれは真実であると知っている、わたしは信じています。わたしが永遠の父なる神は生きておられると知っているように皆さんも知っている、わたしは信じています。イエスはキリスト、生ける神の御子であり、この世に来て自ら死すべき体を得て、わたしたち一人一人のために大なる犠牲としてカルバリの十字架上で亡くなり、3日目によみがえられた御方である、とわたしが知っているように、皆さんも知っています。わたしはそう確信しています。イエス・キリストがよみがえられたように確かに、わたしたちもよみがえります。」(2000年6月13日、タイ、バンコク、集会)

神は皆さんを祝福してくださいます

「信仰の陽光がいつも皆さんの心にぬくもりを与えますように。これまでと同じように、強さと能力を増すことができますように。ほかの人々に皆さんが手を差し伸べる働きが良いサマリヤ人の働きかけのようでありますように。皆さんが提供する奉仕が人々の生涯に良い実りを生じますように。祈りが日々の活動の一部となりますように。読書が知識を啓発し、理解力を増しますように。お互いに対して誠実かつ忠実でありますように。また、歳月の経過と

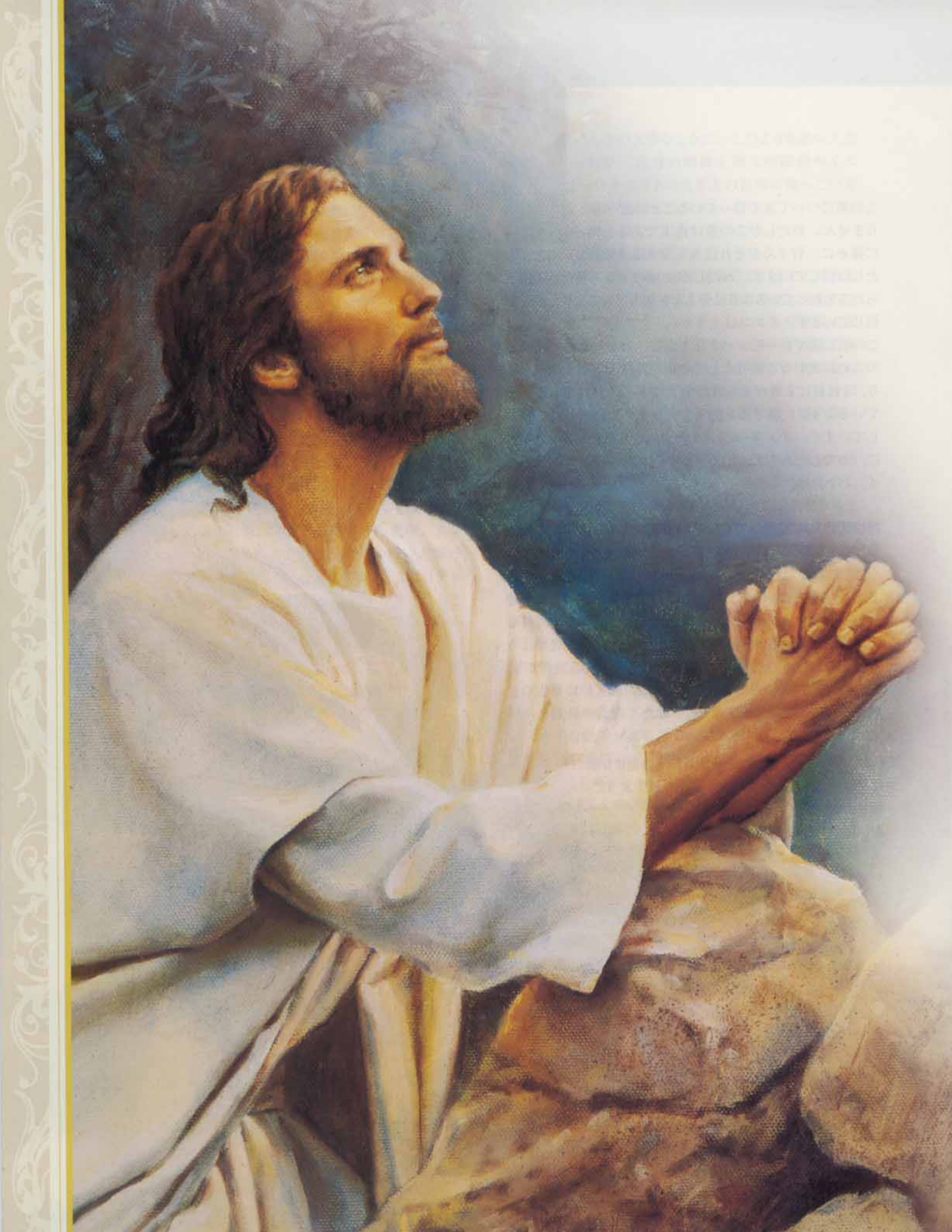
**「ほかの人々に皆さんが手を差し伸べる働きが良い
サマリヤ人の働きかけのようでありますように。
皆さんが提供する奉仕が人々の生涯に
良い実りを生じますように。」**

ともに、人知では測り知ることのできない平安、すなわち主の教えに従うことから来る平安を享受することができますように。」(2000年9月12日、ブリガム・ヤング大学同窓会、ディボーションナル)□

ホームティーチャーへの提案

1. 主の僕たちが語る事柄について、主はこう述べられました。「何であろうと聖霊に感じて語ることは、……主の心となり、主の思いとなり、主の言葉となり、主の声となり、救いを得させる神の力となる。」(教義と聖約68:4)
2. ここに述べられている抜粋の中から選んで、あなたが教える個人や家族と分かち合ってください。





偉大な栄えある 贖罪^{しよくざい} を証^{あかし}する

贖罪を自分で理解して信じていれば、皆さんもわたしも、よりいっそうの感謝と愛と力をもって贖罪について教え、証することができます。

十二使徒定員会

ニール・A・マックスウェル



宣教師の教える内容は平易で簡潔なものです。そのことについて考えるとき、福音の回復が

とてもすばらしい刈り入れの籠^{かこ}であることが頭に浮かびます。イエスは、与えるときには「量をよくして」与えるように求めておられます。押し入れ、揺すり入れ、あふれ出るばかりになった刈り入れの籠のたとえでそう教えられました(ルカ6:38参照)。しかしながら、驚くべきその刈り入れの籠からわたしたちが教える真理や概念は、ほんのわずかしかなのです。

この事実について考えるとき、御霊^{みたま}の必要性を痛感します。わたしたちがメッセージを伝えるとき、御霊はそれを、聞く人の思いと心にしみ込ませてくださいます。永遠についての偉大な事柄は、ほんの短い教えるひとときに伝わるからです。ですから、語るときには御霊が伴わなければならないのです。

教会員としてあるいは専任宣教師として福音を分かち合うときに必要なのは、友人や求道者が、わたしたちの内にあるイエス・キリストへの確信と証を感じるることなのです。確かに、大切な概念を教えています。だからこそ、力強いその教義への深い確信を伝えるべきなのです。

贖罪の祝福を完全に受けるよう人を備えるときに最も大切なのは、伝える人自身が贖罪を理解して信じることです。贖罪を自分で理解して信じていれば、皆さんもわたしも、よりいっそうの感謝と愛と力をもって贖罪を教え、証できます。

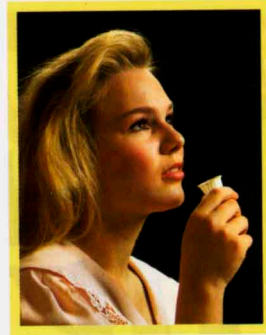
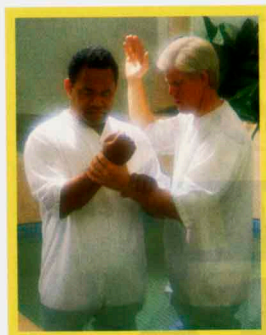
悔い改めにより可能になる

イエスの贖罪は人類史上最も重要な行為です。贖罪により全人類は復活し、個々人が悔い改め、赦されるようになりました。わたしたちは皆、「罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」(ローマ3:23)、悔い改めの必要性

は万人に共通しています。加えて、キリストの贖罪は憐れみ深いことに、あらゆる重さの罪に及びます。軽い不作為の罪にも、重大な罪にも及ぶのです。ですから、罪を捨てるときに、どのような罪であるかは個人個人で異なりますが、万人が罪を捨てなくてはならないのです。

悔い改めを意味する英語の“repentance”は、ギリシャ語では「心の変化という意味、すなわち、神について、自分自身について、世界について、まったく新しい見方をすること」です(Bible Dictionary, “Repentance,” 760)。つまり、考え方が変わり、次に行動が変わり、罪を捨て、神の戒めに服従するようになるのです。心が変わるとは、パウロの言う「キリストの思い」に向かって実際に歩み続けることを意味します(1コリント2:16)。すなわち、悔い改めとは段階に従いながら継続するものなのです。真の救い、真の赦し、真の進歩^{あがな}を与える贖いの効力を受けるために、人は皆悔い改める

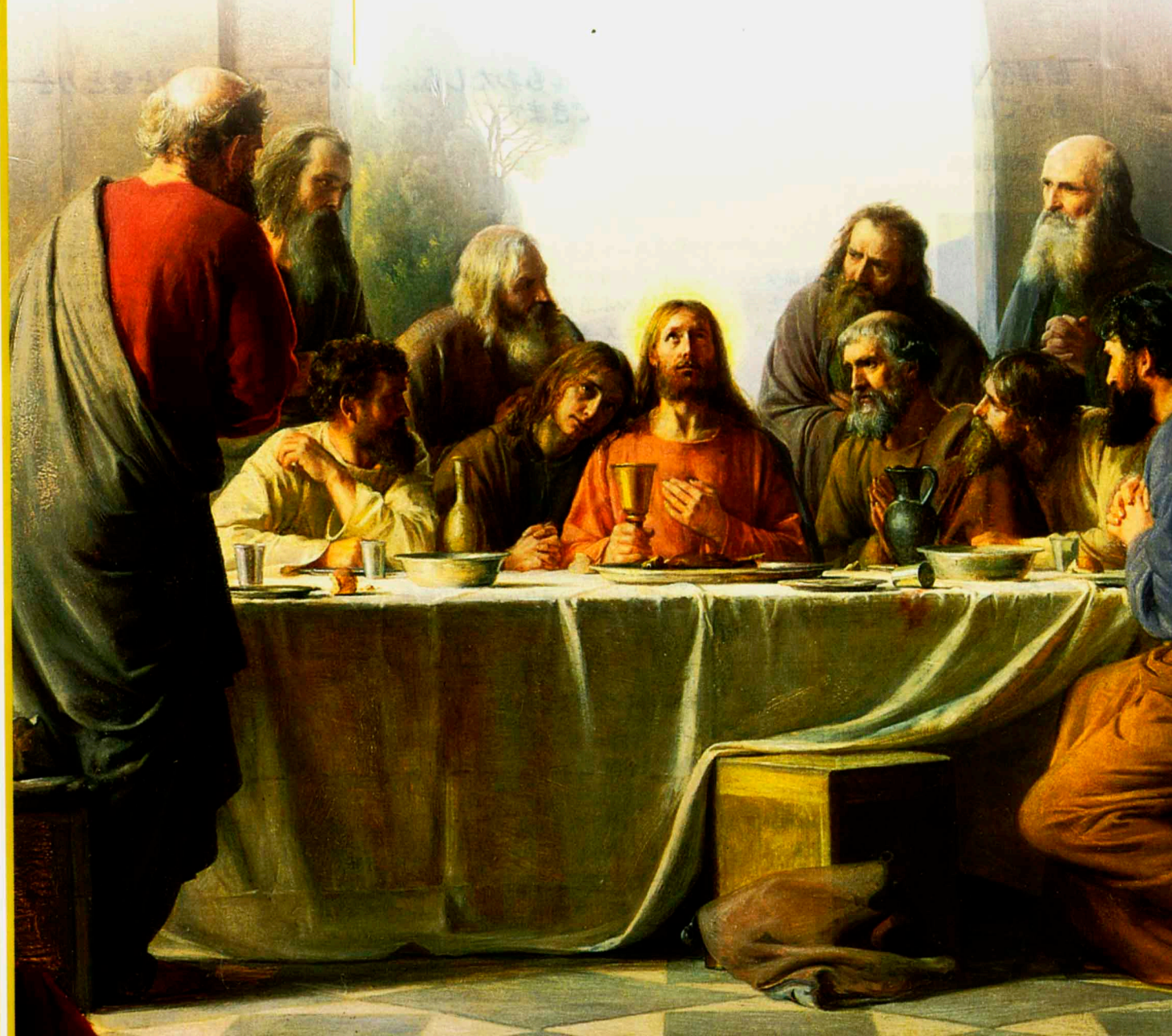
人はバプテスマを受けた後も続けて強められます。定期的に、^{じふくさい}贖罪について熟考しながら、^{せいさん}聖餐を受け、聖約(バプテスマのときの聖約も含む)を新たにすることにより、さらに強められるのです。



必要があります。

キリストは比類ない大きな賜物^{たまもの}を一つ、無条件で惜しみなく与えてくださいました。全人類の復活という賜物です。しかしながら、さらに大きな賜物である永遠の命については、条件付きで差し

出しておられます。キリストは立法者として、この偉大な賜物を受ける条件を定められました(3ニーファイ11:31-41; 15:9-10; 27:13-21参照)。それによって、永遠の命へ向かって進歩するには、キリストに喜んで従うことが求





められています(モーサヤ3:19参照)。
さらに、もし心から忠実で、最後まで
堪え忍ぶなら、わたしたちの意志は「御
父の御心^{みこころ}にのみ込まれ」るのです(モー
サヤ15:7参照。3ニーファイ11:11も
参照)。

しかし、そのような大きな変化を遂げ
るには、まず初めに「自分の罪をすべて
捨て」なくてはなりません(アルマ22:
18)。そして、イエス以外に一体だれが
罪を取り除いてくれるのでしょうか(アル
マ36:18-20参照)。

福音を宣べ伝えることが急務である
のはそのためなのです。ハンター大管
長(1907-1995年)は次のように宣言し
ました。

「個人が改心したかどうかは、福音を
人々に分かち合う望みで量ることができ
ます。主がすべての教会員に宣教師に
なる義務を授けられたのはそのためで
す。

贖罪の恩恵に浴した人は救い主につ
いて忠実な証を述べる義務があります。
主は言われました。『わたしはあなたが
たの罪を赦して、この戒めを与えるから
である。すなわち、あなたがたは、あ
なたがたに知らされたこれらのことを世
のすべての人に証するために、厳粛に、
また折りの精神をもって、あなたがたの
思いを確固としていなさい。』(教義と聖
約84:61) (“The Atonement and
Missionary Work” [新任伝道部長のた
めのセミナー, 1994年6月21日]2)

このように、「[わたしたちに]知らされ
たこれらのことを世のすべての人に証す
るために……思いを確固として」いなく
ればなりません(教義と聖約84:61)。
わたしたちに必要な赦しが得られるか
どうかは、主の業の中で確固としてい
るかどうかにかかっているのです。

バプテスマと聖霊の賜物

真の悔い改めはバプテスマによる解

放の力を必要とします。バプテスマに
よってわたしたちは清められます。過去
に犯した罪がもはや将来の自分に影響
を及ぼさないとは、何という憐れみでし
ょうか。

バプテスマによる清めと解放を受け
た後で、聖霊の賜物を授かることによ
り、さらに強められます。正義を選ぶ
には聖霊の助けが是非とも必要です。
聖霊は、記憶という説教壇から必要な
教えを授けてくださいます。福音の真
理を証してくださるのです。

目的地にたどり着きたいと思うなら、
聖霊という伴侶^{はんりよ}が常に必要です。時折
力を頂くだけでは不十分です。

人はバプテスマを受けた後も続けて
強められます。定期的に、贖罪につい
て熟考しながら聖餐を受け、聖約(バプ
テスマのときの聖約も含む)を新たにす
ることにより、さらに強められるのです。
イエスの贖罪を自分自身に適用させる
なら、この解放と強化のプロセスが可
能になります。わたしたちが教えている
人々に当てはまるように、わたしたち自
身にも当てはまるのです。わたしたちは
最後まで堪え忍ぶ間に、自己を進歩さ
せるために定期的に贖罪を自分自身に
適用させるべきなのです。着実な進歩
の道(それはまさに弟子として歩む道で
す)を歩む選択をすると、人はもっと義
にかなう者になることができます。イエ
スに対するかつての単純な認識は、イ
エスへの敬愛に、さらにはイエスへの
崇拜に変わります。最終的にわたした
ちはイエスと類似あるいは同一の行動
を取るようになるのです。着実な進歩
の道を歩み、主にもっと近づく努力を続

主は言われました。「わたしはあなたがたの罪を赦して、この戒めを与えるからである。すなわち、あなたがたは、あなたがたに知らされたこれらのことを世のすべての人に証するために、厳肅に、また祈りの精神をもって、あなたがたの思いを確固としていなさい。」

けるなら、悔い改めの気持ちで生活しなければなりません。たとえ重大な罪がなくてもです。

キリストのような属性を伸ばす

背きを捨て、もっと愛情深く、もっと柔和に、もっと忍耐強く、もっと従順になるよう努力するなら、ほとんどの人に残るのは小さな不作為の罪だけです。目立たないとはいえ、それも捨てなければなりません。それらに取り組むのと並行して伸ばさなければならない属性として、イエスは、信仰、徳、知識、節制、忍耐を挙げられました。さらに主は、信仰、希望、慈愛、神の栄光にひたすら目を向けるという属性を挙げ、それが主の業に働く者の資格であると告げられました(教義と聖約4:5-7;2ペテロ1:4-8参照)。主の偉大なその業を効果的に行えるよう、御霊の賜物である先に挙げた属性を受けることを、求め、探し、たたくように勧告されているのです。当然のことです。弟子としてこの道を歩むすべての人は、常に贖罪が絶対必要不可欠であることを忘れるようなことがあってはなりません。

一例を挙げます。イエスは御自身のもとに来るようと言われました(アルマ5:34;マタイ11:28-30参照)。しか



し、皆さんもお気づきのように、イエスのもとへ行くよう努力すると、自分の弱さをもっと明確にイエスに教えられます。痛みを伴うこともあります。しかし主は、そのときにわたしたちの進歩を促してくださるのです。弱さを強さに変えるという約束さえキリストは与えておられます(エテル12:27参照)。

弟子としての道を歩むために自分が置かれる場所、国、時、環境については、聖文にあるように、与えられたものに満足すべきです(アルマ29:3, 6参照)。しかし、神からの靈感によって感じる不満もあるのです。それはイエスに近づこうと努力する人を激励して前進させるもののなのです。

伸ばす必要のある属性が、元気を出すこと、忍耐、従順、柔和、愛のいずれであっても、努力の段階で聖霊の助けが常に必要です。例えば、夫婦関係、宣教師時代と同僚関係、そしてその他の関係において、高慢になりすぎたとき、短気になりすぎたとき、愛情表現が少なくなったとき、聖霊は悔い改めを促してください。しかし、このような経験には常に苦痛が伴います。ですから、その苦しみをくぐり抜けるときに人はまた、聖霊の慰めを必要とするのです。

憐れみ深くも赦しが得られるのは、確かにイエス・キリストの贖罪のおかげです。しかし、赦されたと確信できるのは、聖霊のおかげなのです。赦されたと確信することは、途方もなく大切です。希望を失ったり、「罪の中でしおれ」たりする必要はありません(2ニーファイ4:28)。間違いなく、「希望の輝きを持ち……進」むことができるのですから(2ニ

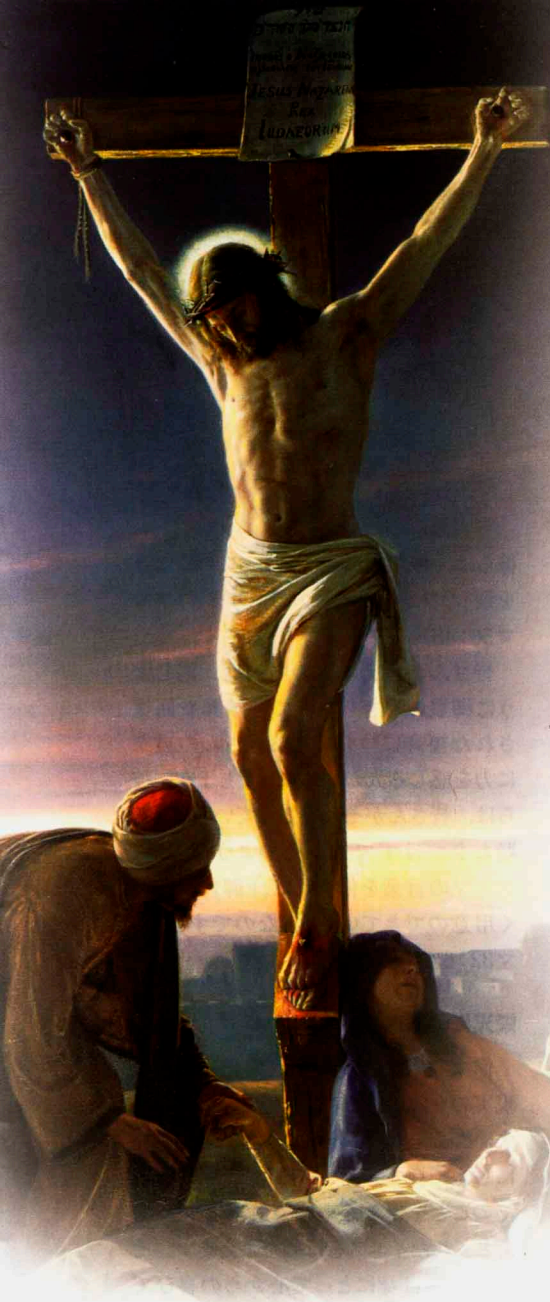
ーファイ31:20)。

キリストの再臨と人の復活

キリストが持つておられる様々な徳を身に付け、伸ばすことの大切さを覚えておくために、もっと助けが必要なら、栄光に満ちた主の再臨のことを考えるとよいでしょう。そのときには、劇的にも、星が天から落ちます。しかしだれ一人そのことを語りはしないでしょう。人々が声に出して驚嘆するのは、イエスについてだからです。人々が賛美しながら語るのは、イエスの数々の属性の中の二つの属性についてだからです。その二つの属性とはイエスの慈しみとイエスの愛にあふれた優しさです(教義と聖約133:52参照)。覚えていてください。そのときわたしたちは、キリストに対する信仰を持つようになるだけではありません。わたしたちは、慈しみと愛にあふれた優しさという点でもっと主に似た者になる努力をするようになるのです(3ニーファイ27:27参照)。

再臨の時に、イエスはいばらの冠や恐ろしい鞭、十字架、苦みを混ぜたぶどう酒などに耐えたことは語られません。しかしイエスは、恐ろしい孤独について語られます。「そして、主の声が聞かれる。『わたしは独りで酒ぶねを踏み、……だれもわたしとともにいなかった。』」(教義と聖約133:50。イザヤ6:33も参照)

贖罪がキリストの福音のまさに核心であることに疑いを挟む余地はありません。事実、回復のメッセージの中心はイエスと復活であり、古代のエノクへの次の預言の成就でした。「また、わたし



喜んでふさわしく生活したりふさわしさを証明したりする人々に、神の最も大いなる賜物である永遠の命が授けられることは、何と重要なことでしょう(教義と聖約6:13;14:7参照)。

逆境

救いを達成する歩みの中で、人は逆境にも立ち向かわなければなりません。皆さんもわたしも、繰り返し繰り返し、苦しい経験に出遭う度に、なぜ偉大な贖罪を喜ぶのか、なぜ偉大な贖罪について深く考えるのか分かることでしょう。幾つかの聖句がこのことに特に関連していて、平安を与えてくれることが、経験から分かりました。苦難の中にある人とともに読むとき、それらの節はわたしが考えつく言葉よりもはるかに良いものです。特に、耐えられないほど長期にわたって病氣と闘っている勇敢な人々には良い言葉です。

まず、ニーファイが当惑しながら語った非凡な言葉をよく考えてください。「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが、すべてのことの意味を知っているわけではありません。」(1ニーファイ11:17)神がわたしたちを愛してくださっていることを知ってさえいればほんとうに、人はすべてのことの意味を知る必要はないのです。

同様に、ベニヤミン王の言葉にあるように、神に対してさらに従順になる必要があります。それによって、「主なるキリストの贖罪により……聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負

わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従うようになるのです(モーサヤ3:19)。

ベニヤミン王の「負わせる」という言葉を読むと、特別な従順さが求められる個人的なチャレンジや訓練が思い浮かびます。

同様に、イエスがわたしたちに対して個人的に持っておられる完全な思いやりを知れば、様々な種類の痛みに耐える力が大いに増します。

キリストは「あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ7:11-12)

イエスは十分に理解してくださいませ。イエスは完全に共感してくださいませ。イエスは助ける方法を御存じなのです。

贖罪の祝福

要するに、イエス・キリストの贖罪は多くの方法でわたしたちを祝福することです。贖罪を通して、しかも贖罪を通してのみ、罪が赦され、束縛から解放され得るのです。

贖罪はまた、個人的な意義深い進歩を可能にします。そのためには、イエ

は天から義を下そう。また、地から真理を出して、……」どうされるのでしょうか。「わたしの独り子と、死者の中からの独り子の復活と、またすべての人の復活について証しよう。」(モーセ7:62)贖罪以上に福音の中心と呼べるものはありません。

まさに、「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった」のです(ヨハネ3:16)。天の御父の、御自分の子どもたちに対する最も深い愛を表しているのは、イエスとイエスの贖罪です。全人類に復活が無条件で与えられることは何と重要なことでしょう。また

スに、贖罪に、そして御父の救いの計画に対して、モルモン書が「悔い改めを生じる信仰」と呼ぶ信仰を持たなければなりません(アルマ34:15-17参照)。悔い改めを生じる信仰を持つことができなければ、間違った結論を下し、「なぜわざわざ悔い改めなければならないのか」と言うことになるでしょう。「絶望は罪惡のために生じる」という聖文の言葉に異論を挟む余地はないのです(モロナイ10:22)。対照的に、贖罪は、大切なものを失い、自分の十字架を負い、悲しみに遭い、失望に苦しまさにそのときに、「希望の輝き」を与えるのです(2ニーファイ31:20)。

メリッサ・ハウズは、贖罪の中心的な祝福である気高い従順さを示してくれました。メリッサは父親が癌で亡くなる少し前に祈ったとき、家族を導きました。当時メリッサはわずか9歳で、メリッサの父親は43歳でした。私心のないメリッサ・ハウズの嘆願の言葉についてよく考えてください。メリッサの母親が伝えてくれたメリッサ自身の言葉です。「天のお父様、パパを祝福してください。でも、天のお父様がどうしてもパパを連れて行かなければならないのであれば、パパのことがわたしたちよりももっと必要でしたら、パパを連れて行かれてもかまいません。わたしたちはパパにここにいてほしいです。でも、お父様の御心が成りますように。そして、わたしたちが天のお父様のことを怒ることのないように、助けてください。」(クリスティー・ハウズからの手紙、1998年2月25日付)

救いの計画についてこのような理解

がなく、神に腹を立てる人が何と多いことでしょうか。栄えある贖罪に対して神とイエスに感謝を抱くべきなのに。

贖罪は天の御父とイエスの愛を崇高に表しています。しかしそれに加えて、贖罪は、わたしたちへ向けられた神とイエスの個人的な愛を理解させます。

主の御霊の及ぼす力

わたしたちは決して御霊の力を過小評価してはなりません。御霊の力はわたしたちが持っている教授能力や教授技術以上に人の魂を揺さぶります。御存じのように、アルマがひどい苦痛にさいなまれていたとき、それが起こりました。そのときアルマは何を思い出したのでしょうか。父親がイエスの贖罪について語った言葉を思い出したのです。「心にこの思いがはっきりと浮かんできた」とアルマは言っています(アルマ36:17-18参照)。

同様に、御霊はあなたの証を聞く人を助け、あなたの言葉をはっきり理解できるようにして下さいます。聞く人が思いと心で理解できるように助けてくださるのです。贖罪など、王国の深い教義に関する言葉の場合、特にそれが起こります。

霊を鼓舞する話がもう一つあります。繰り返し教えることの大切さを思い起こさせる話です。ニーファイの民の兵士として若者たちが戦争に出る前に、母親たちは息子たちが特別な約束を受けていることに気づきました。息子たちは母親たちほど霊的に成熟していませんでした。しかし彼らはそのあまりにも劇的な約束に勇気づけられていました。

彼らは、「母たちがそれを知っていたことを疑」わなかったと書いてあります(アルマ56:48)。

皆さんが教える人の中には、同じように御霊の導きを受けて、贖罪や回復された福音について語る皆さんの言葉に力を感じる人がいることでしょう。彼らは、皆さんがそれを知っていることを疑わないはずです。そのような人は、アルマの言葉を借りれば、「御言葉を聞く用意のできている」人なのです(アルマ32:6)。

栄光に満ちた贖罪

偉大な栄えある贖罪が栄光に満ちた現実のものであることを皆さんに証します。わたしはその身に受けられた苦痛に耐えてくださったイエスを、またすべてのことを悟るために万物の下に身を落とされたイエスをほめたたえます。そして、御自身にとって心からの喜びである長子、愛する独り子の苦しみをすべて目撃しながらその時を耐えられた御父をほめたたえます。その瞬間に、あらゆる苦しみと経験を共になさった御父をほめたたえます。

ゲツセマネからカルバリまでの決定的な時間にイエスが行われたことが、ほんとうに人類に不死不滅への道を開いたことを証します。主はその言葉どおり、人の子らへの備えを終えられました(教義と聖約19:19参照)。偉大な贖罪の祝福を求めるか否かは、今や死すべき人にゆだねられているのです。キリストとその贖罪への感謝の念は、何年、何十年と時を重ねるごとに深まっていくことでしょう。それはとどまることを知

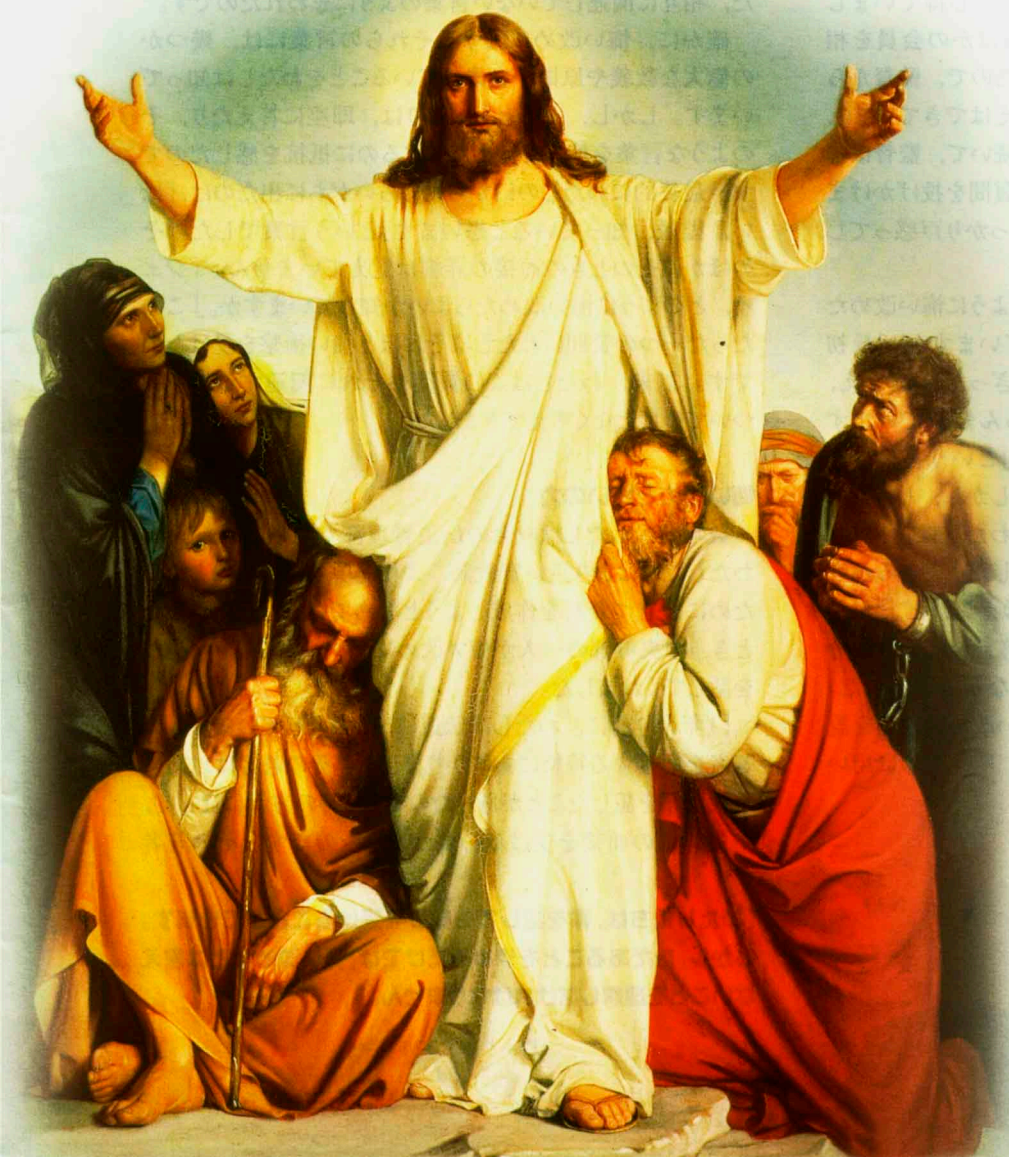
りません。聖文には、わたしたちが主を永遠から永遠にわたってほめたたえると預言されています(教義と聖約133:52参照)。

栄光に満ちた偉大な贖罪について以上のように主をほめたたえます。わたし

がすべての人に対して主に願う祝福はこれです。わたしたちが個人的にあの偉大な贖罪の数々の祝福を求めるようになりますように。そして、わたしたちの教えを通して、人々が同じ祝福を求めるようになりますように。贖罪を勝ち

得るには、先に述べたとおりに大いなる代価が払われました。確かに「主のほか
に罪を贖い得ず」(「街を離れたる青き丘
に」『賛美歌』110番)とあるとおりです。
□

1999年8月29日にユタ州プロボの宣教師訓練センターで行われた改宗と定着に関する教会衛星放送から。



キリストとその贖罪への感謝
の念は、何年、何十年と時
を重ねるごとに深まっていくこと
でしょう。それはとどまることを
知りません。聖文には、わたしたち
が主を永遠から永遠にわたってほ
めたたえると預言されています。

どのように悔い改めたらよいか 知っていますか？



七十人 ジェイ・E・ジェンセン

20年前、監督から神殿推薦状の面接を受けていた時のことです。ステーク会長会の一員であった関係で、面接の際に聞かれる質問はすべて心得ていました。わたし自身、毎週ほかの会員を相手に同じ質問をしていたので、監督から尋ねられる質問の一つ一つに答える備えはできていました。しかし、いつもの定められた質問に続いて、監督は福音に関する理解度を確かめるもう一つの質問を投げかけました。思いがけない質問に、わたしはすっかり戸惑ってしまいました。

監督はこう尋ねました。「ジェイ、どのように悔い改めたらよいか知っていますか。」最初

に頭をよぎったのは「ええ、もちろん知っていますとも」という答えでした。しかし、しばらくの間わたしは沈黙し、考えました。ところが考えれば考えるほど、わたしは何と答えればよいか分からなくなってきました。

悔い改めの段階を説明するのに用い

る5つか6つの一般的な言葉（罪を認める、心に悔いる、償う、心を改める、決意するなど）では、十分でないような気がしました。実際のところ、そのときのわたしにとっては何の意味もありませんでした。あまりにも使い古された、相互に関連していない言葉のように思われたのです。

確かに、悔い改めに関するそれらの言葉には、幾つかの偉大な教義や原則が含まれていることをわたしは知っています。しかし、そのときばかりは、即座に答えたり、そのような言葉を使って答えたりするのに抵抗を感じたのです。最終的にわたしの口からためらいがちに出たのは、「はい、監督、知っていると思います」という言葉でした。そのほかにそのときの面接の詳細は覚えていません。「ジェイ、どのように悔い改めたらよいか知っていますか。」このたった一つの質問にわたしはそれほど強い衝撃を受けたのです。以来、わたしはこの質問やそれに関連する教義について幾度となく考えてきました。

悔い改めと^{あがな}贖いの力

数年前、わたしは教会の伝道管理部で働いていました。わたしたちはより良い宣教師、より成功する宣教師となるために役立つ資料を作成しようと努めていました。そんなとき、中央幹部の一人が悔い改めに関する次のような経験を話してくれました。

「1年余り前に、わたしは伝道に出ようとしている一人の若者を面接する特権にあずかりました。その若者は以前に重大な罪を犯したことがあったので、当時の方針に従って、中央幹部の面接を受ける必要があったのです。その若者

「わたしたちは、罪を犯しても^{ゆる}赦しを受けることができます。しかし、ただあることをやめるだけでは、悔い改めとは言えないことを理解しなければなりません。」



が部屋に入って来ると、わたしはこう尋ねました。『あなたは重大な罪を犯したようですが、その罪のために今回の面接が必要となりました。もし差し支えなければ、どのような問題だったのか話していただけますか。何をされたのですか。』

彼は笑いながら答えました。『ええ、まあ、ありとあらゆることはやりました。』わたしは尋ねました。『それでは、もっと具体的に話し合しましょう。あなたは以前に……。』それからわたしは具体的な質問をして徹底的に調べ始めました。若者は今度も笑いながら答えました。『だから言ったでしょう。全部やったって。』

わたしは尋ねました。『あなたはそのときに何度……。』若者は皮肉たっぷりに答えました。『ほくがいちいち回数を数えていたと思いますか。』わたしはこう告げました。『たとえできないにしても、考えてみてほしいのです。』若者はもう一度皮肉たっぷりに答えました。『できるわけないでしょう。』

わたしは尋ねました。『これはどうですか……。』今度は別の観点から掘り下げてみることにしたのです。若者は答えました。『さっき言ったじゃないですか。全部やったんですよ。』わたしは尋ねました。『麻薬もですか。』若者は非常に横柄な態度で答えました。『やりました。』わたしは尋ねました。『では、どうして伝道に出ようなどと考えるのですか。』若者は答えました。『出られると分かっているからですよ。「あなたは伝道に出ます」と祝福文に書いてあるし、ほくは悔い改めましたから。この1年間、以前にやったことを一つもやっていないんですよ。ほくは悔い改めたんです。だから伝道に出られると分かっているんです。』

わたしはこう言いました。『兄弟、残念ですが、あなたは伝道には出られません。戒めを一度も破ったことのない、あの清くて健全な若者たちと一緒にあなたを伝道に送り出せると思いますか。あなたが伝道に出て、自分の過去について自慢したり、得意げに話したりするのをわたしたちが許せると思いますか。あなたは悔い改めていません。ただ、あることをするのをやめたというだけです。』

あなたは、自分の人生のどこかで、自らのゲツセマネに足を踏み入れる必要があります。そこに行って初めて、悔い改めとは何なのかを理解できるはずですよ。そして、たとえ少しでも、救い主がゲツセマネで苦しまれたように苦しんだときに初めて、悔い改めとは何なのかを知ることができるはずですよ。人には決して理解できないような方法で、救い主はわたしたちの犯すすべての罪のために苦しまれたのです。それなのにどうして悔い改めについて笑ったり、ふまじめなことを言ったり、横柄な態度を執ったりできるのですか。申し訳ないのですが、あなたを伝道に出すわけにはいきません。』

彼は泣きだしました。何分間か泣いていました。わたしは一言も話しませんでした。最後に、若者はこう言いました。『こんなふう泣いたのは5歳のとき以来初めてだと思います。』わたしはこう言いました。『もし、あなたが初めて戒めを破るよう誘惑を受けたときに、今のように泣いていたとしたら、恐らく伝道に出られたでしょう。』

その若者は部屋を出て行きました。わたしのことをほんとうに残酷な人間だと感じたことでしょう。わたしは監督とステーク会長に、この若者は伝道には出られません、と告げました。』

それからおよそ6か月後、同じ中央幹部が夜に開催される講演会の話者として、再び同じ町を訪れました。話が終わったときに、たくさんの若い成人が握手をしようと列を作りました。その一人一人と握手をする中で、ふと見上げると、以前に面接をしたあの若者が列の4番目ぐらいに立っているではありませんか。この中央幹部は次のように話しました。

「わたしの心にあのときの面接の様子がすぐによみがえりました。あの若者の横柄な態度を思い出しました。皮肉たっぷりの言葉も思い出しました。間もなく、わたしのすぐ近くまで彼が来ました。わたしは壇下の所から前かがみになり、握手をしようと手を差し出しました。そのとき、彼が大きな変化を遂げたことに気づきました。彼の目には涙が浮かんでいました。その表情には神聖な輝きとも呼べるものを感じられました。彼はわたしの手を取り、こう言いました。『行きました。ゲツセマネに行って戻って来ました。』わたしは答えました。『分かります。あなたの顔を見れば分かりますよ。』

わたしたちは、罪を犯しても赦しを受けることができます。しかし、ただあることをやめるだけでは、悔い改めとは言えないことを理解しなければなりません。救い主と赦しの奇跡がなかったとしたら、この若者はいつまでも永遠に自分の罪を引きずっていたことでしょう。だからこそ、この赦しがあるからこそ、わたしたちは救い主を愛し、救い主に仕えなければならぬのです。」(ボーン・J・フェザーストン, Conference Report, スウェーデン, ストックホルム)





わたしたちはイスラエルの聖者の功德と^{あわ}憐れみと恵みによってのみ救われます。主はわたしたちの唯一の希望です。

ム地域大会, 1974年, 71-73を基に編集)

悔い改めの条件

「悔い改めの条件」(ヒラマン5:11; 14:11; 教義と聖約18:12参照)という言葉には深い意味があります。わたしはこの条件とは何なのかを知るために、聖文を研究し、深く考えました。その結果、この条件というのは、5つか6つの言葉で言い表される悔い改めの過程にとっての前提条件とも呼べるものであることが分かりました。悔い改めの過程は重要でほんとうに欠かすことのできないものです。しかし、その前提として、次のような条件を満たす必要があるのです。

■ 最初の条件とは神が生きておられることを知ることで、神は天におられます。神はわたしたち一人一人の名前を御存じです。神から隠れることはできません。神は、あらゆる知識を含め、神聖な特質と完全さに満ちた御方です。悔い改めを始めるためには、まず神がどのような御方であり、わたしたちとどのような関係にあるかということを知るところから始めなければなりません。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、悔い改めと神というテーマに関して深い洞察にあふれる言葉を引用しています。「ある人がかつてこう語りました。『悔い改めとは、人が神のみもとに近づこうとすると最初に感じる願望である。』」(“The Peaceable Things of the Kingdom,” *Ensign*, 1996年11月号, 83)

■ わたしたちは堕落し、死すべき運命にあり、汚れているので、助けが必要です。

■ わたしたちはいずれ必ず死ぬという教義を知る必要があります。早い時期に死ぬ人もいれば、年を取って死ぬ人

もいます。しかし、その日は来ます。絶対に来ます。

■ 最後の裁きがあります。悔い改めの大切な条件の一つは、いつの日かわたしたちすべては裁きの法廷に立つ、と信じることです。

■ もう一つの前提条件は、いかなる汚れた者も神とともに住むことができないと知ることです(1ニーファイ10:21; 15:34; アルマ7:21; 40:26; ヒラマン8:25参照)。監督に罪を隠すことはできます。両親や友人に隠すこともできます。しかし、罪を犯し続け、未解決の罪があるままで生涯を終えれば、汚れているということになります。いかなる汚れた者も神とともに住むことはできません。例外は一つもないのです。

■ わたしたちはイスラエルの聖者の功德と^{あわ}憐れみと恵みによってのみ救われます(2ニーファイ2:8参照)。主はわたしたちの唯一の希望です。最終的にわたしたちは自らの人生における自分の状態を知るときに、救い主に頼ります。わたしはイエス・キリストの回復された福音、希望のメッセージに感謝しています。希望があります。主はわたしたちを清めてくださるのです。

わたしは自分自身も含め、たくさんの人々の問題に取り組んできました。そして、赦しの奇跡、清めの奇跡を^ま目の当たりにしてきました。わたしは主の証人の一人として、主を^{あかし}証します。主が生きておられることを知っています。皆さんが神のもとへと続くまっすぐで狭い道からいつまでも離れることがないように祈っています。□

この記事は、1998年5月6日、LDSビジネスカレッジで行われたディボーションの説教を基に書かれました。

「希望の輝き」

十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老は次のように述べています。「救いを達成する歩みの中で、人は逆境にも立ち向かわなければなりません。皆さんもわたしも、繰り返し繰り返し、苦しい経験に出遭う度に、なぜ偉大な贖罪しよくざいを喜ぶのか、なぜ偉大な贖罪について深く考えるのか分かることでしょう。……



イエスがわたしたちに対して個人的に持つておられる完全な思いやりを知れば、様々な種類の痛みに耐える力が大いに増します。」(本誌、11ページ参照)  この世の試練や悲しみに打ちのめされてしまいそうなこともあります。試

練や悲しみには目的があります。わたしたちを救い主とその贖いあがなの祝福に導くという目的です。以下に掲載されている人々の経験が示すように、肉体的苦痛を抱えている場合でも、真理を見いだす切実な必要に迫られている場合でも、試しや逆境のためにわたしたちはイエス・キリストを求め、主の平安を探し求めるようになるのです。マックスウ

エル長老は次のように教えています。「贖罪は、大切なものを失い、自分の十字架を負い、悲しみに遭い、失望に苦しむまさにそのときに、『希望の輝き』を与えるのです。」(本誌、12ページ参照)

すべて元どおりに

キャサリン・マッシューズ・バビア

わたしが復活祭のために帰省したのは4年前が最後でした。ですから学校が休みになり、家族と復活祭の活動をするのを心待ちにしていました。台所で夕食の準備をしていた金曜日の夜、わたしは母が準備していた親族の集まりについて母に尋ねました。

母は野菜を切りながら言いました。「みんなはまた、あの湖に行きたいと言っているわ。でもね、去年6時間のドライブでね、……。」母が手を休め、言葉を詰まらせたので、わたしは顔を上げました。母の目からは涙がこぼれ、動

揺している様子が顔に表れていました。「わたし、死ぬかと思ったのよ。ほんとうに死んでしまうと思ったの。」

死の可能性について語る、優しく忍耐強い母に、わたしは何と声をかけていいかわかりませんでした。母の肩の震えが止まるまで抱き締めてあげたいと思いました。そして、必ず元気になれる、つまり、医師が病気の診断を下し、薬を処方してくれ、すべて元どおりにになれる、と言ってあげたいと思いました。でも、できませんでした。

母が病んでいたその年の間中、わた

しは断食し、祈り、主に懇願しました。死については考えないようにしていました。そして、母が衰弱し、苦しむのを目の当たりにしていました。母は苦しみを口にすることはありませんでした。母は夜も眠れず、座ることすらままならなかったで、ただひたすら、さらに頑張り続けました。痛みは心臓にまで達し、力を抜こうとする度に震えが起きました。間もなく目の周りにくまができ、目の奥にも疲れが見えるようになり、母が苦しんでいることは一目瞭然りょうぜんでした。

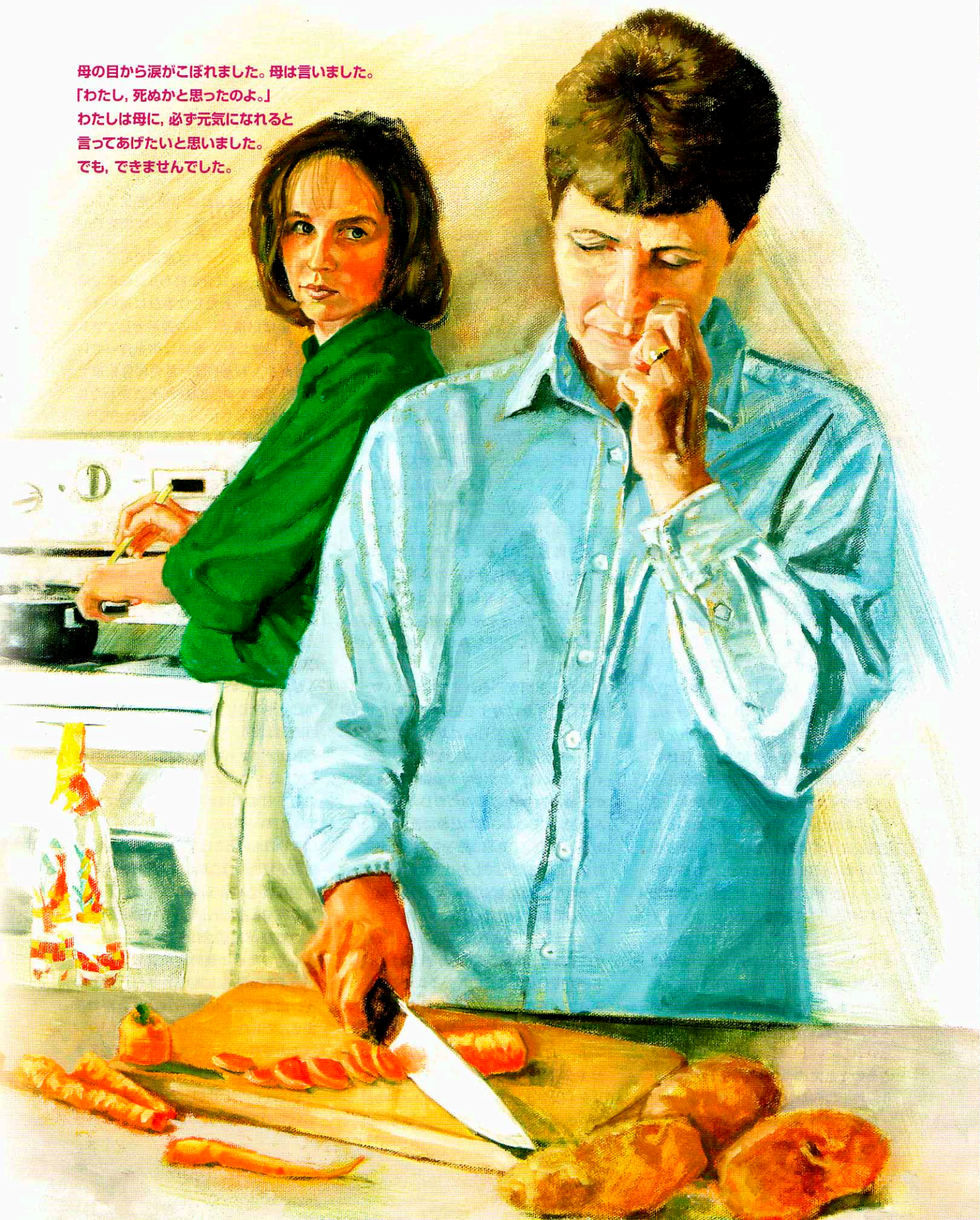
母の目から涙がこぼれました。母は言いました。

「わたし、死ぬかと思ったのよ。」

わたしは母に、必ず元気になれると

言ってあげたいと思いました。

でも、できませんでした。



そして痛みだけでなく、落胆にも襲われました。1年間通院し、検査を受け続けましたが、医師は心臓付近の激痛の原因を究明できず、母は疲労困憊こんぱいしていたのです。検査結果はすべて正常でした。問題は何もないと医師は言うのです。

しかしこの状況が普通でないことは、わたしたちには分かっていました。母は普段夜に廊下を行ったり来たりなどしませんし、掃除機をかけている途中でその手を休めて泣いたりはしません。そしてこれまでの人生で様々な痛みで文句一つ言わず耐えてきた母が、死について語ったりするのは普通ならあり得ないことです。

復活祭前の2日間、わたしは母にしてあげられることについてもう一度考えようと思いました。しかし母の病気に関しては、わたしたちは皆、無力でした。医師である父でさえも、長年の訓練や経験、知識があったにもかかわらず、この状況を改善することはできなかったのです。それにわたしは母の負担を軽くすることもできませんでした。母は休めば痛みが増すので、家事のほとんどを自分でこなそうとまでするのです。ですから母はいつも働いていました。くたくたになるまで働いたのです。母の苦しみを和らげるためにわたしたちができることはないに等しく、母は独りで苦しんでいるように見えました。

復活祭の朝、わたしたちは教会に行きました。わたしは隣に座っている母に目を向けながら、金曜日の夜に聞いた母の上ずった声と、「死ぬかと思ったのよ」という背筋の寒くなるような言葉を思い返していました。

そのとき突然母がいきなり立ち上がり、壇上に向かいましあかした。

母は次のように証をし始めました。

「この復活祭の日曜日に、イエス・キリストの贖あがないについて証したいと思います。ベニヤミン王はこう語りました。キリストは『数々の試練に耐え、肉体の苦痛や飢え、乾き、疲労に耐えられるが、それは、人にとっては……耐えようのないものである。』(モーサヤ3:7、強調付加)わたしが近ごろ病に冒されていることを知らない人も多いことでしょう。夜はとても長いです……。」次の言葉を話すとき、母の声は穏やかでした。「……けれども、寂しくはありません。どん底にあっても、救い主はわたしの友でいてくださり、力づけてくださっています。イエス・キリストがわたしたちの苦しみを御存じであることを証します。なぜならば、主御自身もその苦しみとそれ以上の苦しみを経験されたからです。主はわたしたちを永遠の死から救ってくださったように、悲しみからも救ってくださいます。」

母の証を聞き、それまで抱いていた母と自分自身に対する先入観がわたしの中から消え、苦しみに対する新たなイメージが心に浮かんできました。そのイメージとは、ゲツセマネの園の救い主が、母の肉体的苦悩やわたしの心の痛みなど、あらゆることのために苦しまれ、あまりの苦しさゆえにあらゆる毛穴から血を流される場面でした。

そして、わたしが母に大丈夫だからと言ってあげる必要などなかったことに気づきました。わたしたちは母を元どおりにすることはできませんが、母は救い主がすでに同じように苦しまれたことを知っていたので、慰めを受けていたのです。□

キャサリン・マッシュューズ・バビアはマサチューセッツ州スプリングフィールドステーク、オックスフォードワードの会員です。

やみ闇からの救出 ヘリ・カストロ・ベリース

チリのサンティアゴ南部の町で、サッカーの試合が終わり自転車で帰宅する途中、わたしは事故に遭いました。弟は出場チームの選手としてプレーしていました。両親は弟を待っていましたが、わたしは一足先に自転車で帰宅したのです。8歳のいとこがわたしと一緒に帰ってもいいかと尋ねました。わたしはいとこをサドル前方部分のフレームに座らせて、家路に就きました。

自転車をこぎながら、わたしは罪悪感で心が痛んでいました。前の晩、地元で行われた別の試合で自分の所属するチームが勝ち、その祝賀会で、わたしは酒に酔いつぶれました。18歳だったわたしは、人生を無駄に過ごしていました。

顔に風がまともに当たるので、いそこは不快そうに体をくねらせました。そのうち、いとこの足がタイヤとフレームの間に挟まってしまいました。自転車は前のめりになり、引っ繰り返りました。わたしはアスファルトの地面に顔から着地してしまいました。顔に触てみると、修復不可能なほどに鼻が損傷しているように思いました。

幸いにもいそこは無事でした。すぐに両親が駆けつけ、続いて警察官が来て、最後に救急車が到着しました。わたしは手術室に運ばれ、鼻の一部が縫われ、額の組織が移植されました。手術後様子を見るために数時間病院にいましたが、それから家に帰されました。その夜、激痛のために眠りに就くことができませんでした。

その翌晩、痛みはさらに激しくなりました。わたしは激痛に疲れ切って、ようやく眠りに就きました。わたしは恐ろしい夢の中で、胸の前で腕を組みベッ

すると突然、弟がわきにいて、わたしを闇から光の中へ引っ張ってくれているのに気づきました。

ドの上に横たわっている自分が見えました。その体勢だけが楽な体勢だったのです。それから暗黒の霧が見え、そこに自分を引き寄せようとする手を感じました。恐怖を感じながら、わたしはその手から逃れようともがきました。

すると突然、弟がわきにいて、わたしを闇から光の中へ引っ張ってくれているのに気づきました。しかし弟の助けだけでは不十分です。わたしは絶望して泣き叫びました。そうしているうちに夢から覚めました。父が部屋に入ってきて、わたしを落ち着かせてくれました。再び痛みを感じましたが、わたしはそのとき、父が泣くの初めて見ました。

わたしは両親の部屋に移され、母の隣に寝かされました。母と弟は数か月前、バプテスマを受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会に入っていました。そして母がどれほどモルモン書を愛しているか、見て知っていました。母がモルモン書をわたしに読んで聞かせてくれているうちに、わたしは再び眠りに就きました。

眠りに就いた途端、また同じ夢を見ました。弟がわたしを引っ張ったとき、今度はその意味を理解できました。闇は墮落した状態の世を象徴していて、弟は福音と希望のある人生を象徴していました。弟はわたしにそのような人生を送ってほしいと願っていたのです。わたしは悪い習慣におぼれていたことを悟りました。わたしはそれまで宣教師がわたしたちに教えてくれたことに対し

て、心を開いていませんでした。そして彼らが教えてくれたことが真実かどうか、祈ったこともありませんでした。その瞬間、わたしは天の御父にバプテスマを受けることを約束しました。

目を覚まして、涙を流しました。母も泣き、わたしのために祈ってくれました。

翌日も痛みは続きました。母は宣教師に、神権の祝福を授けるよう頼んでくれました。その後、けがは快方へと向かい始めました。快復に至るまでの間、バプテスマを受けたいというわたしの望みは強くなっていきました。

わたしは宣教師から再び福音を学び始めました。そして今度は心を開きました。まだ大した福音の知識はなかった

ものの、あの夢の経験に加え、母の信仰と神権の祝福があったため、神がわたしを愛しておられ、永遠の命を得るための道を備えてくださったということが分かりました。そしてバプテスマを受けた日に、わたしはその目標に近づく大切な一歩を踏み出したのです。

かつて、真実の教会というものがあったとしても、それを見いだそうとして思い煩うのはいつでもできることだと考えていました。しかし事故に遭ったおかげで、良い選択をするのを引き延ばすべきではないということを理解できるようになったのです。□

ヘリ・カストロ・ベリースはチリ、サンティアゴ・ブエンテアルトステーク、ブエンテアルト第1ワードの会員です。

リアホナ・クラシック

平和な港の光

ハワード・W・ハンター大管長（1907－1995年）



ハワード・W・ハンター第14代大管長は、1994年6月から1995年3月まで大管長を務めた。
この説教を行った当時は、十二使徒定員会会長の任にあった。



わ

たしたちは近年希望に満ちた変化を見てきましたが、今なお世界中に争い、悲しみ、失望が満ちあふれていることも忘れてはいません。新たな紛争、悲しみ、そして頻発する戦争を毎日のように伝える地元や海外からのニュースに、わたしたちは心を引き裂かれるような思いでいます。わたしたちは、世界がもっと住みやすい所となり、人々が互いに思いやり、平和と安らぎがあらゆる方面に浸透してすべての人に及ぶように願っています。

そのような平和と安らぎを求めることに関して、先人の偉大な言葉を引用したいと思います。

「[世界をさらに]住みやすくする[うえで]、……最初に踏むべき最も重要なステップは、全幅の信頼を置ける指導力を備え、実践して間違いのない教えを語る指導者を選ぶことである。荒れ狂う海の中を行く指導者に求められるのは、嵐の^{あらし}かなたに平和な港の光を見いだす力である。」
(デビッド・O・マッケイ, *Man May Know for Himself*, [1967年] 407)

末日聖徒イエス・キリスト教会のこの総大会のメッセージは、世界にはそのような導き手となる唯一の方がおられるということです。その御方は世にあって完全な信頼に値する唯一の光であり、絶対確実な光です。この光の御方とは、世の光であり命であるイエス・キリストです。モルモン書の預言者はこの光を、「決して暗くなることのない無窮



の光」であると表現しています(モーサヤ16:9)。

個人、家族、地域社会、国家の別を問わず、安全で平和な港を求めるなら、最終的に頼ることのできる光はキリスト以外にありません。キリストは御自身の使命についてこう言われました。「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ14:6)

わたしたちより前のすべての時代、今の時代、そしてわたしたちより後のすべての時代を通して、この世の中に最も必要なのは、ナザレ人イエス、生ける神の生ける御子の基本的な教えに対するいきいきとした心からの信仰で

す。多くの人がこの教えを拒んでいますが、それだからこそイエス・キリストの福音を心から信じる人は、それが真実であることを証し、模範を通して、義にかなった隠やかな生活がもたらす力と安らぎを示さなければならないのです。

一つの例として、キリストが弟子たちにお与えになった次の教えについて考えてください。「敵を愛し、迫害する者のために祈れ。憎む者に親切にせよ。辱める者のために祈れ。」(欽定訳マタイ5:44より和訳)

わたしたちの隣人、また皆さんと皆さんの子どもたちの住む地域社会、あるいは一つの大きな家族を形成する国家の中であって、この勧告一つ取ってみても、それによってどのような変化が生じるのか考えてみてください。確かにこの教えは非常に大きな試しです。しかし世界が今も直面している戦争、貧困、苦悩が引き起こす大きな困難を考えれば、これは納得のできるチャレンジです。

皆さんの心を傷つける人、誤解する人、また不当な扱い、心ない扱いをする人、悪事を働く人、皆さんはそのような人々に対してどうすることを求められているのでしょうか。愛する人に傷つけられたり、また昇進の機会を先送りにされたり、偽りの訴え、自分の考えに対する不当な攻撃を受けたりした場合、どうするように求められているのでしょうか。

やり返しますか。何倍にもして復讐しますか。目には目、歯には歯の時代の人間に戻りますか。

わたしたちには皆、キリストの教えを実践するすばらしい機会があります。あらゆる機会にその努力をすべきです。



使徒ペテロのように
イエスをしっかりと見詰めるなら、
「不信仰という荒波」に勝って
その上を歩き、
「激しく吹きすさぶ
疑いという風の中にあっても
ひるむことはない。」

例えば、わたしたちはもう少し寛容になれるはずです。主は末日の啓示の中でこう言われました。「昔のわたしの弟子たちは、互いに機をうかがい合い、またその心の中で互いを赦さなかった。そして、この悪のゆえに彼らは苦しめられ、ひどく懲らしめられた。

それゆえ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは互いに赦し合うべきである。自分の兄弟の過ちを赦さない者は、主の前に罪があるとされ、彼の中にもっと大きな罪が残るからである。

主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められ

る。」(教義と聖約64:8-10)

キリストはその高貴な生涯と模範による教えの中で、多くの勧告を与え、必ず確かな約束も添えてくださいました。キリストは威厳と権能をもって、知識のある人にもない人にも、また富める人、貧しい人、健康な人、病气の人にも、希望に満ちた教えをお説きになりました。

個人、家族、地域社会、そして国として、使徒ペテロのようにイエスをしっかりと見詰めるなら、「不信仰という荒波」に勝ってその上を歩き、「激しく吹きすさぶ疑いという風の中にあってもひるむことはない」と、固く信じています(フレデリック・W・ファーラー、*The Life of Christ* [1994年] 313参照)。しかしもしわたしたちが、信仰を寄せるべきキリストから目をそらしたらどうなるのでしょうか。それはたやすく起こり得ることです。この世にはそのような誘惑があふれています。わたしたちを助け、救う力のある御方ではなく、周囲に渦巻く破壊的で恐ろしい嵐の猛威に目を奪われたら、争い、悲しみ、失望の海の中に沈んでいくに違いありません。

皆さんが洪水に押し流され、信仰を激しく揺さぶられ、今にも深みにのみ込まれてしまうのではと感じるときに、その嵐と闇の中から必ず、世の救い主のあの優しい言葉を聞くことができるように祈っています。「しっかりとするのだ、わたしである。恐れることはない。」(マタイ14:27)□

1992年10月総大会の説教を基に編集。

聖霊の促しに従う

以下の文を訪問先の姉妹たちとともに読んで、質問や聖句、教会指導者の教えについて話し合ってください。自分の経験や証^{あかし}を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

聖霊^{たまもの}の賜物を持つことは、どうして大切なのでしょうか

ヨハネ14:26—「助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」

2ニーファイ32:5—「あなたがたがその道によって入り、聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。」

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト—「^{あんしゅ}按手によって聖霊の賜物を受けた末日聖徒は、巨人ゴリアテのような人生の大問題から小さな出来事に至るまで、個人として靈感を受ける権利を与えられています。」(『聖き御霊との交わり』『リアホナ』2002年3月号、4)

聖霊はどのようにあなたに語りかけてくださるのでしょうか

教義と聖約8:2-3—「あなたが^{くだ}降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの

心に告げよう。

さて見よ、これは啓示の霊である。見よ、モーセがイスラエルの子らを導いて乾いた地を通して紅海を渡らせたのは、この霊による。」

十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー—「御霊の促しへの注意をおろそかにするほど奔走し、多忙を極めるようになってはいけません。……〔御霊の声〕は、心に浮かぶ声と同じように、精神に感じる霊的な声なのです。」(『炎のように分かれた舌』『リアホナ』2000年7月号、10)

御霊の促しを感じる能力を高めるにはどうしたらよいのでしょうか

モロナイ8:26—「罪の赦^{ゆる}しは柔和で心のへりくだった状態を生じ、柔和で心のへりくだった状態であれば聖霊の訪れがある。この慰め主は、希望と完全な愛を人の心に満たされる。そしてこの愛は、熱心に祈ることによって、……続くのである。」

第二副管長 マリオン・G・ロムニー(1897-1988年)—「御霊の導きを得て、その導きをいつも保ち続けたいと思う人は、これから申し上げる4つの事柄を実行してください。1番目は祈ること。熱心に祈ることです。……2番目は福音を研究し学ぶこと。3番目は義にかなった生活をし、罪を悔い改めること

です。……4番目は教会で奉仕することです。」(『聖き御霊の導き』『聖徒の道』1980年8月号、5)

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー—「わたしたちの生活で受けられる祝福の中で、……聖なる御霊^{はんりょ}を伴侶とすること以上に大きな祝福はありません。聖なる御霊は、わたしたちを導き、守り、祝福し、いわば、わたしたちの前を行く柱のように、また、正義と真理の道に導く火のように進みます。わたしたちがふさわしく生活するならば、神会の3番目の御方がお持ちになる導きの力はわたしたちのものとなるのです。」(Teachings of Gordon B. Hinckley [1997年] 259)

■ この驚くべき賜物を受けて、いっそうその恩恵にあずかるには、どのように生活を変えていけばよいのでしょうか。□



質疑応答

貧しい人が多いこの世で富を持つことは、 道徳に反することでしょうか

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回答

持っていても持っていないくても、富は死すべきこの世の大きなチャレンジです。使徒パウロは、「金銭を愛することは、すべての悪の根である」と記しています(1テモテ6:10)。また、ある人は

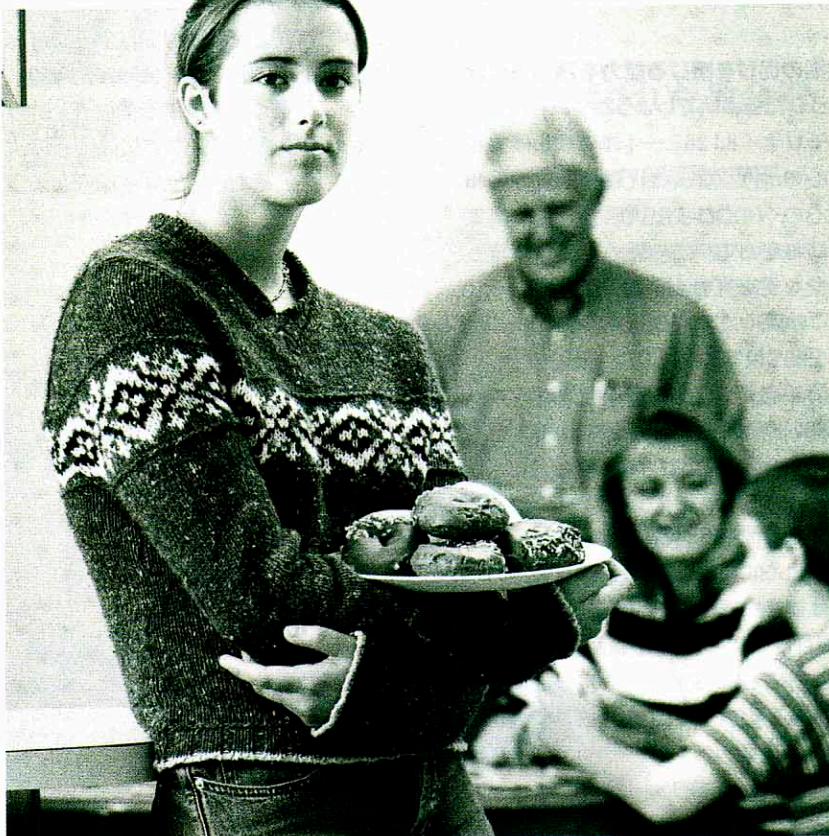
皮肉を込めて、金銭を欠くことがすべての悪の根であると言いました。前者の言葉は聖文です。後者は冗談ですが、これもまた真理の核心をついています。

ベニヤミン王は「貧しい人々」に対して、このように語りました。「自分には

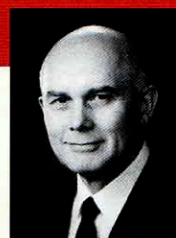
ないからということで、物乞いに与えることを断るあなたがたに言う。あなたがたは心の中で、『わたしにはないので与えないが、もしあれば与えるであろう』と言うようにしてほしい。さて、このように心の中で言うのであれば罪はないが、そうでなければ罪に定められる。まだ得ていないものをむさぼるのであるから、罪の宣告を受けて当然である。」(モーサヤ4:24-25)

重要なのはむさぼらないこと、つまりお金を愛さないことです。わたしたちはお金を持っていないくても、持っているときと同じくらいにお金を愛することがあります。世の悪は、富を利己的な方法や不正直な方法で使う裕福な人々によって生じるだけでなく、富を持っておらず、それをむさぼる人々によって生じることもあるのです。主はこのような理由から、わたしたちに築いてほしいと望まれる社会の姿をかいま見せてくださったのかもしれませんが。シオンには、富んでいる者も貧しい者もないのです(4ニーファイ1:3参照)。

富を持つことは道徳に反することではありません。モルモン書が繰り返し強調しているように、人が富を得た後、主や主の戒めを時々忘れてしまうことに危険が潜んでいるのです。



フォトイラストレーション/クレグ・ダイヤモンド



態度と 優先順位

「俗」 世のものに執着する人々は通常、この世の4つの欲望である財産、優越感、名声、権力の何らかの組み合わせにばかり関心を寄せます。態度や優先順位が財産の獲得、消費、所有に集中すると、その状態を物質主義と呼びます。……

聖文の中でこの件が強調されている箇所を見ると、この物質主義というものがすべての時代を通じて、神の子どもたちにとって最大のチャレンジであつたように思えます。貪欲(それは醜い顔をした物質主義のことである)はサタンにとって、人を墮落させ、神から心をそらせるのに最も効果的な武器の一つです。……

かの使徒(パウロ)は、金銭には本質的に悪いところはないと言いました。……悪の根と定義されるのは金銭そのものではなく、金銭に対する愛なのです。」——十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老(Pure in Heart(1988年)73-74, 78)

ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)はこのように述べています。「わたしが[この教会の会員について]最も恐れているのは、彼らがこの国で富める者となり、神とその民を忘れ、肥え太り、自ら教会にとどまることができなくなって、地獄へ行ってしまうことです。この民は暴力、略奪、貧困、そしていかなる迫害にしても、それらに耐え、忠実さを貫くでしょう。しかし、わたしがそれよりも心配しているのは、彼らは富に耐えられないということです。それでも彼らは富の試練を受けなければなりません。なぜなら、彼らはこの地上で最も豊かな民になるからです。」(プレストン・ニブレー, Brigham Young: The Man and His Work [1936年]128で引用)

ヤング大管長の言葉のとおり、「富に耐え[る]」ために、わたしたちは主が富の祝福を授けてくださる理由を思い起こし、富を求めるべき理由と時期を理解しなければなりません。ヤコブは次のように説明しています。「キリストに望みを抱いてから富を求めるならば、富は得られるであろう。しかし、富を求める目的は、裸でいる者に着せ、飢えている者に食物を与え、束縛されている者を自由にし、病人や苦しんでいる者を救うなど、善を行うことである。」(モルモン書ヤコブ2:19)

助けを必要としている人々に手を差し伸べる最善の方法の一つは、主の導きを祈り求めることです。御霊はわたしたちを、監督や支部長が導かれると同様に、わたしたちの助けを必要としている人々のもとへ導いてくれます。

わたしたちは助けを必要としている人々を祝福するために富を活用することによって、自分の思いが正しいものであり、主の信頼を受けるにふさわしいことを主に示します。しかし、逆に富を死蔵したり、利己的な目的のために浪

費したりするなら、わたしたちは自分のタラントを地中に埋めた僕と同じように、主から罪に定められるでしょう(マタイ25:14-30参照)。

読者からの提案

天のお父様はしばしば、富を第一にし、神を忘れ、自分を人よりも優れていると思ひ込む人々を懲らしめられます。しかし、わたしたちが地上にいる目的は、霊的に成長することはもちろん、現世の事柄に関しても成長するためです。主は御自分の民が怠惰になることは望んでおられません。主はわたしたちが知識を身に付け、社会に貢献することを望んでおられるのです。もしだれかが自らの努力の結果、人よりも多くのお金を手に入れたとしても、それは悪いことではないと思います。その人がキリストの純粋な愛を持たないで、富を貧しい人々に分かち合わないことが悪いのだと思います。

アルゼンチン・パラナ地方部、
アナクレトメディナ支部
ロレナ・メンドサ

お金持ちの人がモルモン書を読むと、貧しい人々を愛する特別な気持ちが心に芽生えます。わたしはそう信じています。わたしたちは隣人を愛さなければなりません。隣人が貧しいのであれば、わたしたちは彼らに物を分け与えることができます。



テキサス州キングウッド
ステーキ、
ハンブルワード
ラディ・フォノヘマ

モルモン書に登場する幾つかの民は、裕福になると天のお父様のことを忘れてしまいました。わたしたちは自立を目

指すべきですが、すべての栄光は神に帰さなければなりません。霊的な富を第一に求めましょう。霊的な富こそが救いに至る道です。



ブラジル・ウベルランディア
ステーク、
コパカバーナワード
ロベルト・ポーラ・デ・
フレイタス・カンボス

聖文は、富の危険性についてよく警告しています。このことから、多くの人々は富を邪悪なものとし、すべての裕福な人は神とともに住む機会を失うものだと誤解しています。アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨブは多額の財産を持っていましたが、それと同時に忠実に正しい人々でした。



パラグアイ・フェルナンド・
デ・ラ・モラスステーク、フェ
ルナンド・デ・ラ・モラワード
ホセ・アリエル・エスピニョ
ーラ・オルメド

わたしたちは兄弟の番人であり、自分の肉体を含め、すべてのものが自分のものではなく、神のものであることを忘れてはなりません。お金、専門技術、知識、奉仕、時間、あるいはほほえみであっても、富を有効に活用すべきです。分かち合いましょう。神はしばしばわたしたちを通してほかの人々を祝福されます。わたしたちはほかの人の祈りの答えになることがあるのです。



トンガ・ハーパイステーク、
パンガイワード
ミリカ・M・パレトゥア

正直な方法、つまり地道な労働によって富を求めるなら、罪ではないと思い

ます。そして、富を手に入れても、自分よりも収入を得る力がない人々を見下してはいけません。



ブラジル・サント
アンジェロ地方部、
サンタローサ支部
アンジェラ・マルシアン・
アッセンハイマー

貧しい人々を助けるために富を活用しなければ、貧しい人が多い世の中にあって富を持つことは道徳に反することだと思います。

ガーナ・タコラディスステーク、
ムピンツィンワード
エベニーザー・クエジ・アボア

主は、富を求める目的はただ、善を行うためでなければならないと語られました。わたしたちはまず神の王国を求めるべきです。そうすれば、飢えている者に食物を与え、裸でいる者に着せ、病人や苦しんでいる者を慰めるために富を得ることができます(モルモン書ヤコブ2:18-19参照)。



ブラジル・マセイオ伝道部
エドワルド・ルイス・
メンデス長老

もし貧しい人々を助けるために富を使うなら、天父に感謝を表していることになります。霊的に富んだ者となります。



コロラド州デンバー北
伝道部
カルロス・アルベルト・
ガルシア長老

じゅうぶん
什分の一や断食献金を納め、惜しみなく与え、貧しい人々を助けるなら、富

を持つことは悪いことではないと思います。外見で人を判断してはいけません。自分よりも恵まれない人々が霊的に富んだ者となるように、また神の賜物の中で最も大いなるものを受けられるように祈りましょう(教義と聖約14:7参照)。



ニュージーランド・ハミルトン・
グレンビューステーク、
ディーンウェルワード
イレイセーヌ・ベイン・
サティニ

「質疑応答」は青少年を対象とした記事であり、様々な国に住んでいる青少年の意見を掲載することを目指しています。以下の質問に対するあなたの意見を教えてください。締め切りは2002年5月1日、あて先は以下のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS
05/02, Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA, またはEメールで CUR-Liahona-Imag@ldschurch.org までお送りください。

住所、氏名、年齢、所属ステーク／地方部、ワード／支部名を明記のうえ、日本語で意見をお寄せください。手書き、パソコン、いずれでもけっこうです。手書きの場合は、かい書で読みやすい文字でお書きください。できれば写真を同封してください。ただし返却は致しかねますので、あらかじめご了承ください。類似した答えの場合は、代表的なもの1通を採用させていただきます。

質問——聖霊がわたしを導いてくださることは知っています。しかし、自分の考えや思いと聖霊がお与えになる靈感を見分けるにはどうしたらよいのでしょうか。□

よろいを身に着けて!



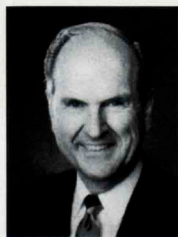
敵は皆さんをねらっています。神の武具で身を守りましょう
(エペソ6:11-18参照)。

出エジプト の再現

古代と近代のイスラエルに
与えられた聖文はともに
解放に当たって主の御手の力が
現されたことを述べています。

十二使徒定員会

ラッセル・M・ネルソン



モーセに率いられてイ
スラエルがエジプトから
脱出した出来事と、ブリガ

ム・ヤングの指揮の下で末日聖徒の開拓
者が合衆国から脱出した出来事には、
教えに富んだ数多くの共通点がありま

す。わたしたちはこれら古代と近代のイスラエルの偉大な
指導者から多くを学ぶことができます。

一般的に、史実に基づいて書かれた文学作品や野外劇
では、開拓者が成し遂げた数々の事柄を見事に描き出し
ています。しかし、それらが成し遂げられたのはなぜかとい
うところまで掘り下げている作家はほとんどいません。
開拓者の旅と出エジプトとの共通点を説明している作家は
もっと少なくなります。だれの目にも明らかな共通点は、
両グループにも塩の湖とヨルダン川が存在したということ
です（訳注——イスラエルの死海とアメリカのグレートソ



トレークはともに塩湖である。
イスラエルのヨルダン川とア
メリカのジョーダンリバーは英
語で表すと、どちらも“Jordan
River”である）。しかし、意義
深い共通点がまだほかにたくさ
んあります。古代のイスラエル
と近代のイスラエルの間には密
接な関係があるのです。

ヨセフとジョセフ

古代イスラエルにはモーセ以前に指導者がおり、近代の
イスラエルにもブリガム・ヤング(1801-1877年)以前に大
管長である預言者がいました。この、それぞれのグループ
の先駆者たちにも類似点がありました。両者はヨセフ(ジ
ョセフ)という共通する名を持っていました（訳注——ヨセ
フもジョセフも、英語ではともに“Joseph”である）。エジ
プトに売られたヨセフと預言者ジョセフ・スミス(1805-
1844年)です。末日聖徒にとって、旧約聖書に登場する人
物の中でエジプトに売られたヨセフほど大切な人はそれほ
どいません。ヨセフにはエフライムとマナセという二人の
息子がいます。わたしたちの多くはエフライムまたはマナ
セの子孫である、つまりヨセフの血統に属していると主張

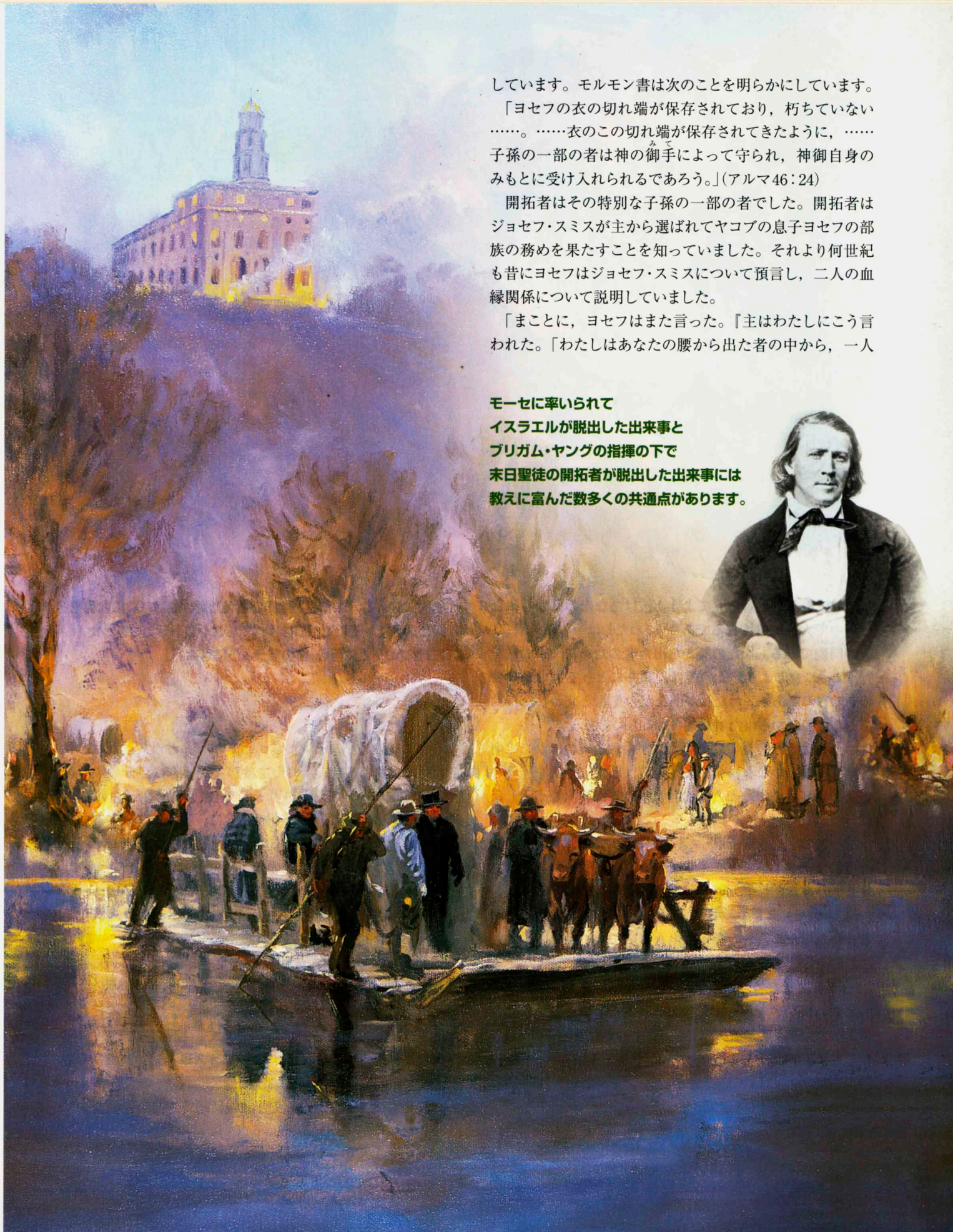
しています。モルモン書は次のことを明らかにしています。

「ヨセフの衣の切れ端が保存されており、朽ちていない……。……衣のこの切れ端が保存されてきたように、……子孫の一部の者は神の御手によって守られ、神御自身のみもとに受け入れられるであろう。」(アルマ46:24)

開拓者はその特別な子孫の一部の者でした。開拓者はジョセフ・スミスが主から選ばれてヤコブの息子ヨセフの部族の務めを果たすことを知っていました。それより何世紀も昔にヨセフはジョセフ・スミスについて預言し、二人の血縁関係について説明していました。

「まことに、ヨセフはまた言った。『主はわたしにこう言われた。「わたしはあなたの腰から出た者の中から、一人

**モーセに率いられて
イスラエルが脱出した出来事と
ブリガム・ヤングの指揮の下で
末日聖徒の開拓者が脱出した出来事には
教えに富んだ数多くの共通点があります。**





のえり抜きの聖見者を立てよう。彼はあなたの腰から出た者の中で大いに尊ばれるであろう。わたしはその聖見者に、彼の同胞であるあなたの腰から出た者のために一つの業を行うように命じよう。その業は、彼らにとって大いに価値のあるものであり、わたしがあなたの先祖と交わした聖約をあなたの腰から出た者に知らせるものである。

わたしはその聖見者に、わたしが命じる業のほかには何の業も行わないように命じよう。彼はわたしの業を行うので、わたしは彼を、わたしの目にかなった偉大な者としよう。」(2ニーファイ3:7-8)

ヨセフの名はジョセフ・スミス・ジュニアだけでなく、預言者の父親にも該当するものでした。エジプトに売られたヨセフの言葉をもう一度引用したいと思います。

「『見よ、主はその聖見者(ジョセフ・スミス)を祝福される。わたしがわたしの腰から出た者について主から頂いたこの約束は、必ず果たされるので、……』

その聖見者の名はわたしにちなんで付けられ、またその名は彼の父の名を取って付けられる。そして、彼はわたしのようである。主が彼の手により、主の力によってもたらされるものが、わたしの民を救いに至らせるからである。』」(2ニーファイ3:14-15。ジョセフ・スミス訳創世50:26-38も参照)

古代において、「エジプト全国が飢えた時、民はバロに食物を叫び求めた。そこでバロはすべてのエジプトびとに言った、『ヨセフのもとに行き、彼の言うようにせよ。』」

ヤコブの息子ヨセフとジョセフ・スミスとの共通点はこれだけではありません。ヨセフは17歳のときに自分の大なる行く末について知らされました(創世37:2-11参照)。ジョセフ・スミスは同じ年齢のときに、モルモン書に関して果たすべき使命について知らされました。天使モロナイが初めてジョセフを訪れたのは、ジョセフが17歳のときで、「神が[ジョセフ]のなすべき業を備えておられること」、ジョセフは完全な永遠の福音が記されている金版を翻訳すること、また彼の「名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること」を少年預言者に知らせました(ジョセフ・スミス—歴史1:33。34-41節も参照)。

ヨセフとジョセフはともに迫害に耐えました。古代のヨセフは犯していない罪を告発されて、投獄されました(創世39:11-20参照)。ジョセフ・スミスは捏造された偽りの告発によって投獄されました。

兄たちはヨセフが死んだと父親に納得させる残酷な企て

のために、ヨセフから長そでの着物をはぎ取りました(創世37:2-33参照)。ジョセフ・スミスはおもに偽兄弟の裏切りによって、残酷に命を奪われました。

古代において、「エジプト全国が飢えた時、民はパロに食物を叫び求めた。そこでパロはすべてのエジプトびとに言った、『ヨセフのもとに行き、彼の言うようにせよ。』」(創世41:55)末日において、福音だけが与えることのできる食物に飢えている人々は、再びヨセフ[ジョセフ]によって食物を与えられます。主は「この時代の人々は、[ジョセフ・スミス]を通してわたしの言葉^{こんにち}を受ける」と宣言されました(教義と聖約5:10)。今日わたしたちが「キリストの言葉をよく味わう」ことができるのは(2ニーファイ32:3)、ジョセフ・スミスのおかげです。

モーセとブリガム・ヤング

モーセとブリガム・ヤングには共通点がたくさんあります。彼らは偉大な指導者になる前に賢明な従者でした。モーセはエジプトの王宮で備えられ、軍務やほかの責務について経験を積みました(フラビウス・ヨセフス, *Antiquities of the Jews*, ウィリアム・ホイストン訳, 2.10.1-2参照。使徒7:22; ヘブル11:24-27も参照)。ブリガム・ヤングも同様に指導者となるべく備えられました。シオンの陣営の行軍において、困難な状況の下で指導性を発揮する預言者ジョセフ・スミスをブリガムは注意深く観察しました(*History of the Church*, 第2巻, 61-134, 183-185参照)。カートランドから住居を移す預言者ジョセフを助けました(*History of the Church*, 第3巻, 1-2参照)。



エルデン・J・ワトソン編, *Manuscript History of Brigham Young, 1801-1844* [1968年] 23-24も参照)。また迫害を受けていた聖徒たちをミズーリからノーブーへ移動させる任務を果たしました(*History of the Church*, 第3巻, 250-

末日において、福音だけが与えることのできる食物に飢えている人々は、再びヨセフ[ジョセフ]によって食物を与えられます。主は「この時代の人々は、[ジョセフ・スミス]を通してわたしの言葉を受ける」と宣言されました。



252, 261参照。Regional Studies in Latter-day Saint Church History: Missouri, アーノルド・K・ガー, クラーク・V・ジョンソン共編[1994年]2-3で引用のジョン・K・カーマック“Missouri Era: Residue of Wisdom”も参照)。

イスラエルの民と近代の聖徒にとって、民法と教会の律法は一人の指導者の下で統合されていました。モーセは民に対するその責任を負いました(ジョセフ・スミス, Teachings of the Prophet Joseph Smith, ジョセフ・フィールディング・スミス選[1976年]252参照)。近代のモーセ(教義と聖約103:16参照)¹となったブリガム・ヤングは主の祝福を得て、西部に移動する末日聖徒を率いました(教義と聖約136章参照)。モーセとブリガム・ヤングは同じような統治形態を採用しました(出エジプト18:17-21; 教義と聖約136:1-3参照)。ブリガム・ヤングは西部への移住を組織的に実施するために男女と子どもから成る大きなグループを編成しました。

悲しいことに両グループの指導者は親しい友人の反対に耐えなければならませんでした。モーセは時折、愛するアロンやミリアムの反対に遭いました(民数12:1-11参照)。末日の指導者たちも信頼を置いていた同僚の間で争いが起きたために苦しみました(History of the Church, 第1巻, 104-105, 226参照)。しかし、主が「全地をしろしめす大いなる王」となって(詩篇47:2。ゼカリヤ14:9も参照)、シオンとエルサレムから支配されるときに(イザヤ2:1-4参照)、この一様に同じ統治形態が再び採用されることになります。

エジプトからシナイ山までの旅は約3か月かかりました(出エジプト19:1参照)。ウィンタークォーターズからグレートソルトレーク盆地までの旅も約3か月(111日間)かかりました。主は両グループの目的地を説明して、乳と蜜^{みつ}の流れる地と言われました。² 開拓者は荒れ野^{ひよく}を肥沃な畑に変え、砂漠をばらのように咲かせました。これは何世紀も昔にイザヤが預言した言葉がそのとおりに実現したもので



エゼキエルはユダの木とヨセフの木が一つになると預言しました。「あなたは1本の木を取り、その上に『ユダおよびその友であるイスラエルの子孫のために』と書き、また1本の木を取って、その上に『ヨセフおよびその友であるイスラエルの全家のために』と書け。これはエフライムの木である。あなたはこれらを合わせて、一つの木となせ。これらはあなたの手で一つになる。」

す(イザヤ32:15-16; 35:1参照)。

類似する奇跡

両グループは毎年記念行事を行うほどの奇跡^{すぎこし}を数多く経験しました。過越の祭は古代イスラエル人の旅にちなんでいます。わたしたちは毎年7月に開拓者の伝説的な物語を

繰り返し語り合います。両グループは砂漠や山々、荒れ野の峡谷を踏破しました。古代イスラエル人はエジプトを出発して、水が二つに分けられた紅海を「かわいた土地をとるように」渡りました(ヘブル11:29)。合衆国の最果ての地を出発した開拓者たちは広大なミシシッピ川を対岸まで渡りました。氷結した川は氷の道と化していました。

出エジプト記には飢えた古代イスラエルの民の食料となるようにうずらが飛来した奇跡について書かれています(出エジプト16:13;民数11:32;詩篇105:40参照)。開拓者も同じような経験をしました。最後の一人がノーブーを追放されてから、多くの人が病気にかかり、一部の人は命を落としました。食べる物はほとんどありませんでした。1846年10月9日、アイオワ州モントローズに近い河岸の野営地に多くのうずらが飛来するという奇跡が起きました。約640人の困窮者たちは、このうずらを焼いて食べ飢えをしのぎました(スタンレー・B・キンボール “Nauvoo West: The Mormons of the Iowa Shore,” *BYU Studies*, 1978年冬季号, 142参照)。³

グレートソルトトレイク盆地で恒久的な居住地を建設できたのも奇跡でした。この奇跡には穀物を救ったかもめが関与しています。

神はエジプトを襲った災いから古代イスラエルの民を救われました(出エジプト15:26参照)。同様に、神はアメリカ独立戦争の災いから聖徒を救われました。独立戦争はアメリカ史上最多の戦死者を出した戦争でした。

類似する霊的な力

イスラエルの民と近代の聖徒たちはともに、試しを通して霊的に大きな力を得ました。両者とも信仰の試しに耐えました。霊的に弱い人々は踏みとどまることができませんでしたが、霊的に強い人々は最後まで堪え忍ぶ力を得ることができました(エテル12:6;教義と聖約101:4-5;105:19参照)。両グループとも家や財産を手放さなければなりませんでした。そして完全に神にすがることを学びました。主は「[古代イスラエルの民]の前に行かれ、昼は雲の柱をもって彼らを導き、夜は火の柱をもって」守られました(出エジプト13:21。22節;民数14:14;申命1:33;ネヘミヤ9:19も参照)。神は開拓者に対しても同じようにし

て見守っておられたと言われています(*History of the Church*, 第3巻, xxxiv参照。トーマス・S・モンソン, Conference Report, 1967年4月, 56も参照)。

両グループに与えられた聖文はともに、解放に当たって主の御手の力が現されたことを述べています。モーセは古代イスラエルの民に向かってこのように言いました。「あなたがたは、エジプトから、奴隷の家から出るこの日を覚えなさい。主が強い手をもって、あなたがたをここから導き出されるからである。」(出エジプト13:3)

末日聖徒に対して、同じような聖文が啓示されました。「主なるわたしは、天の力を働かせるためにわたしの手を伸べた。あなたがたは今それを見ることはできないが、もうしばらくすれば、それを見て、わたしがいること……を知るであろう。」(教義と聖約84:119)

イスラエルの子らは聖約を交わし儀式を執行する可動式の幕屋を持っていました。⁴ 彼らはそれによって旅を続ける力を得たのでした。多くの末日聖徒は西部への困難な旅に出発する前にノーブー神殿でエンダウメントを受けました。

イスラエルの民はエジプトから脱出できたことを感謝を込めて祝いました。末日聖徒は自分たちの脱出の記念として、回復された教会の世界本部を山々の頂に築きました。祝賀に参加した人は皆、神の力によって解放されたことに歓声を上げました(エレミヤ23:7-8参照)。

永久不変の福音の原則

古代と近代のイスラエルが手にすることのできた聖典には永久不変の福音の原則が含まれています。皆さんは次のように語ったイザヤの預言をよく耳にするかもしれません。「あなたは代々伝えられ、地の中から物を言い、低いちりの中から言葉を出す。あなたの声はよく知っている霊の声のように地から出、あなたの言葉はちりの中から、ささやくようである。」(欽定訳イザヤ29:4より和訳)

モルモン書を説明するのに「ごんにち地の中から」出て来て、今日の人々に「ちりの中から、ささやく」という表現以上の確かな言葉があるでしょうか。

旧約聖書にはモルモン書について予告している聖句がほかにあります。1997年1月にワシントンD.C.のホワイト

ハウスで開かれた^{きとう}祈禱朝食会に出席したときに、その一つを思い起こす機会がありました。朝食会に先立って開かれた非公式レセプションで、わたしはニューヨークから来た著名な学者であるユダヤ教のラビと話していました。そこへ別のラビがやって来てわたしたちの話と遮ると、ニューヨークから来た同僚に、ユダの木とヨセフの木が一つになることについて書かれている聖句はどこにあるかを教えてほしいと言いました。友人は少しの間考えるようにあごをなでると、「確か、エゼキエル書にあると思いますよ」と答えました。

わたしはその答えに、思わず、「エゼキエル37章を探してください」と言ってしまいました。「そこにお探しの聖句がありますよ。」

わたしの友人であるラビは驚いて、「どうして御存じなのですか」と言いました。

「この教義はわたしたちの神学において非常に大切だからです」と答えました。まさしく、そのとおりです。その聖句を引用してみたいと思います。

「人の子よ、あなたは1本の木を取り、その上に『ユダおよびその友であるイスラエルの子孫のために』と書き、また1本の木を取って、その上に『ヨセフおよびその友であるイスラエルの全家のために』と書け。これはエフライムの木である。

あなたはこれらを合わせて、一つの木となせ。これらはあなたの手で一つになる。」(エゼキエル37:16-17)

近代のイスラエルである、全世界に住む聖徒たちは、聖書とモルモン書を一つに合わせて手に持つという祝福を受けています。この特権の価値を決して過小評価してはなりません。イザヤはモルモン書の霊を「よく知っている」と表現しました(前出の欽定訳イザヤ29:4参照)。モルモン書の霊は旧約聖書を知っている人々、特にヘブライ語に精通している人々の心に共鳴するのです。モルモン書には、し

**地上に主の御言葉に従う人々が存在するときに主はいつも、
昇栄と永遠の命に関する福音の儀式や
その他の霊的な現れが授けられるように、
神殿を建てることを命じてられました。**

きたり、象徴主義、慣用語法、文体において、ヘブライの文化を随所に見ることができます。見慣れた(聞き慣れた)ものと感じて当然です。モルモン書全体の80パーセント以上が旧約聖書の一部と同じ時期を扱っているのですから。

永久不変の福音の真理と原則は古代と近代のイスラエルにとって大切なものでした。もちろん現在でも大切なものです。例えば、安息日は時代によってそれぞれ別の理由から大切にされてきました。アダムからモーセの時代まで、安息日は創造の働きを休む日として遵守されていました(出エジプト20:8-11;31:16-17参照)。モーセの時代から主の復活まで、安息日にはさらに、イスラエルがエジプトの束縛から解放されたことを記念する意味がありました(申命5:12-15;イザヤ58:13;エゼキエル20:20;44:24;モーサヤ3:19参照)。末日に、聖徒たちはイエス・キリストの^{しよくざい}贖罪を記念するために安息日を聖なる日とし



「ソルトレーク神殿とほかの神殿」ラリー・ウィンボーク画

ています(使徒20:7;1コリント16:2;黙示1:10;教義と聖約59:9-19参照)。

神権の回復は^{じゅうふん}什分の一の原則に新たな息吹を与え、創世記とマラキ書にある旧約の教えにつながりました(創世14:20;マラキ3:8-12参照)。近代のイスラエルである聖徒たちは次の簡潔な指示から、自分の什分の一をどのように計算したらよいかを知っています。「このように什分の一を納めた者は、毎年彼らの得る全利益の十分の一を納めるのである。そして、これはわたしの聖なる神権のために、とこしえに彼らにとっての永続的な律法となる、と主は言う。」(教義と聖約119:4)

永久不変の福音の真理に再び注目してみましょう。神殿の礼拝に関する真理以上に大切な真理はありません。これらの真理も古代と近代のイスラエルを結びつけるものです。

地上に主の御言葉に従う人々が存在するときに主はいつも、昇栄と永遠の命に関する福音の儀式やその他の霊的な現れが授けられるように、神殿を建てることを命じてられました(『聖句ガイド』『神殿;主の宮』の項、139-140参照)。

古代イスラエルで最も有名な神殿はソロモンの神殿でした。そのバプテスマフォントと奉獻の祈りは、現在の神殿においてもその様式が取り入れられています(歴代下4:15;6:12-42;教義と聖約109章参照)。旧約聖書には神殿に関連した特別な衣服(出エジプト28:4;29:5;レビ8:7;サムエル上18:4参照)と儀式(出エジプト19:10,14;サムエル下12:20;エゼキエル16:9参照)についての記述があります(教義と聖約124:37-40参照)。主が忠実な息子と娘に対して神権の最高の祝福を回復してくださったことについて、わたしたちはどれほど感謝すべきでしょうか。主はこのように言われました。「わたしは創世の前から隠されてきたこと、すなわち時満ちる神権時代に関することを、わたしの教会に示そうと思うからである。」(教義と聖約124:41)

知恵の言葉として知られている真理は1833年に預言者ジョセフ・スミスに啓示されました。末日聖徒はこの教えがわたしたちの信仰を特徴づける一つのしるしであると考えています。この啓示の最後の節は古代イスラエルとの結びつきを与えるもう一つの輪となっています。「また、主な

るわたしは彼らに一つの約束を与える。すなわち、滅ぼす天使はイスラエルの子らを過ぎ越したように彼らを過ぎ越して、彼らを殺すことはない。」(教義と聖約89:21) 過越についてこのように言及されているのは、主が何世紀も昔に忠実な弟子たちにお与えになったのと同じ、肉体と霊の守りを、近代イスラエルの忠実な聖徒にも受けるよう望んでおられることの表れなのです。

聖約、散乱、集合

古代と近代のイスラエルが大切にしている神の教えにはそのほかに、アブラハムの聖約の教義と、イスラエルの散乱と集合に関する教義があります。約4,000年前に、アブラハムはこの世における自分のすべての子孫に祝福が与えられるという約束を主から受けました(教義と聖約132:29-50;アブラハム2:6-11参照)。この約束には神の御子がアブラハムの血統を通じておいでになること、アブラハムの子孫が特定の地を受け継ぐこと、地の国民と部族がアブラハムの子孫を通じて祝福を受けることなどの約束が含まれていました。旧約聖書にはこの聖約を確認し、再確認している聖句が随所に見られます(創世26:1-4,24,28;35:9-13;48:3-4参照)。

この聖約の一部はすでに成就していますが、成就していない部分もたくさんあります。モルモン書はわたしたち近代のイスラエルが主の聖約の民の一員であることを教えています(1ニーファイ14:14;15:14;2ニーファイ30:2;モーサヤ24:13;3ニーファイ29:3;モルモン8:15参照)。そして特筆すべきことは、アブラハムの祝福は末日に至って初めて成就すると教えていることです(1ニーファイ15:12-18参照)。主は再びアブラハムの聖約を授けられました。この度は預言者ジョセフ・スミスに、ジョセフと後に続く子孫の祝福となるよう授けられました(教義と聖約124:58参照)。

皆さんはアブラハムの名が、旧約聖書よりも近代の啓示に多く登場することを知っていたでしょうか。⁵ 旧約聖書の偉大な族長であったアブラハムは末日聖徒イエス・キリスト教会に加わるすべての人々と強いつながりがあるのです。⁶

イスラエルの家の散乱と集合に関する教義は、モルモン

書において最も初期の時代から教えられていました。ニーファイ第一書から引用してみたいと思います。「そして、イスラエルの家は散らされてから、再び集められる。……オリーブの木の自然の枝、すなわちイスラエルの家の残りの者たちは接ぎ木される。すなわち、彼らの主であり贖い主であるまことのメシヤを知るようになる。」(10:14)

近代イスラエルの聖徒は、主が「終わりの時代のために、また天にあるものと地にあるもののすべてを一つに集める時満ちる時代のために、[主]の王国の鍵と福音の神権時代」を携えて、ペテロ、ヤコブ、ヨハネを遣わされたことを知っています(教義と聖約27:13。エペソ1:10と比較)。

開拓者が経験した旅と苦労には永遠の意味がありました。彼らの使命は、国際間の移民や、荷車や手車で大陸を横断して移住することだけにとどまりませんでした。彼らは「全地を満たす」不朽の業の基礎を築く使命を帯びていました(ジョセフ・スミス。ウィルフォード・ウッドラフ、*The Discourses of Wilford Woodruff*, G・ホーマー・ダラム選[1946年]39で引用)。エレミヤの預言が成就するためには彼らが必要でした。「万国の民よ、あなたがたは主の言葉を聞き、これを遠い、海沿いの地に示して言いなさい、『イスラエルを散らした者がこれを集められる。牧者がその群れを守るようにこれを守られる』と。」(エレミヤ31:10)⁷

彼らはその預言に従いました。主の業を始めるためにきわめて初期の時代から宣教師が「遠い、海沿いの地」に派遣されました。その結果、開拓者がグレートソルトレイク盆地に入ったときにはすでに英国諸島とフランス領ポリネシア諸島で教会が確立されていました。

エフライムとマナセを通じて世に来るヨセフの血統はイスラエルの集合を導くよう任じられた子孫です。祝福師の祝福、また旧約聖書(その教義は回復がもたらした聖文と啓示が詳説している)を通して、開拓者は長い間待ち焦がれていた集合が自分たちによって始まることを知っていました。このようにして、預言の成就是末日聖徒の手にゆだねられたのです。

まとめ

末日聖徒イエス・キリスト教会の初期の改宗者は、近代イスラエルの開拓者でした。聖徒たちがどの時代に生き、

いずれの地に住んでいるかにかかわらず、忠実な教会員は皆、正当な報いを受けます。「生も死も、現在のものも将来のものも、すべてのものは彼らのものである。すべては彼らのものであり、彼らはキリストのものであり、キリストは神のものである。」(教義と聖約76:59)

古代と近代のイスラエルは旧約聖書の不朽のメッセージを受け入れ、従います。「それゆえあなたは知らなければならぬ。あなたの神……は……彼を愛し、その命令を守る者には、契約を守り、恵みを施して千代に及ぶ。」(申命7:9)⁸

わたしたちには自分の世代を生きる間に信仰を保つ責任があります。今度はわたしたちがこの責任を果たす番です。わたしたち近代のイスラエルは「祭司の国となり、また聖なる民となる」よう定められています(出エジプト19:6)。自分が聖約の子であることを知っています(使徒3:25;3ニーファイ20:25-26参照)。わたしたちは子孫の残りの者であって、今集められ、拾い集められて、神の永遠の倉に収められようとしています(アルマ26:5参照)。

近代のイスラエルの聖徒として、わたしたちは声を一つにして言います。わたしたちは天の御父を愛しています。生ける神の御子、主イエス・キリストを愛しています。わたしたちは主の民です。主の聖なる御名を身に受けています。モルモン書が神の言葉であることを知っています、そしてモルモン書と聖書とを一つに合わせて持っています。ジョセフ・スミスが回復の偉大な預言者であることを宣言します。そして、ゴードン・B・ヒンクレー大管長を、神が現在与えてくださっている預言者として支持しています。

□

1997年9月7日、ブリガム・ヤング大学において開かれた教会教育システムファイヤサイドで行った説教から。

注

1. 西部への脱出においてブリガム・ヤングが果たした役割について、スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)はこのように記した。「アダムの時代以来、脱出の旅と約束の地はたくさん存在してきた。アブラハム、ヤレド、モーセ、リーハイ、そのほかの人々は民を率いて旅をした。はるか昔の旅が主に導かれたものであったということを受け入れるのは非常に容易であるが、最近の旅となると、人



**イスラエルの家の散乱と集合に関する教義は、
モルモン書において最も初期の時代から
教えられていました。
開拓者は長い間待ち焦がれていた集合が
自分たちによって始まることを知っていました。**

の計算や決断によるものだと考えがちである。迫害を受けたモルモンのイリノイからソルトトレイク盆地までの旅に目を向けてみよう。これに匹敵するほどの大規模な移動はほかに見ることができない。砂漠の道なき道を歩み、未踏破の山々を超え、橋のない川を渡り、インディアンが暮らす荒れた土地を横断するように民を導いたのはブリガム・ヤングであったとよく言われる。ブリガム・ヤングは神の手に使われる者ではあったが、大平原を横断して約束の地まで近代のイスラエルを導かれたのはブリガム・ヤングではなく、主であった。」(Faith Precedes the Miracle[1972年]28)

2. 古代イスラエルの民については、出エジプト3:8, 17; 13:5; 33:3; レビ20:24; 民数13:27; 14:8; 申命6:3; 11:9; 26:9, 15; 27:3; 31:20; ヨシュア5:6; エレミヤ11:5; 32:22; エゼキエル20:6, 15; ジョセフ・スミス訳出エジプト33:1[英文]参照。開拓者に関しては教義と聖約38:18-19参照。

3. この出来事を描いたC・C・A・クリステンセンの油絵作品「うずらの捕獲」はブリガム・ヤング大学美術館に収蔵されている。

4. 古代イスラエルの儀式と聖約は1コリント10:1-3で引用されている。近代のイスラエルの儀式と聖約については教義と聖約84:26-27を参照する。古代イスラエルの幕屋は彼らが高度の律法を失うまで、可動式神殿として使用されていた(教義と聖約84:25; 124:38参照)。

5. アブラハムが聖典に登場するのは506節である。そのうち289節は近代の啓示の中に記されている。

6. 養子縁組によって聖約を受けることもできる(マタイ3:9; ルカ3:8; ガラテヤ3:27-29; 4:5-7参照)。

7. 「集める」(“gather”)という語はヘブライ語の動詞“qabats”に由来する。これは「散らばっているものを一つに集める、ある目的で人を集める」という意味を持つ。

8. 申命11:1, 27; 19:9; 30:16; ヨシュア22:5; 1ヨハネ5:2-3; モーサヤ2:4も参照。旧約聖書中のほかの聖句も「よろず代」を通じて神の戒めに従順であった人々の受ける報いについて述べている(歴代上16:15; 詩篇105:8参照)。

ト

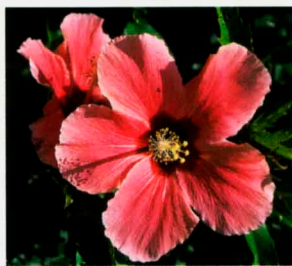
の国

あつ 信仰篤き人々

ラリーン・ポーター・ガント

イエス・キリストの福音はトンガで力強く発展しています。トンガでは、神への献身、家族への愛そして信仰といったものは、すでに文化の一部となっているのです。

ババウ島の土曜日の夕暮れ時です。サミソニ・ウアシラアとメレアネ・ウアシラア夫妻は安息日の準備をしています。この二人は、自分たちの12人の子どものほかに20人の子どもを育ててきた夫婦です。夕日の輝きが、洗濯ロープにかかった洗ってきれいになったワイシャツを照らし、家を囲む木の青々とした葉を浮き立たせています。一人の子どもが玄関を掃き、ほかの子どもたちは庭をきれいにしています。家の中では、ウアシラア姉妹と娘たちが日曜日の夕食の準備に当たっています。それぞれがココナツミルクを混ぜた肉をタロイモの葉で包んでいます。それをバナナの葉でくるみ、屋外にある、熱した石をバナナの葉で覆ったオーブンに入れ、一晩かけてゆっくりと焼くのです。ステーキ祝福師を務め、サイネ



ハ高等学校の校長でもあるウアシラア兄弟は、何人かの息子たちと一緒に、タロイモ畑で働いています。雑草や収穫後の畑に残るくずをくすぶる火の中に投げ込んでいます。ゆらゆらと立ち昇る煙の向こうに沈む夕日の光が、火の番に当たる一人の男の子を影絵のように見せています。

同じような光景がトンガの数万世帯で毎週繰り返されます。というのも、トンガでは安息日を聖なる日として保つことが法律で定められているか

右——若い末日聖徒も、多くの人々に交じって、信仰篤き人々の国を作り上げています。

枠内——トンガ・ヌクアロファ西ステーキ、デエキウワードのセレシ・フィフィタとサアネ・フィフィタ夫妻。家族の一部とともに。

ガ



らです。トンガにキリスト教が定着し始めたのは、1831年8月、タウファアハウという名の男性が、メソジスト派の宣教師からバプテスマを受けたのがきっかけでした。タウファアハウはやがて国王ジョージ・ツボウ1世となります。伝説によれば、この王は、手のひらいっぱいの土をすくい、祈りながら天に向かって差し上げることによって、トンガの島々を神にゆだねたということです。今日ではトンガの人々は安息日を心から敬っています。ほとんどの店や商取引が休業になり、タクシーやバスも走りません。何もかも静かです。

地域幹部七十人のピタ・ホボアテ長老はこう言っています。「国王タウファアハウ・ツボウ4世は、安息日を聖なる日として保つことがいかに重要か強調しています。そのため、トンガの人々は日曜日には教会へ行きます。帰宅すると、その週で一番のごちそうを食べるのです。」

トンガの文化と福音の類似点は、安息日を守ることにとどまりません。「わたしたちは家族を第一にします」と、ホボアテ長老は言っています。「母親も父親も子どもたちも、祖父母もおじもおばも、いとこもおいもめいも、皆、家族と呼ばれます。親戚ではありません。教会は家族の大切さを強調しているわけですが、教会が発展している理由の一つはそこにあるのです。」

末日聖徒イエス・キリスト教会は、ここトンガで発展を続けています。トンガの人口10万6,000人のうち、4万6,000人以上が末日聖徒です。これは実に40パーセント強の数字で、世界のどの国よりも末日聖徒の人口比率が高くなっています。

この統計上の数字は、多くの人にとって何ら驚くようなことではありません。「トンガの人々が末日聖徒になるとき、福音は彼らがそれまで持っていた善良な価値観にまさに磨きをかけてくれるのです。」そう語るのは、リアホナ高等学校の教師ヘレン・ラツです。「それはちょうど、福音という良薬の量を2倍にしているようなものです。」

リアホナ高等学校の校長メレ・タウモエベアウも、その意見に賛成して、



こう言っています。「わたしたちの日常生活は大半が信仰を基礎にしています。社会そのものが、神を信ずる信仰を基盤に築かれているのです。」

アロファンガ・モリとアナ・モリ

アロファンガ(アロ)・モリの人生は、福音を受け入れた結果、見事に磨き上げられてきました。ババウ島で過ごしていたまだ若いころ、アロはひどい頭痛と鼻血のために、きちんと学校へ通うことができませんでした。アロは教会員ではありませんでしたが、教会員であったアナを好きになりました。1957年12月、アロはバプテスマを受けます。そしてしばらくすると、労働宣教師として奉仕するよう召しを受けたのです。集会所の建築を助ける召しでした。しかし、健康の問題はなお彼を悩ませていました。そんなある日、病気で横になっていた彼は神権の祝福を受け、主に仕えるならその病気に二度と襲われることはないという約束を受けたのです。そのときから今までその祝福は成就し続けています。

教会の召しを尊んで大いなるものとするにつれ、アロの知識と理解は、どんどん深まっていきました。1960年にアナと結婚し、1962年には二人で2年間の伝道活動に従事します。モリ兄弟は、どの任地でも支部長として召されて奉仕しました。

二人は伝道を終えると、まだ幼い娘を二人連れて、アナの兄弟のところで農



業をするためにエウア島へ移住します。そこで、アロは地方部の副部長として仕えました。「わたしたちの伝道は、その後に受ける様々な召しのための準備だったのです」とアロは語ります。「その後、わたしは支部長として11年間奉仕しました。わたしたちの14人の子どものうち、残りは皆ここで生まれたのです。」

このようにして受けた福音の訓練は、彼の個人的な生活にも生かされています。モリ兄弟はこう説明しています。「1982年にハリケーン・アイザックの被害に遭いました。作物は全滅し、わたしは仕事を見つけなければならなくなりました。すると、まったく予期せぬ機会が与えられ、3年間、雑貨店を経営することになったのです。支部長を務めた経験のおかげで、自分が何をしなければならぬのかよく分かっていました。だれもわたしがやり遂げられるとは思っていなかったようです。学校へ行ったことがないのですから。でも、聖霊がわたしを教えてくださいました。」

現在、アロは神殿の結び固めの儀式執行者として、アナは神殿ワーカーとして仕えています。アロの言葉です。「わたしは太平洋上の小さな島で農業しかしたことがありませんが、福音が真実であり、イエス・キリストが確かに実在しておられることの証人です。」

「奉仕の伝統」

末日聖徒の最初の宣教師が首都スクアロファに到着したのは、1891年のことです。そのときが、サモア伝道部トンガ地方部の始まりでした。トンガ伝道部は1916年に創設されるのですが、1922年には、法律によって、ほんの少数の北アメリカ人を除いてはビザの取得が禁止されることになりました。この問題に対応するため、伝道部長は、トンガの人々に自国で宣教師として奉仕するように呼びかけたのです。その後の20年間で、トンガは忠実なメルキゼデク神権指導者の太い心棒を築きました。そのため、1940年に、第二次世界

大戦のためにトンガから外国人が引き揚げたとき、すでに地元の力強い指導者たちが十分役割を果たしていたのです。そして1946年6月7日、新しい伝道の道具が登場します。トンガ語のモルモン書が出版されたのです。1954年には、トンガの聖徒たちは母国語で書

左——サミソニ・ウアシラアとメレアネ・ウアシラア
上右——ババウの港



かれた教会の機関誌を入手できるようになりました。

現在、伝道に出るということは、トンガの若者の間ですでに確立された伝統となっています。ケリクパ・キバル伝道部長が仕えたトンガ・スクアロファ伝道部は、地元の宣教師による伝道プログラムに関して教会で最も成功した伝道部の一つです。キバル部長はそれをこう説明しています。「伝道部には、どんなときでも平均160人の宣教師がいます。しかも、トンガ人以外の人がいるのはまれです。宣教師同士が知り合いだったとか、教える相手を知っていたということはよくあります。宣教師は文化や言語に精通しています。会員たちも宣教師のことをよく知っており、食事に招待したり、住む場所を提供したりしています。」

1968年9月には、トンガで最初のステーキが設立されました。教会員数は1万人を少し超えたところで、伝道部には10の地方部と50の支部があったときでした。

地元の初期の指導者の中に、トンガ・パレツアという人物がいます。この78歳の老人からは今でも笑い声が絶え間なく聞こえてきます。彼は、伝道部長、地区代表、神殿長、祝福師という召しを、トンガ人で初めて受けた人でした。妻のルイサ・ヘヘア・コナイとともに、ほかの数多くのトンガ人夫婦と同様、指導力を発揮してきました。数十年にわたる奉仕を記録したスクラップブックや数百枚の写真が、居間の壁の片側を占領しています。居間の反対側は何の装飾もなく、すっきりしています。パレツア兄弟は、ここで祝福師の祝福を授けます。生涯にわたる献身的な奉仕の業を続けているのです。

シオネ・ツアルア・ラツ

教会のリアホナ高等学校の学生の99パーセントは教

会員です。しかし、1950年代にこの高校に在籍していたシオネ・ツアル・ラツは、そうではありませんでした。信仰を異にする学生の多くがそうであるように、シオネもやがて証^{あかし}を得て、バプテスマを受けます。当時を思い出して、彼は次のように語っています。「わたしは、子どもが9人いる貧しい家庭に育ちました。わたしたちは小さな島に住んでいました。父親はわたしが生まれる前に亡くなりましたので、わたしは家族の助けになることを何かしたいと考えていました。そこで、わたしは努力をしてチャーチカレッジ[現プリガム・ヤング大学ハワイ校]へ進学しようと決意しました。しかしそのためには、政府が課す非常に難しい試験に合格しなければならないことも承知していました。わたしは恐れしました。でも、わたしは、断食して祈れば、主が答えを与えてくださると教えられていました。そこで、ひそかに祈りをささげる場所を探し始めました。学校から帰宅する途中、タロイモ畑を通り過ぎました。タロイモは背の高い、葉の大きな植物です。わたしはこう考えました。『もしジョセフ・スミスが森の中で祈って、その答えが得られるというならば、わたしだってここで祈れば、祈りの答えが得られるはずだ。』わたしは断食を始め、そのタロイモ畑に戻りました。辺りにだれもないことを確認し、大きなタロの葉の下に入ってひざまずきました。随分長い間祈っていたように思えます。天のお父様をほんとうに身近に感じました。立ち上がると、シャツは涙でぬれていました。』

シオネ・ラツは試験に合格して、奨学金を受けることになりました。「わたしは、こうした一連のことは、タロイモの葉の下で祈りをささげたその答えとしてもたらされたことを知っています。わたしはひざまずいて、主に感謝をささげ、必ず戻って来て家族と祖国を助けますと主に約束したのです」と語っています。

ラツ兄弟は実際に祖国に戻り、長い間、教会の指導者として、また才能あふれる実業家として、人々に奉仕をしてきました。現在、教会の広報ディレクターを務めています。まさに適役の召しです。この召しを通じて、彼は、末日聖徒がトンガの国の全域にわたってますます良い影響を与えつつあることを実感しているのです。

例えば、ある地域社会の指導者で、トンガの青少年のためのテレビ番組審査会の委員を務める人がいますが、この人は教会の宣教師を絶賛しています。それは、



人生の大事なときに、このような若い人たちが、自分の時間を聖文の研究やイエス・キリストの生き方の習得に使っているからだとのことです。

家族を第一に

「この国では、子どもは親を尊敬しています。」そう語るのは、ラニ・ホボアテです。「それはわたしたちの文化でもあり、伝統でもあります。いつでも行儀良く振る舞おうと努めます。家族のプレッシャーが現実にあります。良い意味でのプレッシャーです。村に住んでいますと、だれでもお互いに知っています。人々は見守り合うわけです。デートのときには付き添いが一緒に来ることさえあるんですから。」

トンガの教会の実務をつかさどるスリアシ・ベア・カウフシもその意見に同意しています。「トンガの人々は、自分自身のことを考えるよりも先に、家族のことを考える傾向にあります。父が亡くなったとき、わたしはチャーチカレッジにいましたが、戻って来て、母が12人の弟や妹を養うのを助けました。そういうことはここでは普通です。時には、大きくなった子どもがもっと良い仕事に就くためにトンガを離れることもあります。そういう場合でも、給料の一部を必ず家族のもとへ仕送ります。実際、多くの家族にとっては、そういう仕送りが大事な収入源になっていることもあります。しかし、トンガの人々は、たとえ国を離れても、家族や地域社会に対する意識があるので、トンガに対して実に強烈な帰属意識を持っています。わたし自身の弟や妹も、今では、トンガ、ニュージーランド、アメリカ合衆国と世界各地に住んでいますが、皆お互いを非常に身近に感じています。」

もちろん、家族が離婚で苦しむ場合もないわけではありません。しかし、そういう場合でも、親戚も含む大家族の一員であり、愛のあるワードの会員であるという意識が、家族を癒してくれます。福音の教えも、忠実に生き続ける助けになります。6年前に、7人の子どもを連れて離婚したある姉妹はこう言っています。「わたしの夫は末日聖徒ではありませんでしたが、子どもたちとわたしはいつも家庭の夕べを開き、家族の祈りをささげ、聖文の勉強をし、聖句の暗唱もしていました。夫が出て行った後で、わたしはパン屋で働き始めました。年上の子どもたちもそれぞれ仕事を見つけました。家族もワードの会員たちも助けてくれたのです。」この家族の中から、これまで3人の息子と1人の

娘が伝道に出、神殿で結婚しました。弟妹たちは、まだ家で一緒に生活しています。「息子たちの神権と福音に対する一人一人の証が、これまでわたしたち家族を支えてくれたのです」と、この姉妹は語っています。

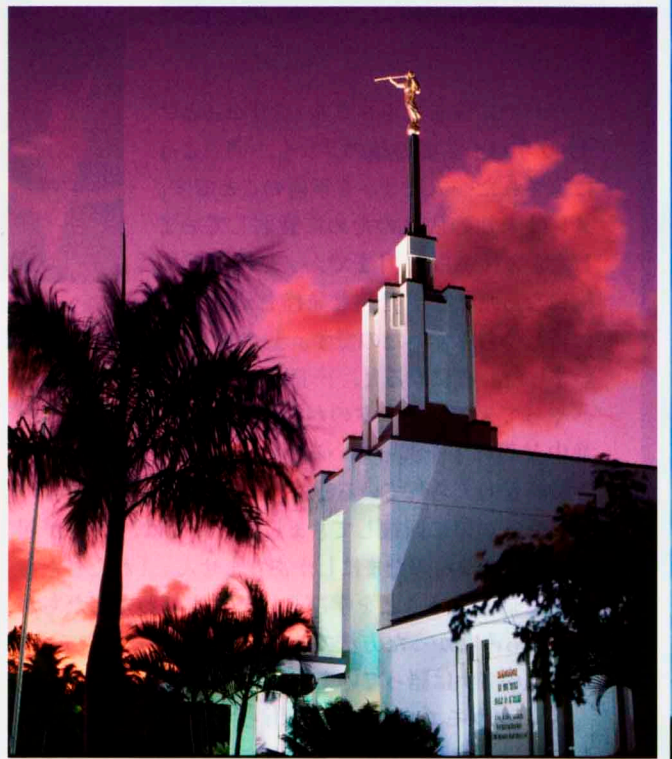
トンガ・ヌクアロファ神殿

白く輝くトンガ・ヌクアロファ神殿は、この地の象徴となる建造物です。1983年8月9日にゴードン・B・シンクレイ大管長によって奉献されたこの神殿は、1週間に6日開館し、毎月最終金曜日は一晩中開いています。先祖のために神殿の儀式を行う教会員たちが大勢やって来ます。

ここでは伝統的に家族が大切にされてきましたから、トンガの人々は自分の先祖に対して特別な関心を抱いています。多くの墓が花で飾られていますが、それだけでなく、木枠に納められた手作りのキルトで装飾されている墓もあります。キルトは、自然に朽ちるまでそのまま置かれています。このようなキルトは、亡くなった先祖たちに対してトンガの人々が抱く愛と敬意をそのまま表したもののなのです。

かつて、トンガの人々は自分の先祖に関する情報を、タバという布(樹皮をたたいて作った粗い紙)の長い巻き物にして記録していました。自分の家族の歴史を数百年にわたってさかのぼれる家族も多く存在します。現在では、数多くの教会員が、神殿の儀式を執り行う準備として、こうした情報を系図用紙に書き換えたり、コンピューターに入力したりしています。

下——シオネ・ツアルア・ラツとヘレン・カレオアロハ・カネアクア・ラツ夫妻。子どもや孫の一部とともに。
上——トンガ・ヌクアロファ神殿



あらゆる人が神殿の恩恵を受けています。「ここに神殿があるおかげで、トンガのあらゆる人が特別な感情を抱くようになりました」と語るのは、シオネ・フィネア・ンガノフォ神殿長です。

信じることの祝福

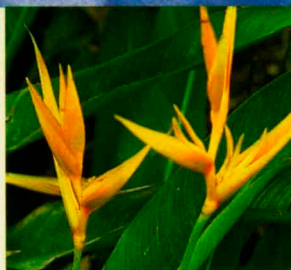
トンガでは、慰めを得たり、苦しむ者を癒したりする手段として、神権の力を行使したという証がどこでも聞かれます。トンガ出身の44歳のシオネ・シアキは、熱と痛みでひどく苦しんでいました。多くの人は、彼が死ぬのではないかと心配しました。トンガの病院は満室でしたが、一人の看護婦が彼の自宅まで薬を運んでくれました。1か月以上にわたって、毎日毎日苦しみが続きます。当時を思い出して、シアキ兄弟はこう語っています。「わたしは死ぬのを待っていました。そんなとき、扶助協会の会長が、ワードで断食をしたらどうかと提案してくださったのです。彼女は監督と話し、300人いるワードの会員が2度にわたって、わたしのために断食をしてくれたのです。その断食の前は、わたしは動くこともできませんでした。2度目の断食の2週間後、ベッドで体を起こせるようになり、次第に回復していったのです。今、わたしは神殿ワーカーとして働いています。神殿の中にいるときには、自分が救われたのはたぶんこのためなんだという実感が、心にひしひしと伝わってきます。」

ババウに住むアホンガル・フリバイとアナ・フリバイ夫妻の娘のメレも、同じように癒された一人です。9年前のことです。メレは未知の病気のために衰弱していました。3月から12月まで、メレは病院で横になったまま、発熱と発作と幻覚症状に苦しめられていたのです。昼の間は、母親が付き添いました。夜になると、一日中働いていた父親が病院へやって来て、ベッドのわきに座ります。メレは、一晩中父親の手を握っていると心が休まるのです。父には神権が与えられていると思うと慰められたのです。

メレは次第に回復してきました。今では、問題が起きることはほんのたまにしかありません。「わたしたちは主を信頼することを学びました。主はわたしたちが思ってもみなかった方法で祝福してくださったのです」と母親のアナは語っています。

メレ・タウモエペアウはこう言っています。「わたしはここがほんとうに平和で安全なことに、心から感謝しています。金銭的な意味でわたしたちが持っていないものがあつたとしても、愛を抱き合い、国中が信仰で満ちているために、それを補って余りあるほどのものがあります。この世的なものについて言えば、すべてを

持っているとは言えないかもしれませんが、わたしたちは御霊にかかわることでは確かに祝福を受けています。」



契約を固める

ババウの月曜日の夕方です。薄暗くなっていますが、多くの家の窓からは温かな光がもれてきます。夜の風に乗って、「神の子です」のメロディーが聞こえてきます。家庭の夕べを開いている数軒のう

ちのどこかから聞こえてくるのでしょうか。ツキア・ハベアとリンダ・ハベア夫妻の家からは、子どもたちの笑い声が、初等協会の歌の歌詞やメロディーに混じって聞こえてきます。

「子どもたちと一つになるとき、そして子どもたちに福音の原則を教えるときに、わたしたちは音楽という言葉を使います。」そう説明するのはリンダです。「子どもたちはよく歌いますが、時々、意味の分からないまま歌っていることもあります。でも、必ず子どもたちの記憶にとどまり、最終的には理解できるようになるのです。」

町の反対側では、ウアシラア家族も家庭の夕べを開いています。いつもと同様、子どもたちの友達も参加していて、一緒に賛美歌を歌ったり、今度はどの友人や隣人を招待して宣教師の話聞いてもらおうかと話し合ったりしています。

どの家庭をのぞいても、信仰篤い人々がいます。末日聖徒もいれば、ほかの宗教を持つ人もいます。どの人も皆、レビ記に書かれている約束を十分に堪能しています。「あなたがたはわたしの安息日を守[ら]なければならない。……これを行うならば、わたしはその季節季節に、雨をあなたがたに与えるであろう。地は産物を出し、畑の木々は実を結ぶであろう。……あなたがたは飽きるほどパンを食べ、またあなたがたの地に安らかに住むであろう。わたしが国に平和を与える……。わたしはあなたがたを顧み、多くの子を生ませ、あなたがたを増し、あなたがたと結んだ契約を固めるであろう。」(レビ26:2, 4-6, 9)

トンガでは、このように約束された祝福が、国土のうえにも、信仰篤い人々のうえにも、あふれるばかりに注がれているのです。□

**トンガでは末日聖徒の宣教師は
ごく日常的に見かけることができます。**



御存じでしたか？

4月に起こったこと

教会歴史の中の重要な出来事の幾つかは、4月にありました。

1830年4月6日——末日聖徒イエス・キリスト教会が組織されました(教義と聖約20章参照)。

1836年4月3日——救い主とモーセ、エライアス、エリヤが、カートランド神殿でジョセフ・スミスとオリバー・カウドリの前に姿を現されました(教義と聖約110章参照)。

1844年4月30日——アディソン・プラットがツブアイ諸島に到着。プラット長老は南太平洋初の末日聖徒宣教師でした。

1893年4月6日-24日——ウィルフォード・ウッドラフ大管長が31回のセッションを行い、ソルトレーク神殿を奉献しました。

2000年4月1日-2日——ユタ州ソルトレーク・シティーに新設されたカンファレンスセンターで、総大会が開催されました。

シオンの女流詩人

中央扶助協会の第2代会長、エライザ・R・スノーは1804年1月21日に生まれました。31歳で改宗する前から、エライザは将来を囑望された詩人でした。教会に入り、詩のテーマは「愛国心」から、「聖徒を鼓舞し、神をたたえるもの」に変わりました。預言者ジョセフに才能を認められたエライザは、ジョセフから「シオンの女流詩人」と呼ばれました。聖徒が土地を追われて各地を転々としていたときにも、エライザは自らも数多くの試練を受けたにもかかわらず、詩作によって人々を励ました。エライザの詩には曲が施されたものが多数あります。中でも賛美歌としてよく知られているものに、「高きに栄えて」(『賛美歌』180番)があります。

1855年5月、ソルトレーク・シティーでエンダウメントハウスが奉献されたとき、ブ

リガム・ヤング大管長は、エライザをエンダウメントハウスで働く姉妹たちを管理する責任に召しました。体が弱かったため、十分な奉仕ができないのではないかとエライザは懸念しましたが、主は彼女を強められました。1866年、エライザはヤング大管長によって扶助協会の会長に召され、その後21年にわたってその召しを果たしました。また執筆活動も続けて行い、弟である第5代大管長ロレンゾ・スノーの伝記も作成しました。エライザは83歳のとき、ユタ州で亡くなりました。

上から—「ホイットマー家の小庵で組織された教会」
ポール・マン画：「神権の鍵を回復するエリヤ」 ロバート・T・バレット画：アディソン・プラット、ソルトレーク神殿、カンファレンスセンター、エライザ・R・スノーの写真：「ベテロとアンデレを召されるキリスト」ハリー・アンダーソン画。



指導者のためのアドバイス

イエスは御自身の業に加わるよう弟子たちを召すことにより、彼らへの信頼の証とされました。わたしたちも責任ある立場にあるときに仕事の一部を委任することで、相手との関係を強めることができます。

- 割り当てる仕事の内容を十分に理解する。

- その仕事を引き受けるように依頼する。
- 仕事の内容を明確に説明する。
- 期日を設定する。
- 仕事を終えたら報告するように求める。
- 首尾よく仕事を終えたことに対して、惜しみなく賛辞を送る。□

『リアホナ』 2002年4月号 の活用法

レッスンのためのアイデア

■「靈感を伝える言葉」2ページ——ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、来世に行ってもわたしたちの人格は現世と同じであると述べています。わたしたちが抱く望みは、言葉や行いを形成するうえでどのような役割を果たすのでしょうか。義にかなった望みをはぐくむにはどうしたらよいのでしょうか。

■「偉大な栄えある贖罪を証する」6ページ——ニール・A・マックスウェル長老によれば、人生が思うようにいかないときに神に感謝を示すために何ができるのでしょうか。

■「どのように悔い改めたらよいか知っていますか」14ページ——ジェイ・E・ジェンセン長老が神殿推薦状の面接で監督から聞かれた質問に対して、あなたならどのように答えますか。

■「イエス・キリスト」F2ページ——クラスの生徒たちや家族に、救い主に関して知っていることを挙げさせます。挙げられた項目と、ロバート・D・ヘイルズ長老が挙げた、イエス・キリストがなされた事柄についての14項目を比較してください。

今月号に採り上げられているテーマ

贖い	6, 14, F4
安息日	40
イエス・キリスト	2, 6, 14, 18, 22, F2, F4
癒し	18
教えること	48
改宗	18
家庭の夕べ	48
家庭訪問	25
感謝	26
希望	18
逆境	6, 18
旧約聖書	30, F7
教会歴史	30, 47
悔い改め	6, 14
指導性	47, 48
従順	29
初等協会	F14
神殿と神殿活動	F13, F14
新約聖書ものがたり	F8
救いの計画	F14
聖餐	F4
聖霊	6, 25
世界に広がる教会	40
伝道活動	6
富	26
平安	22
奉仕	2, 26
ホームティーチング	5
守り	29
赦し	F8
預言者	2
靈感	2

自分の一祝福

自分の一の律法に従って生活することで、信仰が強められた経験はありますか。あなたの経験談を Tithing Blessings, Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT84150-3223, USAへ、またはEメールで CUR-Liahona-IMag@ldschurch.org までお送りください。氏名、住所、電話番号、ワード／支部、ステーク／地方部を必ず明記してください。

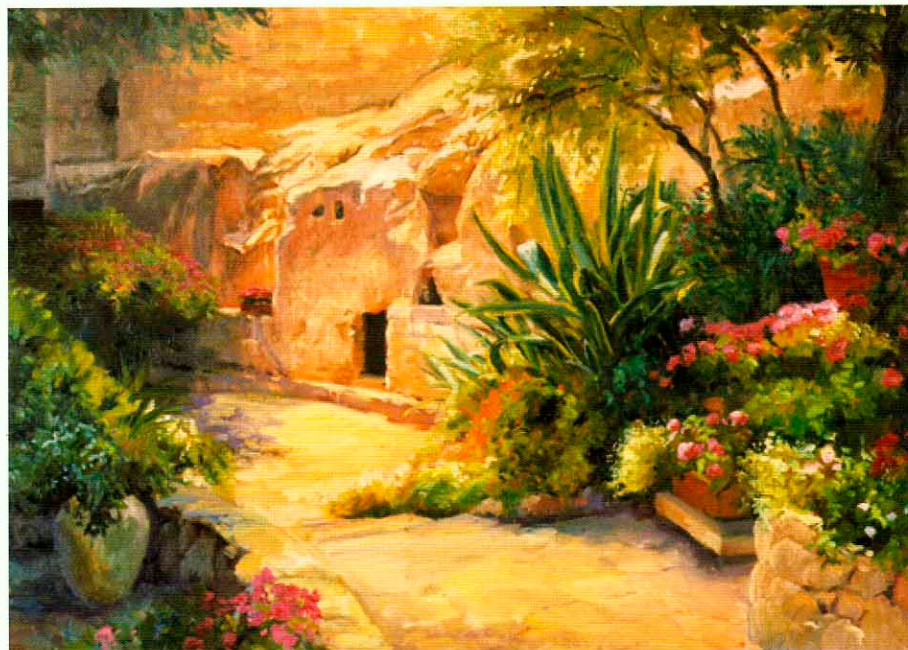




「昇天」ウィリアム・ヘンリー・マーゲットソン画

「祝福しておられるうちに、彼らを離れて、〔天にあげられた。〕

彼らは「イエスを拝し、」非常な喜びをもってエルサレムに帰〔った。〕」(ルカ24: 51-52)



「天の御父の、御自分の子どもたちに対する最も深い愛を

表しているのは、イエスとイエスの^{しよくざい}贖罪です。

全人類に復活が無条件で与えられることは何と重要なことでしょう。

また喜んでふさわしく生活したりふさわしさを証明したりする人々に、

神の最も大いなる^{たまもの}賜物である永遠の命が授けられることは、

何と重要なことでしょう。」

ニール・A・マックスウェル長老「偉大な^{あかし}栄えある贖罪を証する」

6ページ参照。

専任宣教師

2002年2月(267期生)11人・海外2人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



かとう なほ
加藤 奈穂
札幌伝道部
福岡ステーキ
北九州ワード



かまた ゆうじろう
鎌田 裕次郎
東京南伝道部
仙台ステーキ
古川支部



おさか じゅん
小阪 隼
東京北伝道部
大阪堺ステーキ
和歌山ワード



しの ゆりこ
志野 百合子
東京北伝道部
大阪堺ステーキ
河内長野ワード



ひらよし ありさ
平良 有茶
仙台伝道部
那覇ステーキ
小祿ワード



たなか りき
田中 力
福岡伝道部
東京東ステーキ
長生ワード



どうの あい
堂野 愛
東京南伝道部
大阪堺ステーキ
泉南ワード



まつざき しずか
松崎 静香
札幌伝道部
熊本ステーキ
熊本ワード



まつばら ゆりこ
松原 由理
福岡伝道部
金沢ステーキ
福岡ワード



わた かのり
牟田 香織
仙台伝道部
福岡ステーキ
久留米ワード



むらた ゆりこ
村田 裕次
札幌伝道部
金沢ステーキ
高山支部



いわま あきや
岩間 麻江
イリノイ州
ノーブー伝道部
大阪北ステーキ
花屋敷ワード



むらやま りえ
村山 絵里子
台湾・台中伝道部
福岡ステーキ
福岡ワード

*

奉献された教会堂

長野地方部諏訪支部

住 所 〒391-0001

長野県茅野市ちの
字葛井 315-2

電 話 0266-73-0848

竣工日 2001年11月29日

建築面積 402.70平方メートル

延床面積 396.83平方メートル

敷地面積 1692.66平方メートル

長崎地方部長崎支部

住 所 〒852-8051

長崎県長崎市
西北町 3-7

電 話 095-844-3712

竣工日 2001年12月14日

建築面積 241.38平方メートル

延床面積 658.80平方メートル

敷地面積 992.30平方メートル

役員の異動

2001年2月14日から2002年3月14日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の異動(敬称略)

●御坊地方部新宮支部

支部長:上村 洋生

●長野地方部諏訪支部

支部長:越中 隆雄

●日本松山地方部

第一副部長:重松 征史

第二副部長:刈谷 真爾

●長野地方部上田支部

支部長:江崎 誠

●岡崎ステーキ三河支部

監督:Lima, Moizes Almeida

●日本鹿児島地方部

地方部長:川原 健郎

第一副部長:久木崎 真人

第二副部長:Petersen, Dennis Curt

●郡山地方部津若松支部

支部長:斎藤 雄仁

●金沢ステーキ高岡ワード

監督:大井 博美

新設ユニット

2002年2月17日、岡崎ステーキ三河支
部が設立されました。使用言語はボル
トガル語、集会所は豊橋ワードと共用。

皆さんの情報をご提供ください

◎あなたや友人の経験、また地域のニ
ュースなど、全国の読者に紹介したい
有意義な情報をお寄せください。

◎お願い——海外に召される日本人宣
教師を紹介いたします。氏名[フリガナ]、
所属ステーキ/地方部、ワード/支部、
MTC入所月、伝道部名を明記のうえ、
編集室に写真を添えてお知らせください。
デジタルカメラでお撮りになった画像デ
ータ(JPEG)を添付しての電子メール入
稿(下記アドレスあて)も歓迎いたします。

◎あて先:〒106-0047 東京都港区南麻
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト
教会『リアホナ』編集室

TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

電子メール Liahona-jp@ldschurch.org

◎国際機関誌『リアホナ』のお届け、

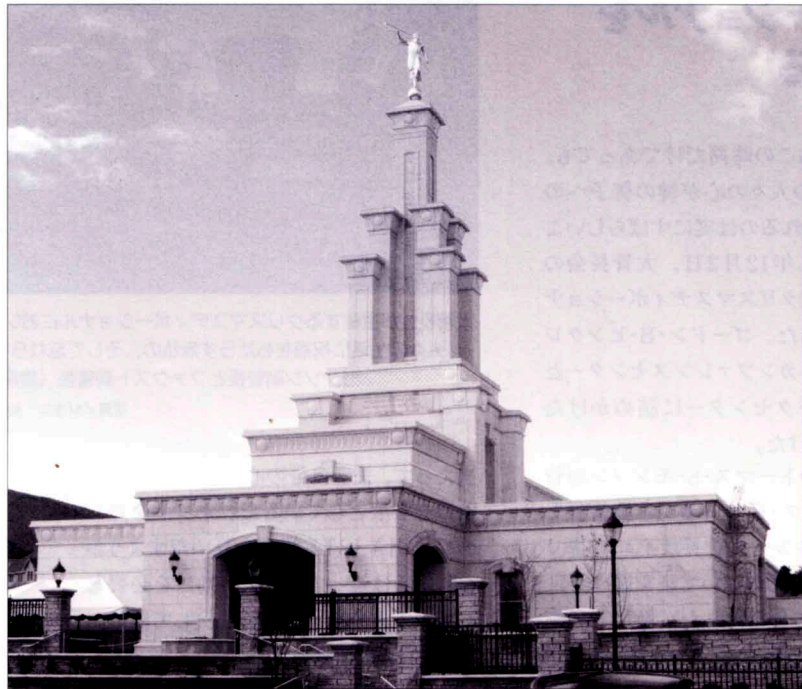
その他商品に関するお問い合わせは——

教会配送センター

TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392



ヒンクレー大管長, ワシントン州コロンビアリバー神殿を奉献



コロンビアリバー神殿は、合衆国のワシントン州南東部と
オレゴン州北東部の教会員を対象に神殿業務を行う。

写真/ジェーソン・スウェンセン、『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、儀式が執行される教会の神殿として107番目に当たる、合衆国のワシントン州リッチランドに建てられたコロンビアリバー神殿を奉献した。2001年11月18日、奉献セッションが4回行われた。

ヒンクレー大管長は奉献の祈りの中で次のように述べた。「感謝の念にあふれたあなたの民がこの宮を建てました。大勢の人がここを訪れ、好奇心から来た人も、称賛の思いを抱いて帰ります。彼らの心が御業^{みわざ}に向けられ、あなたが明らかにされた真理を学びたいという願いを持つようになりますようにお祈りいたします。

あなたの民とその家族のうえにあなたの祝福がありますように。天の窓が開かれ、あなたの御心と律法に従って、自分の時間と資力をささげる忠実な人々のうえに豊かな祝福が注がれますように。御業が諸国に広がり、全地がシオンとなりますように。」

奉献式にはヒンクレー大管長とともに、十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老、七十人で北アメリカ北西地域会長会長のクエンティン・L・クック長老が同席した。

ワシントン州コロンビアリバー神殿は、ワシントン州南東部とオレゴン州北東部の末日聖徒を対象に神殿業務を行う。奉献式には約1万5,000人の教会員が出席した。この神殿が奉献される以前、地元の教会員たちはワシントン州シアトルやスポーケン、またはオレゴン州ポートランドの神殿へ行かなければならなかった。

10月27日から始まり、日曜を除いて11月10日まで続いたオープンハウスには、6万5,000人近くが訪れた。ヒンクレー大管長が奉献の祈りの中で請い求めたように、これらの訪問者の多くは福音についてさらに学びたいと願い出た。オープンハウスが行われた数週間、ワシントン州スポーケン伝道部では、オープンハウスの訪問者の中で20人以上の人が教会に入り、それを上回る数の人々が求道者となった、と報告している。

アラン・D・アルダー神殿長はこのように述べている。「新しい神殿は地域社会で大変良い評判を受けています。そして教会員はとても感謝しています。こんなに近くに神殿があることに心から感謝し、涙を流して喜んでいます。」□

大管長会、 年次クリスマス ディボーションナルを 開催する

「1 年のうちこの時期だけであっても、世界中の人々の心が神の御子への賛美に向けられるのは実に素晴らしいことです。」2001年12月2日、大管長会の主催する年次クリスマスディボーションナルが開催された。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、カンファレンスセンターと各地のステーキセンターに詰めかけた人々に語りかけた。

大管長会のトーマス・S・モンソン副管長、ジェームズ・E・ファウスト副管長とともに、ヒンクレー大管長はイエス・キリストの生涯と務めについて証を述べた。

「主によって与えられた、救いと昇栄をもたらす主の計画は、その驚くべき栄光とともに今、再びわたしたちに与えられています。主は全能の主であり、全能者の御子であり、生きて、この業を導いておられます」とヒンクレー大管長は語った。

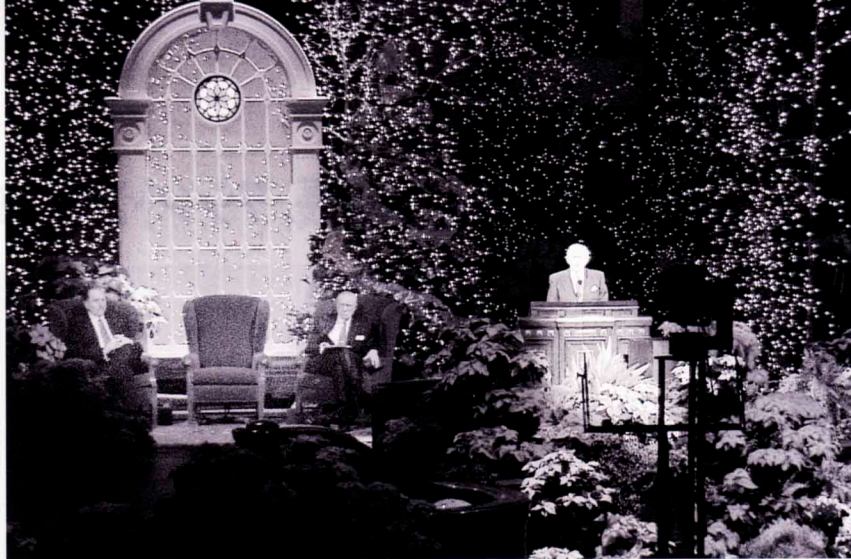
「今、世界は戦争に突入しています。わたしたちの文明そのものが危機に瀕しています。けれども、あらゆる衝突、不和、戦いの音と嵐を超越して、主はわたしたちの避け所であり、堅固な岩であり、平安の源であり、慰めであり、人の不死不滅の確かな言葉です。

全能者とその独り子である全人類の贖い主を賛美します。生ける神の生ける御子であり、わたしたちの贖い主であり、王であり、ユダヤのベツレヘムでお生まれになり、今この時期にわたしたちがたたえているイエス・キリストによって、わたしたちは皆より善い人となり、生活が豊かになり、信仰が確かなものとなります。

わたしたちはキリストのゆえに、もう少し親切になり、思いやり深くなり、隣人愛を示し、霊的に豊かになります。」

ヒンクレー大管長はわたしたち一人一人が救い主の愛と奉仕の模範に従うためにもう少し努力するよう求めている。

「このクリスマスの素晴らしい時期に



大管長会が主催するクリスマスディボーションナルにおいて、ヒンクレー大管長は「皆さん一人一人が人々の生活に祝福をもたらす無私の、そして忘れられない経験ができますように」と語った。

モンソン副管長とファウスト副管長（着席）も壇上に立って話している。

写真/ジョン・ルーク

当たって、まず自分の心をよく吟味して、助けを必要としているだれかに手を差し伸べ、引き上げる機会を見いだすようわたしたちは祈っています。助けを必要としている人を見いだすのは決して難しいことではありません。

兄弟姉妹、少年少女の皆さん、わたしたちは皆もう少し親切になり、もう少し忍耐し、もう少し助けの手を差し伸べることができます。様々な理由から苦しんでいる非常に多くの人々にわたしたちは皆手を差し伸べることができます。わたしたちは怒りを愛に置き換えることができます。生活の中から利己心を追いつくことができます。ひざまずいて、イエスの御名によって御父に祈り、それから立ち上がって、貧しい人、困っている人、虐げられている人、問題を抱えている人に祝福をもたらすために手を差し伸べることができます。……

皆さん一人一人が人々の生活に祝福をもたらす無私の、そして忘れられない経験ができますように。」

モンソン副管長は今、世界にあふれているチャレンジと祝福に思いをはせて、次のように語った。「わたしたちは昨年、この伝統あふれるクリスマスディボーションナルとともに過ごしました。それ以来、世界で様々なことが起きました。9月11日にテロリストが合衆国を攻撃し、さらにテロの脅威が依然として続いている今、待ち望まれていた地の平和の祝福は、はるか遠いものとなりました。

自由のためにかつてなかったほどの代価が支払われています。わたしたちは、愛する人々を奪われて寂しい思いをしている家族や、日々彼らの身の上を案じている人々のために祈っています。平和のひながたが見いだされ、天からの祝福として人に対する善意を持つことができるように、わたしたちは心をつ一つにして天の御父に熱心に祈っています。」

モンソン副管長はわたしたちが今一度、キリストのような生活を目指す決意を新たにすることを自らの熱い思いを込めて語った。「このクリスマスの季節ほどに、イエス・キリストが教えられた原則に再び献身するのに適した時期はありません。クリスマスは心を尽くして主なる神を愛し、自分を愛するように隣人を愛する時です。」

ファウスト副管長はクリスマスの伝統の大切さを説明して、このように語った。「クリスマスに大きな意味がある一つの理由として、毎年、家族のきずなを強めるという伝統が重んじられていることが挙げられます。……わたしたちはクリスマスの伝統を守り続けることによって、過去と現在と未来を結びつけているのです。」

わたしたち一人一人が大切にすることをキリストの送られた生涯に集約されるものでなければならぬとファウスト副管長は語っている。「過去のクリスマスで感じた幸せに思いをはせ、今年のクリスマスを迎える喜びに

いて考えるとき、お互いに対して愛を表すクリスマスの伝統を守り、そしてこの伝統を不朽のものとしようではありませんか。もちろん、最も偉大な伝統は、わ

たしたちがクリスマスを祝う理由そのものでもあります。それはわたしたちが『大きな喜びを』『すべての民に与え』なければならぬことです(ルカ2:10参照)。

わたしたち一人一人が大切にする伝統は、あらゆる伝統の中で最も偉大なこの伝統に集約されるものでなければなりません。」□

ヒンクレー大管長、 デビッド・O・マッケイ大管長をたたえる

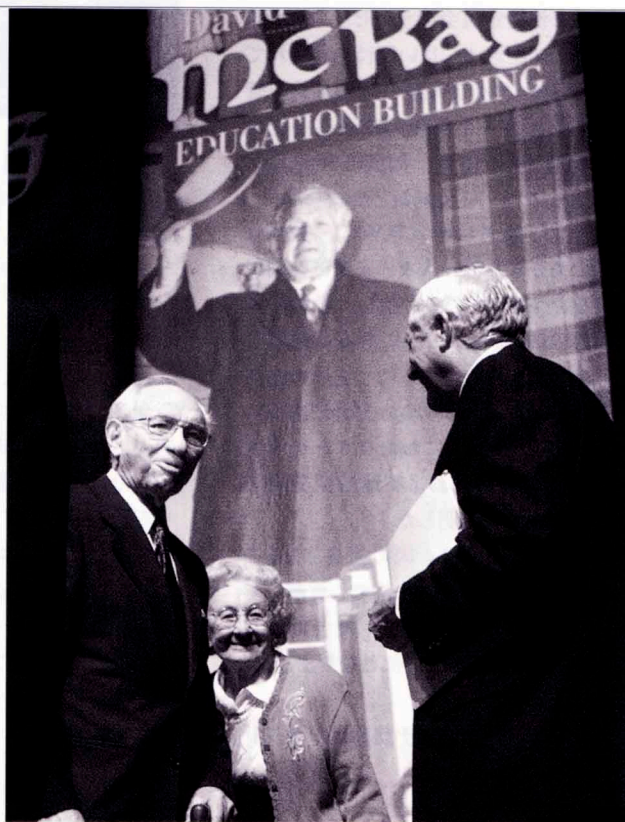
ユタ州オグデンのウィーバー州立大学構内に、デビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)の名を冠する教育校舎が完成した。奉献式に出席したゴードン・B・ヒンクレー大管長は第9代大管長をたたえて、このように語った。

「この美しく、実用的な建物にデビッド・O・マッケイ教育ビルディングと名付けるのはふさわしいことです。この建物はマッケイ大管長をたたえ、この教育施設に寄せた彼の愛に報い、そして大管長の名声をとこしえに刻むものとなります。この建物を通して、この大学に通う学生は高潔さと正直の大切さ、徳や働くこと、美の大切さを即座に思い起こすことでしょう。」

マッケイ大管長はまれに見る「力とエネルギーにあふれた肉体と精神を持ち、若い人たちを愛し、彼らが意義ある人生を築くことを心から願い、ユーモアと厳しい自制の精神の大切さを同時に理解し、学問に打ち込み、懸命に努力す

ることの価値を理解した人でした」とヒンクレー大管長は語った。

デビッド・オーマン・マッケイは少年時代に、当時ウィーバーアカデミーと呼ばれていたこの学校に通い、後に校長となつて、宗教と文学を教えた。さらに施設を拡張するために資金の調達に力を尽くした。デビッド・O・マッケイは1906年に十二使徒定員会に召された後も2年間、校長の職にとどまっている。□



このほどウィーバー州立大学にマッケイ大管長の名を冠する教育ビルが完成した。奉献式に出席して、デビッド・O・マッケイ大管長の孫であるアラン・C・アシュトンとあいさつを交わすヒンクレー大管長夫妻。
写真/トム・スマート、『デゼレトニュース』(Deseret News)の厚意により掲載。

90歳の誕生日を祝うマージョリー・ペイ・ヒンクレー姉妹



「幸せにしていると、長生きするものです」と、多幸な生涯を振り返って語る90歳のヒンクレー姉妹。

写真/トム・スマート、『デゼレトニュース』(Deseret News)の厚意により掲載。

2001年11月23日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の妻であるマージョリー・ペイ・ヒンクレー姉妹が90歳の誕生日を祝った。ヒンクレー姉妹は1911年、末日聖徒の開拓者の子孫としてユタ州ニーファイで生まれた。

幸福が健康で長生きする^{ひみつ}の秘訣であるとヒンクレー姉妹は述べている。「幸せにしていると、長生きするものです」とヒンクレー姉妹は説明する。

近所でもに育ったヒンクレー大管長と姉妹は、青少年のころから互いを知っている。二人は1937年4月、ソルトレーク神殿で結婚した。二人は5人の子どもと25人の孫、そして31人のひ孫に恵まれている。

ヒンクレー姉妹は家族がともに集まったパーティーで誕生日を祝った後、中央幹部とその妻たちとともに祝賀会に出席した。

ヒンクレー姉妹はこれまで数々の業績で表彰されてきた。2001年4月にはユタバレー州立大学より人文学の名誉博士号が授与され、2000年にはブリガム・ヤング大学よりキリスト教徒の奉仕の名誉博士号が授与された。さらに1998年にはモルモンカウンセラー・心理療法士協会より人道的奉仕賞が授与された。

ヒンクレー姉妹は夫に同伴して全大陸を訪問し、タイ国女王やイギリス首相など、高位高官の人々とも交流してきた。

□

ネルソン長老、 ガーナで神殿の^{くわ}鍬入れ

十 二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は、長い間待ち望まれていたガーナ・アクラ神殿の鍬入れ式を管理するためガーナ共和国に滞在中だった2001年11月16日、同国のジョン・アジェクム・クフォー大統領と会談した。

ネルソン長老は同大統領に、教会は会員たちがより善い人々、より善い国民となるよう助けていると話し、教会の関心は家族を強めることにありと強調した。ネルソン長老はさらに、人々の生活向上を助けるという教会の方針に基づいて教会が過去数年にわたりガーナで主催した人道的援助および地域開発事業について概要を説明した。

クフォー大統領は、国の利益となることであれば、いかなる方法でも貢献してほしいと教会に求め、「今や教会はわが国に定着し、国家の一部となりました」と述べた。

ネルソン長老のガーナ訪問は、ネルソ



報道のカメラが回る中、ネルソン長老（右から4番目）ら教会指導者がガーナ共和国アクラで西アフリカ初となる神殿の鍬入れを行った。

写真／ノーマン・ノータ

ン長老と、七十人でアフリカ西地域会長会会長であるH・ブルース・ストゥーキ長老が、ガーナ大統領と会談した際に同行した地元の指導者3人に会い、訓練する目的も兼ねていた。その3人とは地域幹部七十人のエマニュエル・O・オパレ長老、ガーナ・アクラ・クリスチャンボーグステークのリチャード・クウェシ・アハジ会長、ガーナ・アクラ・ラルテレビオコリスステークのチャールズ・ソノ・コリー会長である。

ネルソン長老は、11月16日のガーナ神殿鍬入れ式を管理し、ストゥーキ長老とオパレ長老も列席した。土木技師たちは、1998年2月16日のゴードン・B・ヒンクレイ大管長による同神殿に関する発表以降、建設現場の準備を進めてきた。

鍬入れ式では、ネルソン長老が出席した大勢の地元教会員とその友人たち、およびガーナ共和国のアルハジ・アリウ・マハマ副大統領をはじめとする政界の指導者らに向けて話をした。□

フィジー首相、 ステーク大会に出席

20 01年10月21日、フィジーのライサニア・カラセ首相とレムバ・カラセ夫人が、フィジー・スバステークの大会に出席した。大会後の昼食会では、地域幹部七十人のビタ・F・ホボアテ長老がモルモン書と『ザ・ミッション』(The Mission)を首相夫妻に贈呈した。

カラセ首相は、教会がフィジー国民に行っている良い働きに感謝の意を表した。首相は、教会が国民の思いと心を整えていると評し、フィジーにおいて教会が今後も発展することを望む旨を伝えた。□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、2001年12月8日付けの記事より掲載。

教会、チリ国勢調査に追加される

こ の度初めて、チリ国勢調査の宗教部門に「モルモン」が一つの宗派として掲載された。この国勢調査は2002年に完了する。

以前、教会はプロテスタントに分類されていた。しかし今回、教会員は「どの宗教を信仰しているか」という質問に対し、「モルモン」と答えることができる。

チリ地域の歴史家および広報ディレクターを務めるロドルフォ・アセベドは「教会がチリ社会の中で勢力ある宗教の一つとして認められてきたことは意義深いことです」と語っている。

1992年に国勢調査が行われたとき、アセベド兄弟は国立統計研究所を訪れ、末日聖徒イエス・キリスト教会を別個の宗派として考慮することの必要性を説明した。

アセベド兄弟はこう述べる。「今日、この変更が実を結んでいます。これはわたしたちにとって非常に良い知らせです。国立統計研究所(INE)が初めて、国内の各地方における教会の存在を認めたのです。これによって、これまでの伝統的な方法で分類されることがなくなりますし、チリ国民のどのくらいが教会員として名乗りを上げるかを正確に知ることができます。」

これらの進展は、十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老(1915-1985年)が語った、教会がチリで大きな勢力となるという預言を成就している。□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、2001年12月1日付けの記事より掲載

チェコ初の集会所が奉献される

チェコ共和国で初めて建設された教会の集会所が2001年11月11日に奉献され、現在ブルノ支部の会員280人が使用している。ヨーロッパ中央地域会長会の第一副会長である七十人のロナルド・A・ラズバンド長老により奉献された同集会所には、チェコ共和国初の家族歴史センターも併設されている。

「オープンハウスと奉献式、双方へ高い期待が寄せられていました。この集会所がチェコ共和国でもスロバキアにおいても教会が初めて建設した建物だからです」とラズバンド長老は語る。「集会所には会員とその友人の方々が詰めかけました。わたしたちは御霊があふれるのを感じました。この集会所が、わたしたちの宗教とこの国の間に良い関係を築くのに役立つだろうと感じています。」

「これは教会のこの地における発展の始まりにすぎません」とチェコ・プラハ伝道部のC・リチャード・チデスター部長は言う。「この美しい建物は、教会がこの地で発展し、堅固なものとなっていることを示す大きな指標の一つです。教会は今後さらに強まるでしょう。」

同施設のオープンハウスは10月に2日



ブルノ支部集会所の奉献式に出席する教会および政府の指導者。

左から、C・リチャード・チデスター、ガド・ボイクブカ、チェコ共和国文化省のズデニエク・ノバク、ロナルド・A・ラズバンド、ヤロミール・ホルクマン。(敬称略)

写真/メラニー・ラズバンド、『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

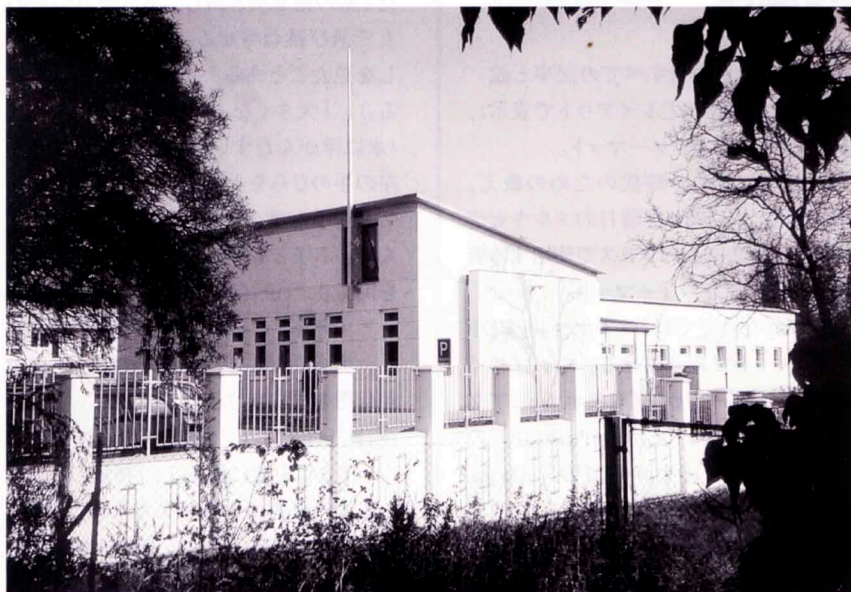
間開かれ、チェコ・ブルノ地方部のガド・ボイクブカ部長がホスト役を務めた。ボイクブカ部長は伝道部が40年以上も閉鎖され、教会員が公然と福音を実践することができなかった旧チェコスロバ

キア時代のことを回想した。ボイクブカ部長の両親は月に1度、自宅で集会を開いた。トーマス・S・モンソン副管長、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老、当時七十人だったハンス・B・リンガー長老、および当時チェコスロバキア地方部の部長を務めていたイジー・スネデルフレル兄弟の尽力により、教会は1990年に承認された。今、ボイクブカ部長は自分と家族が自分たちの集会所で毎週教会に集えることを感謝していると言う。ボイクブカ部長の子どもたちは4代目の教会員である。

「このようなことが実現し、ほんとうにうれしく思っています」と会員のダナ・メリカロバ姉妹は言う。「わたしたちはこれが主の業であり、御業は前進することを知っています。これからは、人々が福音を知ることができます。天のお父様とどうしたら話せるかを知ることができます。人々は幸福になることができます。そして、これが主の業の目的なのです。」

□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、2001年12月1日付けの記事より掲載。



ブルノ支部の集会所はチェコ共和国で最初の教会の建物である。

教会は1990年に同国の承認を得た。

写真/メラニー・ラズバンド、『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2002年4月



以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』2002年4月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応する、指示、活動は本号「フレンド」14、15ページ「もっとも大いなるたまもの」を参照する。

1. ビデオ『キリストの特別な証人』（アイテム番号53584 300）の一部分を見せて、子どもたちが救い主と神殿の儀式について学べるよう助ける。預言者と使徒の役割の一つに、救い主を証する務めがあることを子どもたちに説明する。子どもたちがビデオの各場面のメッセージに集中できるよう、黒板に歌や賛美歌の題名を順不同に書く。ビデオの一つの場面を見せて、子どもたちにその場面に合うと思う歌や賛美歌を選ばせる。それから、教師が次の場面を探している間、その歌を歌わせる。もしビデオが入

手不可能であれば、だれかに文章を読んでもらう（『リアホナ』2001年4月号、2-24参照）。今日生ける^{こんにち}預言者が与えられている祝福と神殿がわたしたちにもたらす祝福について証する。

2. 子どもたち数人の両親の若いころの写真^{あかし}を掲示する。子どもたちにだれの両親の写真であるか当てさせる。どうして分かったか尋ねる。外見的に親に似る場合が多いことを説明する。両親から受け継いだ身体的特徴を黒板に列挙する。わたしたちはまた天の御父の息子、娘である。どうしてそれが分かるのか。「最初の示現」の絵を掲示する。わたしたちは天の御父にかたどられて造られたことを（創世1:26-27参照）、また天の御父が骨肉の体を持っていられること（教義と聖約130:22参照）を聖文から学んでいると説明する。「神の子です」（『子供歌集』2-3）を歌う。黒板が大きな紙に、「地球」と書かれた円から「天」と書かれた場所に届く7段のはしごを描く。

もしある事柄を行うならば、わたしたちは神の王国の受け継ぎを得て、また神のもとに戻り、ともに住むことができると天の御父は約束しておられる。以下のとおりに7枚のカードを用意する。表に参照聖句を書き、裏には歌や賛美歌の題名を書く。ヘブル11:6; 3ニーファイ11:38; 教義と聖約10:55; モーサヤ15:11; 教義と聖約6:37; ヨハネ13:15; マタイ7:21。はしごの横木の下にカードを1枚ずつ置く。順番に各クラスにカードを選ばせる。ほかの子どもたちがその歌や賛美歌を歌う間、カードを選んだクラスに、歌が終わるまでに聖句を見つけさせる。その後、クラスにその聖句を読ませ、永遠の受け継ぎを受けるために行わなくてはならないことをはしごの横木の中に書き入れる。

3. 年少の子ども向け活動。以下の指遊びを教える。「小さな種が大きく育って」（親指と人差し指を合わせる。）／「葉っぱのたくさん茂ったりんごの木になったよ。」（腕を木の枝のように伸ばす。）／「赤ちゃんうさぎにはおもしろい癖がある。」（鼻を小刻みに動かせる。）／「大人のうさぎになってしまうよ。」（耳に見立てた2本の指を突き出し、もう一方の手の上で飛び跳ねさせる。）／「おたまじゃくしを見たことある？」（手で泳ぐまねをする。）／「大きくなってかえるになるよ。」（水に浮かんたすいれんの葉に見立てて左の手のひらを上に向け、かえるに見立てた右手が葉の上で飛び跳ねる。）／「並んでいる子どもたちはどうだろう。」（両手を開く。）／「子どもたちも大きくなると思う？」（腕を上を伸ばしていく。）／「もちろん、大きくなるよ。ある人のように」（人差し指を上を向ける。）／「なっていくよ。」（右腕を上げる。）／「神の子たちは大きくなって」（首を縦に振る。）／「神様のようになるよ。忠実に生活するならね。」（腕を組む。）指遊びを示しているような絵を子どもたちに描かせる。現在の自分と将来になりたい自分の絵も描かせる。□

教会のウェブサイト 資料が入手可能に

教 会のインターネットサイト（www.Latter-day Saint.org）にアクセスすると、多くの資料が続々と多様な言語に翻訳されていることに気づくだろう。教会のホームページを開いて“Languages”の項目を選択するだけで、このサイトがどの言語に翻訳されているかを示す最新の一覧が表示される。一覧に掲載されている言語をクリックすると、翻訳済みのアイテムの閲覧または聴取ができる。これらのアイテムの多くは個人用のコンピューターで印刷できる。以下は、現在入手可能な資料の例である。

●「生けるキリスト——使徒たちの証」／HTML（文書）フォーマット。

● 総大会報告／HTMLフォーマット、

PDFフォーマット（すべての記事と絵／写真が出版物と同じレイアウトで表示）、またはオーディオフォーマット。

●「わたしたちの時代のための教え、2002年度」——第4日曜日のメルキゼデク神権と扶助協会のクラスで使用する資料の一覧／PDFフォーマット。

幾つかの言語では『リアホナ』もPDFフォーマットで取り出せる。ウェブサイトのホームページから『リアホナ』にアクセスしたいときは、“Gospel Library”の項目を選択し、それから“PDF Magazines”の項目をクリックする。そして『リアホナ』の表紙をクリックする。表示されたメニューから言語を選択し、閲覧したい号の表紙をクリックする。□



特集

参加
しました!

ソルトレークシティ冬季オリンピック

子どもたちと架けた音楽の橋

オリンピック公式記念CDに作品が収められる
——福田真史兄弟

ソルトレーク・シティ冬季オリンピックの公式記念CDの中に「It Just Takes Love」(愛さえあれば)という曲が収められている。「愛」「希望」「勇気」「平和」などをテーマとしたもので、プリガム・ヤング大学(BYU)音楽学部の学生として学ぶ福田真史兄弟(大阪北ステーク/高槻ワード出身/BYU第12ステーク/BYU第

14ワード所属)の作曲によるものだ。この歌はオリンピックのホームページを通じて多くの人が知ることとなった。

この曲の大きな特徴は、1,621人もの子どもたちのコーラスが入っていることだ。「どうやってそんなに大勢集めたのかとよく聞かれます。2001年の秋に学校の地域本部から許可を取り、大学の近辺にある小学校(69校)

を全部回ってボランティアを集めました。最初は1,000人が目標だったのですが、子どもたちや親からの反応がとてもよく、思ったよりもたくさん集まりました」と福田兄弟は話す。スタジオに入る子どもの数は一度に10から15人なので、1,621人を録音するには丸3か月を要したという。「子どもたちにとっては貴重な経験でしたし、みんなとても輝いていました。中には音を取れない子どもや、体が不自由で、車いすで来た子どももいました。みんなが心を一にし、

録音に参加した子どもたちと歌う福田兄弟。



すべてを尽くし心の底から歌ってくれました。」福田兄弟は子どもたちと制作に携わったことを回想しながら、曲作りや自分の置かれた環境に対する思いを話す。

「主の憐れみとたくさんの祝福に感謝してます。ぼくは家族の愛を十分に受けて育ちました。ぼくの才能を見極め、ぼくのことをよく理解し、サポートしてくれた両親に感謝しています。ぼくが落ち込んでいるときもいつも前向きで、ぼくの夢に向けて努力するよう勇気付けてくれました。イエス・キリストの福音を受け入れ、ぼくを正しい道に導いてくれました。両親の助けなしにここまで来ることはできませんでした。同じ信仰を持った者が集まり、同じ「音楽」という共通の言葉を通して一つになり、神様の業に携わるのはすばらしいことです。みんなが神様の子どもであり、兄弟姉妹であることに感謝しています。」

福田兄弟は、与えられた才能を使うことによって「主の道具」になることを願っている。「主の恵みは乏しい人を助け、飢えた魂を満たし、病んだ心に光を与えることができます(「主の恵み、人にも分かん」)「賛美歌」138

番参照)。神様は一人一人に違った賜物を与えられました。それは、それぞれが自分のために利益を得るためではなく、その賜物を使って神様や人々に仕えるためです。また、神様のすべての子どもが悔い改め、バプテスマを受け、主のもとへ来るよう、助けを与えるためです。自分に与えられる分だけ、求められることも大きいのです。ぼくも自分の召しを理解し、神様の望んでおられることを行えるよう、頑張りたいと思います。」

3月半ばには、CDに1,621人の子どもの名前が添えられ、ニューヨークとワシントンD.C.にあるすべての学校に贈られた。寄贈された5,000枚のCDは、教会のボランティアによって各学校に届けられた。特に昨年9月11日に家族を亡くした子どもたちに届くようにと個人的には願っているとのことだ。

今年の春にBYUを卒業し、ほかのアーティストとの共同で作曲家としての活動を続けていく計画の福田兄弟は、「音楽という賜物を使ってオリンピックに携わることができて、とても光栄に思ってます」とその喜びを結んだ。□

It Just Takes Love ~愛さえあれば~

詞：ジャニン・ラスキー(Jeanne Lasky)
(日本語訳：西田知衣子、バルマー典校)

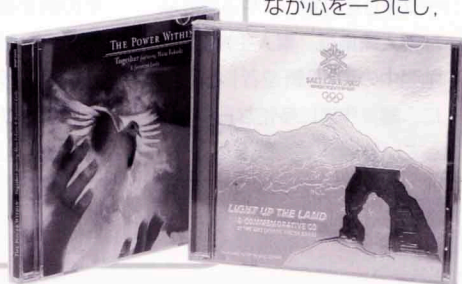
君と僕、同じ大きな空の下で生きている
生きる世界は違うけど、生き抜こうと懸命だ
自分を見失ったらこの世から取り残されてしまう

君と僕、まるでそびえ立つ巨大なセコイアみたいに
肩を並べて大地に根を下ろし結びついている
僕らも互いに心と心、手と手をつなぎ合い
強くなってゆく

力を合わせれば山だって動かせる
どんな海にも橋をかけられる
奇跡は起こるんだ、愛を注げば
内に潜む力は想像を越える
世界を変えることだってできるんだ
愛さえあれば

君と僕、まるで池の波紋みたいに
手を差し伸べて周りのものに触れることができる
時間をさいて心を傾けることを忘れなければ
この世の中はもっとよくなるんだ

手を取りあって
力を合わせよう
もっとすてきな世界にできる
僕も、君も、心を開いて
この夢を叶えるために



福田兄弟が作曲したCDアルバム(左)と、その中からの1曲「It Just Takes Love」が収められたオリンピック公式記念CD(右)。この記事へのご感想は kazuhiko@ops.dti.ne.jp 福田家族まで。

『ユタ日報』の心を受け継いで

オリンピックを機にボランティアで情報発信——『ユタ新報』を創刊

オリンピックを1年後に控えた2001年春から共同通信社の現地通信記者としてユタ州の情報を日本に流すことになった山本亮一兄弟(ユタ州オグデン在住/ウィバーハイツステーク/スカイラインワード所属)は、昨年11月に社会部記者とともに『ユタ日報』(1991年廃刊)の寺沢和子氏を訪問する機会に恵まれた。その取材で『ユタ日報』創設の「心」や社主であった故寺沢国子氏の苦労とその生き様を聞くことになった。今も残る旧社屋の印刷機には刷られたまま放置された最後の版(1991年春号)が残されていた。それを見たときに、「以前から日本語の地域情報を必要としている自分たちの手で、再び日本語新聞を刊行したい」という思いがわき上がってきていた。

山本亮一兄弟は1993年9月、家族とともに大阪からユタ州オグデンに移住した。当初数年のつもりだったユタ州での生活が9年目を迎えた昨年、妻のみや子姉妹がきわめて強度の糖尿病で突然、死の淵をさまよった。ユタ州到着以来、「(日本語に逃げ場を求めず)住んでいる地域に生活の中心を置く」という考えで、あまり地域外の日本人コミュニティに関心を持っていなかった山本兄弟は、そのころから、「日々の生活はともかく、日本語で物を考える人たちが生活の喜びや工夫を分かち合ったり、趣味や特技、時には土地の食材を使った料理のレシピ交換などができる場があればいい」と考えるようになっていた。特に、ニューヨークでの同時多発テロ以降、デンバーの日本総領事館から定期的に「海外危険

情報」がメールで届くが、その知らせを受け取るのできる日本人の数は少ないので、在ユタ州日本人向けの情報掲示板も必要だと感じていた。

その後山本兄弟は、オリンピック報道を行う日本の報道陣数社から大会期間中の現地サポート依頼を引き受けるうちに、現地でのオリンピック期間中の日本語情報配布協力の依頼も受けることとなった。「主宰しているネットワークのホームページで、細々と競技とソルトレーク情報を提供しようと考えていたわたしは、この依頼を聞いて『新聞創刊の時期が来た』と理解しました」と山本兄弟は経緯を話す。企画に賛同してくれた共同通信社のソルトレーク支局長が名付け親になり『ユタ新報』の発刊へ向けての動きが開始された。それは、日本からの専属ボランティア1人、記者ボランティア2人、山本兄弟と山本兄弟の息子さんの合計5人のスタッフで開始された。そして迎えたソルトレーク・オリンピック開会式当日の2002年2月8日、『ユタ新報』の第1刊(翌9日配布)が創刊されたのである。ユニークな奉仕活動としてスタッフの様々な思いが込められた『ユタ新報』は、オリンピック期間中はホテルや日本レストラン、日本食品店、長野ハウス、ジャパンハウスなどに毎日配布され、読者の手へと渡っていった。

オリンピックからの贈り物として始まった『ユタ新報』だが、オリンピック終了後は、文字どおりユタ州の日本語生活者のための「生活情報誌」になる予定だ。おもにインターネットでの配信となり、インターネットに接続



共同通信社の現地通信記者として活躍した山本兄弟(写真右)は、十二使徒のダリン・H・オークス長老やソルトレーク・シティーのアンダーソン市長(写真左)など著名人の単独インタビューを行い、日本の新聞読者にオリンピックを迎えるユタ州の声を伝えた。

sinpo@chikyujin.net 「ユタ新報」
http://www.chikyujin.net/sinpo/home.htm

できない人々にはFAXと郵送による配布が計画されている。

「第二次世界大戦の際に敵国人種として強制収容所送りになった後、ユタ州に住みついた日系人はほとんどが死去しつつありますが、それを超える数の新しい移住者や留学生が今日もユタ州に生活しています。『新一世』ともいえる日本語生活者たちに多少でも潤いを与えることができ、ユタ州での生活をより広範囲で楽しいものへと寄与することができればというのが『ユタ新報』の創刊の理由です。」

『ユタ新報』への熱い思いを語る山本兄弟は、日本の国土とほぼ同じ面積を有するユタ州に散らばって住む日本人のネットワーク作りを目指し、「やる気旺盛な素人編集長、素人主婦記者、勉強中のWEB管理者」とともに、編集作業に多忙な日々を送っている。

1872年の早春、オグデンから、岩倉使節団をユタ州に迎えたその様子がアメリカ国内や日本の新聞に配信された。130年の時を経た現在、『ユタ日報』の思いを引き継ぎながら生まれた『ユタ新報』によって、日本語の声が再びユタ州の空に響くのである。□

1p 2002年2月24日 月曜日 ユタ新報 ニュース・スポーツ・エンターテインメント

ユタ新報

発行: ユタ日報会(非営利法人) 編集: パナソニック Yamamoto@chikyujin.net Ogden, Utah

ソルトレーク2002版

五輪特設ページ
最終版です

ソルトレーク2002の開幕を前に、ユタ州の日本語生活者たちが、この特別な日を楽しんでいます。ユタ新報は、この特別な日を記念して、特別の特設ページを創刊しました。このページでは、ソルトレーク2002の最新情報、ユタ州の日本語生活者の声、そしてユタ新報の創刊の経緯について詳しく紹介します。

ソルトレーク2002の開幕は、ユタ州の歴史の中で最も重要な瞬間の一つです。ユタ新報は、この特別な日を記念して、特別の特設ページを創刊しました。このページでは、ソルトレーク2002の最新情報、ユタ州の日本語生活者の声、そしてユタ新報の創刊の経緯について詳しく紹介します。

ソルトレーク2002の開幕は、ユタ州の歴史の中で最も重要な瞬間の一つです。ユタ新報は、この特別な日を記念して、特別の特設ページを創刊しました。このページでは、ソルトレーク2002の最新情報、ユタ州の日本語生活者の声、そしてユタ新報の創刊の経緯について詳しく紹介します。

ソルトレーク2002の開幕は、ユタ州の歴史の中で最も重要な瞬間の一つです。ユタ新報は、この特別な日を記念して、特別の特設ページを創刊しました。このページでは、ソルトレーク2002の最新情報、ユタ州の日本語生活者の声、そしてユタ新報の創刊の経緯について詳しく紹介します。

夢の17日間、今日閉幕

特集

参加
しました!

ソルトレーク・シティー冬季オリンピック

35億人に種をまく

～メディアの報道を通して見るソルトレーク・シティー冬季オリンピックと教会～

地域広報ディレクター、M・トム・清水長老夫妻インタビュー

2002年1月。東京にあるアジア北地域の広報部にかつてない事態が起こっていた。読売新聞・朝日新聞・産経新聞・毎日新聞・信濃毎日新聞・サンケイスポーツ・NHK・日本テレビ・フジテレビ・TBS……日本を代表するマスコミ各社から取材の申し込みや問い合わせの電話がどんどんかかってきたのである。会いたい、質問がある、とメディア

の記者やスタッフは広報部や地域会長会のオフィスを訪ね、ドナルド・L・ホルストロム会長や菊地良彦長老とも会談した。彼らが最も知りたかったこと、それは——「教会とオリンピックとはどういう関係ですか?」

「『直接の関係はありません』とお答えしました」と広報宣教師のM・トム・清水長老夫妻は語る。「大管長もおっしゃって

います。『これはソルトレーク・シティーまたはユタ州のオリンピックであって、教会のオリンピックではありません』と。」

教会員が支えたオリンピック

そうは言っても、(あまり知られていないことではあるが)開会式・閉会式に出演した人の8割から9割方は教会員であったと言われている。氷上でダンスパフ

田中珠美姉妹(札幌西ステーク/藻岩ワード所属)がオリンピックでの最初のバイアスロン競技に奮闘していたとき、彼女に聞こえたのは、「がんばって、たまみ」という日本語の声だった。見ると多くの見知らぬ人々が自分の名前が入った横断幕を振って応援しているのだった。田中姉妹はその声が聞こえるまでヒーバー・バレーに自分のファンがいるとは思いませんでした。

バイアスロンとは、スキーの距離競技とライフル射撃競技を組み合わせたもので、スキーの速さと射撃の正確さを競う。競技柄、日本代表選手全員が陸上自衛隊冬季戦技教育隊の精鋭である。田中珠美姉妹は富山県出身で、小学生のころからクロスカントリースキーを始め、20歳ごろからバイアスロン競技に転向した。長野オリンピックでは惜しくも代表を逃し、試走者としてコースを滑ることとなった。そのときから思いはソルトレークへと向けられ、練習が積み上げられてきた。

ユタ州ヒーバー・シティーに日本人の教会員がオリンピック選手として来ることは『チャーチ・ニュース』を通じてミルロードワ

ードの会員に瞬間に広まった。1976年に日本での伝道を終えたブラッド・ベアードとその妻ラウィンはワードの会員たちに田中選手を応援するよう求めた。「珠美を応援することを通して、オリンピックがわたしたちの家族またワードの会員にとってもっと活気ある意味深いものとなりました」とベアード姉妹は語る。「地元で行われたオリンピックの大会が一個人を応援することによって単なるテレビ番組から地域に密着したものとなったのです。」

滞在地であったヒーバー・シティー、所属する藻岩ワード、出身の金沢ステークの教会員たちの田中姉妹を応援する気持ちには、祈りも込められていた。金沢ステークからは寄せ書きが届けられ、60人ものミルロードワードの会員がカードにサインをし、選手たちの幸運を願った。

ミルロードワード所属の日本からの6人の帰還宣教師たちは、通訳としてチームを援助したり、宿舎を訪れて励ましたりと、友人またホストファミリーのように親しく応援した。ベアード家族の10歳になる息子テラーはバイアスロン選手の粘土模型を作り、プレゼントした。

最終競技が終了すると、ワードの会員とその友人たちはベアード家に集まり、選手たちのために日本料理でお別れ会を催した。和気藹々として笑顔の絶えない中、田中珠美姉妹は、競技場の美しさをたえ、木々がまばらなため、コーチがどこからでも選手を監視することができ、隠れて休むことができなかったと言って笑った。

ソルトレーク・オリンピックを終えてすぐにワールドカップへと旅立った田中珠美姉妹から送られてきたメールには「ヒーバー・シティーやソルトレークの皆様にほんとうによくしてもらい、とても楽しい時間を過ごすことができました」と書かれていた。これから世界中を転戦しながら競技に打ち込む田中姉妹へ

の教会員の応援は、彼女が携えているモルモン書と祈りと同じように、田中姉妹を力強く支えていくことだろう。□

応援
しました!



日本のバイアスロン女子選手チームを迎えた
シーダーシティの教会員たち。横断幕を持って
いる選手達の右から2番目が田中珠美選手。
(写真/トム・スマート 前ページコラム参照)



オーマンスを披露したのはほとんどがブリガム・ヤング大学の学生たちであった。子どもたちも、教会員が主体で構成されるSinging Acting Group から出演した。大会運営ボランティアもその多くの部分を教会員の持つ奉仕の精神に支えられている。ユタ州の人口の70パーセントは教会員であるから、競技の中継に映った観客たちの少なくとも半分は教会員であったろう。「オリンピックの誘致が決定するまでは教会は関係ありませんでしたけれど、開催決定後、オリンピック組織委員会が協力を求めてきたことに対しては全面的に協力しました」と清水姉妹も言い添える。「そういう意味では、教会とは切っても切れない関係を持つソルトレーク・シティ・オリンピックでしたから、教会に対する関心も非常に高まったのだと思います。現地に行ってきた記者の中には、教会に対して非常に良い印象を受けて、先入観がだんだん変わってきたという人もいました。」(下の記事参照)

特筆すべきは、地元の観客で外国から来た選手団のために心からの声援を送った人々が多かったことである。恐らくオリンピック史上初めてのことでなかっただろうか。清水長老は語る。「バイアスロンの競技が行われた場所の近くにわたしの親しい友達が住んでいました。その長男は日本で伝道しましたが、彼はあるワードの副監督で、そのワードを中心にして田中姉妹をはじめ日本のバイアスロンの女子選手たちを招いていろいろと歓迎したそうです。ワードには日本からの帰還宣教師が6人くらいいて、それで競走が終わったときに日本語で大きな声援が……日本の選手たちはそれを聞いてびっくりしました。」

思わぬ応援を受けたのは日本の選手だけではなくだった。ドイツの帰還宣教師たちはドイツを応援し、ロシアの帰還宣教師たちはロシアを応援した。世界中に出て行った帰還宣教師たちが、かつての任地であった国の人々を愛する気持ちを込めて声援を送ったのである。プロボのワードでは、あるとても貧しい服を着ていた国の選手団に新品のウェアを贈ったという話もある。教会員らしい愛にあふれた交流がそこかしこに見られたという。

教会の名称を浸透させる

清水夫妻が地域広報ディレクターとして日本に着任したのは昨年の10月であった。彼らは早速、開催まで間もないオリンピックに向けて精力的な働きを始めた。ソルトレーク・シティ冬季五輪に関連してメディア向けに教会を紹介する資料集(メディアキット)を完成させ、速やかに新聞社・テレビ局・ラジオ局などマスコミ各社へ届けた。当初はマスコミの

反応はそれほど素早くはなかった。「最初わたしたちがメディアキットを持って行ったときは、とても丁寧に迎えてくださいましたけれども、まだ11月、12月だったので、時間的に余裕があったんですね。」メディアキットは全国のステーク/地方部にも送付され、各地域の指導者と地元のメディアとが関係を強めるために役立った。

メディアキットの中にはおもな教会用語の一覧表も添付され、教会について正しい用語で報道されるよう配慮されていた。ことに2001年2月23日付けで出された大管長会からの手紙に基づき、モルモン教会といった通称ではなく、正式名称(末日聖徒イエス・キリスト教会)を用いるようにとの願いが強調されたのであった。

ところが程なく清水長老のもとへNHKから電話が入った。「わたしたちとしては取材するに当たり、ソルトレークの氷点下の現場で、末日聖徒イエス・キリスト教会と言っていますと口が回りませんか?」また、「100年以上もモルモン教会と使ってきたので、一朝一夕には変わられません」と。……確かに1901年、ヒーパー・J・グラントが上陸したとき「モルモン宗」と呼ばれて以来、この名前は100

地元アメリカ勢の活躍もあって連夜盛り上がる冬季五輪の表彰式。会場の「メダルプラザ」は、末日聖徒イエス・キリスト教会(モルモン教)が提供したソルトレーク・シティ中心部の土地に特設されている。ソルトレーク・シティは、世界中に一千万人の信者を持つこの派の総本山。約九十万市民の40%が信者なのだから、おのずと五輪にかかわる。各競技会場へのシャトルバスが出る駐車場も提供しているし、開会式で中核同時テロの現場から見つかったフラウンドゼロの星条旗(入場七毛)に流れたア

五輪通して見る「モルモン教」

メリカ国歌はモルモン教聖歌隊が歌った。
ホームレスや失業者に食料や衣料を提供したり、紛争や貧困に苦しむ百以上の国々に文房具や医療品を送る活動も続けていると知った。
この宗派については、禁酒やかつての夫妻はかりが誇張され、記者自身も当地に来るまでは、街頭で布教活動をする青年たちの質素な服装などから「風変わり」との印象を抱いていた。五輪取材を通して固定観念が消えつつある。
(ソルトレーク・シティ)

小島新二

産経新聞、2002年2月14日付



ソルトレークオリンピックでは民間のボランティアがかつてないほど参加したことで注目を集めた。現地に住む日本人教会員、日本から赴いた人たちなど、その数と規模は過去のオリンピックと比較しても最高のものであった。ウィバー州立大学心理学部に留学中の岩永倫子姉妹(東京東ステーク/千葉ワード出身)も、冬季オリンピックのボランティアに参加する機会を得た一人である。

「わたしの仕事は2002年冬季オリンピックで、アクレディテーションという写真入りのIDパスを発行するというものでした。わたしの働いたオリンピックファミリーホテルという場所柄、国際オリンピック委員会、ゲスト、スポンサーなど、VIP

と呼ばれる方々へ対応するのがほとんどでした。」

岩永姉妹にとっては、VIPの人々と接する仕事は、それだけでも十分満足感のある内容だった。しかしそれ以上に、オリンピック期間中に触れた人々の優しさや新しい友人との出会いは岩永姉妹にとっては大きな宝となったという。「日本から一家で応援に来ていたスピードスケートの選手の家族や日本オリンピック委員会の方々、他人であるわたしを家まで送ってくれた人、一緒に働いた仲間たち、仕事に向かうバスの中で『オリンピックのためにボランティアをするのは素晴らしいことですよ』とわたしの肩に手を置いて応援してくれた年輩のご婦人。もしわたしがボランティアスタッフとして

働いていなければ、このうちのだれにも出会うことはなかったと思います。」岩永姉妹にはすべてが貴重な経験かつ思い出となった。ボランティアのユニフォームを岩永姉妹は着ていたが、ボランティアスタッフ以上に、多くの人々が率先して奉仕活動に励んでいたと実感したこともあった。外国からソルトレークへ赴いた人たちが、その多くが教会員である一般の人々の積極的な行動によって助けられた話題がメディアにも多く紹介されていた。ボランティアに従事したのは、ユニフォームを着ていた人たちだけではなかったのである。□



聖火リレーに使われたトーチを持つ岩永姉妹。知人がオークションで購入したものとか。

岩永姉妹(左端)とリーダー(中央)、ユタ大に通う仕事仲間。リーダーの息子は、「The child of the Light」として開会式に登場した。



日本語を話します

ボランティアしました!

この記事へのご感想は tomoko0127@hotmail.com 岩永姉妹まで。

冬季オリンピック開幕する。ソルトレークシティーで、日本時間のきょう、

年以上日本社会で通用してきた。清水夫妻がホールストロム会長に相談すると、答えは一言、「何でもいいです」——一生に1回ぐらいのすばらしい機会なので、モルモン教会であっても末日聖徒であってもいい、との大らかな判断であった。

新聞などの活字メディアにも清水長老はこう答えた。「あなたがたの苦労もよく分かりますので、できれば一回は、末日聖徒イエス・キリスト教会と正式名称を書いてください。でもその下に必ず(モルモン教会)と書いて下さい。1度書

いてくだされば後はモルモン教会でも同教会でもいいです。」この方針は大変よく浸透し、ほとんどの新聞では「末日聖徒イエス・キリスト教会(モルモン教会)」と表記した。またこの方針は、従来から定着してきた「モルモン」の名称と「末日聖徒イエス・キリスト教会」が同じ教会を指しているとの認識を広く一般に与えることにもなったのである。

清水長老は強調する。「教会について触れられないよりは何でも言われた方がいいということですね。それに、モルモンという言葉の響きはけっこう、愛らし

いから。」

良くも悪くも語られる

「わたしの言いたいのは、記事でも放送でも、その内容は、良くても悪くてもよいということです。それによって教会についてさらによく知られるわけですから。(批判的な記事であっても)名前が出て来るということは非常によいことです。天使モロナイはジョセフ・スミスに、その名前が『良くも悪くもすべての民の中で語られる』と告げました(ジョセフ・スミス—歴史1:33)。教会の名前も同じ

天声人語

アメリカにはいろいろな顔があるが、ソルトレークシティーという都市もその顔のひとつを代表している。19世紀、アメリカの人々が新天地を求めて「西へ、西へ」と向かったとき、この地を目指した一団の人々は、数々の悲劇と成功物語とその歴史に刻んだ。ほとんど未開の険しい道をイリノイ州から一年半かけてたどりつた。途中、飢えや寒さで多くの人が亡くなった。モルモン教として知られる末日聖徒イエス・キリスト教会の人たちだ。できたばかりの宗教団体で、迫害を避けての大移住だった▼ソルトレークシティーに着いたのが1847年7月で、到着その日から、この未開の地の開拓を始めたという人々である。こうした西へ向かう運動を西漸運動といいますが、この運動にさらに火をつけたのが、その直後のいわゆるゴールドラッシュだ▼カリフォルニア州で1848年に砂金が見つかったのがきっかけだった。まさに一攫千金を求めて人々が西海岸に向かった。この米国史に有名な「熱病」がソルトレークシティーに移住した人々には幸いした。通過点としてにきわい、経済が軌道に乗るきっかけになったのだ。逆に「熱病」では身を滅ぼした人々が多かったのは当然か▼酒の規制など規律が厳しい。白人の比率が高く、政治的には保守支持が強い。この地においてよくいわれることが、そんな現状のソルトレークシティーについて知っておくのも悪くはないだろう▼そのソルトレークシティーで、日本時間のきょう、

朝日新聞、2002年2月9日付



メダルプラザからテンブルスクウェア方向を望むパノラマ。

です。」あるとき、教会をカルトと記した新聞記事が出た。これをどうしましょうか、と相談すると、ホールストロム長老は悠然と構えていた。抗議など、何も言わず、そのままにしておきなさい、と。

オリンピックに関連しこの教会について、英字新聞も含めた日本の全国紙また全国ネットの放送メディアにおいて少なくとも60以上の報道がなされた。地方の新聞・放送メディアについては調査が行き届かないため、総数はさらに上回ると思われる。それらを通じ、神殿、モ

ルモンタバナクル合唱団、知恵の言葉、教会歴史、苦労を重ねた開拓者、ユタの人口の70パーセントが末日聖徒であること、人道的援助、ボランティア精神、宣教師、家族の大切さ……と多岐にわたる話題が提供された。

「新聞記事や放送に人々が広く接しました。教会員にとっても宣教師にとってもそれは話の種になるわけです。これは非常に大切なことです。オリンピックを見ましたか？ ああ、教会についてそう聞きましたか……というふうに、たぶん

これから多くの人たちと話ができると思えますね。」オリンピック終了後、伝道が活気づいているという報告も各地から寄せられているという。

「大切なことはメディアと良い関係を築くことでした。ですから少しぐらい悪いことを書かれても、それは第三者的な考えで書いていらっしゃるからと理解します。そして、それ以上の良い関係を作っていくことをわたしたちは望んでいます。」オリンピックを通じてユタでの宿泊事情は困難を極めていたが、取材陣

十九世紀に米国で生まれた教団、末日聖徒イエス・キリスト教会（モルモン教会）が、総本山のある米ユタ州ソルトレークシティで冬季五輪が開催されたのを機に、国際的な宗教団体としての認知を目指している。

国際部 坂元 隆

昨年十一月に売り出され、ソルトレークシティを訪れた五輪の観客の間で爆発的に売られている地ビールがある。その名も「ポリガミー・ポーター」（一夫多妻主義者の黒ビール）。「一夫多妻を容認していた過去を持ち、かつ飲酒を禁じているモルモン教会を皮肉ったものだ。同教会は一九〇一年に一夫多妻制を廃止しているが、ユタ州内に一夫多妻を実行する住民が現在でも残っている」ともあり、その独特の生活様式や信条がしばしばからかいや偏見の対象になっている。

同信者で、民間団体「アジア太平洋マンスフィールド・センタ―」事務局長のゴードン・フレック氏は「教会はこれまでカルトだと誤解されることがあった。五輪はそういう誤解を解く絶好の機会だと思う」と話す。

もともと一八三〇年の設立以来、同教会は全世界で千百万人の信者を擁しており、その影響力は否定のしようがない。信者数は増加する一方で、二〇八〇年には数億人に達するとの米学者の試算もある。

特に、米国内では隔然たる勢力を保ち、連邦議会にはハリー・リッド民主上院院内幹事ら上下両院合計十六人の信者の議員がいる。政府高官、財界人にも信者は少なくない。

ユタ州では人口二百一十万人のうち約70%は信者であり、州知事と州最高裁判事の全員、州議会議員の九割が信者だ。冬季

モルモン教会 五輪を機に「カルト扱い」脱却目指す 勢力増大で他教会とあつれきも

五輪招致は事実上、同教会の協力があって実現したといっても過言ではない。教会は四千人の学生信者を五輪ボランティアとして投入、メダル授与式も行われるメダル・プラザのために土地を提供するなど全面的な協力をしている。

同教会の急成長の理由の一つは、何より若い宗教であるということだろう。

暴徒に殺害された教祖の後継者となったブリガム・ヤングが迫害を逃れるため、信者とともに西部を目指し、後にソルトレークシティとなる町づくりに着手したのは一八四七年。本格的な布教活動が始まったのはそれからだ。

信者たちは宗教を中心とした強固な共同体を作り上げ、熱心に布教を展開した。すべての男性信者は約二年間無報酬で宣教師生活を送ることが求められ、米国外で信者を増やす原動力となっている。

モルモン教会によれば、同教会は原始キリスト教会がそのまま再生したものだ。既存のキリスト教会の宗教的存在意義は事実上認めず、指導者の大管長は「生きている預言者」として受け入れられている。また、教祖が神から授けられたとされる「モルモン書」を聖書と並ぶ聖典としている。新しい宗教ならではの熱気と先鋭さは成長の起爆剤となる反面、既存の教会の一部から「モルモン教会はキリスト教ではない」との批判を招く理由ともなっている。

ローマ・カトリック教会は昨年、同教会が実施している洗礼を無効とする異例の決定を出した。ほかの教会との摩擦は今後激しくなることが予想されるが、ゴードン・ヒンクリー大管長は最近、教会がより開放的になり、信者以外の人々と共存すべきだという考えを示している。

読売新聞、2002年2月20日付。この見出しは12版（地方版）のもの。東京版に掲載された同記事の見出しは「五輪を機に異端扱い脱却目指す」となっている。記事を書いた記者は事前に清水夫妻に取材と確認を重ねていたが、見出しは地方版ごとに整理部の別の記者が書くため、理解が至らなかったと思われる。しかし、本文の記述はおおむね正確である。清水姉妹は、「メディアというのは、いつも人の目を引かなければならないために（センセーショナルな文句で）書きがちなんです」と語る。

「オリンピック期間中は、メディア関係者や日本人選手の応援団の方々などがテンブルスクウェアへも訪れます。訪問者の数はとても多くなっています。」会期中の多忙な中、ソルトレーク・テンブルスクウェア伝道部で宣教師として働く鬼塚えり子姉妹（東京東ステーク/千葉ワード出身）は語った。

テンブルスクウェアで働く宣教師も、オリンピック期間中は、「いつもと違った伝道」をしなければならなかったという。普段であれば、訪れる人々のツアーガイドをし、証を述べる。しかし……「オリンピックが開催されている間は、わたしたち宣教師

が来訪者に証を述べることはありません。モルモン書を勧めてプレゼントすることもあります。また、宣教師の紹介カードに名前や住所を記入していただくことを勧めることもしませんし、街頭伝道も行いません。」そして、「もちろん、ご自分から尋ねられ希望される方には、モルモン書を差し上げたり、カードを記入していただいたりしますけれど」と付け加える。大管長がかねてより、「これはソルトレーク・シティのオリンピックであって教会のオリンピックではありません」と語っており、大会に当たっては、世界からの訪問者に余計な気遣いをかけず、心

から滞在を楽しんでいただくための奉仕者に徹するという配慮から、異例の伝道自粛がなされていたのである。「普段よりも多くの方々が訪問していますが、いつもよりは紹介カードは多くないと思います。」しかし鬼塚姉妹は決して落胆しているわけではない。むしろ、「世界中から訪れる人々を心から歓迎する気持

ちで案内をしている」という。現在、テンブルスクウェアで働く姉妹宣教師は192人。そのうち日本人は5人。41か国語が話されるテンブルスクウェアは、オリンピック期間中に世界中から訪れる人たちを歓待する、まさに小さな世界を象徴する場所であった。□

テンプルスクウェアの宣教師



日本人姉妹宣教師たち。左から才木姉妹、松本姉妹、柴崎姉妹、市橋姉妹、鬼塚姉妹。

昨年11月の東北大学の大学祭における展示(「リアホナ」2002年2月号チャーチ・ニュース、10参照)の準備にかかわり、その過程で自分の趣味が主の業の役に立つという喜びを感じることができた**阿部真子**姉妹(仙台ステーキ/長町ワード)は、以前からオリンピック訪問を予定していたが、単に行くだけではなく、少しでも主の業の役に立てないかと思い始めていた。

「ユタ州の教会員の方々は、とても自然な形で良い模範を示していました」ユタ州の滞在中、

まず感じたのはこのことであった。「ソルトレークでのオリンピックは、わたしにとっては伝道の良い機会と考えていました。きっと、ユタ州に住む教会員もそのように感じていたかもしれません。しかし、その方法はわたしの考えていたものとは少しばかり違っていました。」

「わたしが接した多くのアメリカ人の教会員は、自分が教会員であるということをほとんど口にしませんでした。普通に一人の人間として、自分の国を訪れた人々を歓迎する態度で接して

くれました。日本語が話せるとか、日本に行ったことがあるなどと語りかけ、日本人の訪問者であるわたしに関心を示してくれましたが、わたしの方から持ち出さないかぎり、会話の中で教会のことが話題になることはありませんでした。」最初は伝道に対して消極的という印象も受けたものの、やがてアメリカ人教会員の控え目ながら真摯な態度に感銘を覚えたという。

それは「一人の人間同士として接する中で自然に良い関係を築き、少しずつ模範を示していくことが、遠回りのようでいて、実は人々を福音に導く近道なのかもしれない」ということである。それは阿部姉妹に、地に着いた伝道の方法ということを感じさせる契機ともなった。

阿部姉妹自身にもそれを実践する機会が巡ってきた。日本人の少ないユタ州だからこそできる小さな伝道活動であった。「教会員ではない日本人の方々と知り合うことも多く、親しくなるにつれ、わたしが教会員であることを知った彼らからの質問に答えることもありました。『どうしてテレビで教会と報道さ

れている建物が正式には神殿と呼ばれているのか』『教会員の家庭にホームステイするのなら知恵の言葉を守らされるのか』などの疑問にも答えることができた。」

阿部姉妹はソルトレーク滞在中に、一般の人たちの中に存在する多くの誤解に気づき、丁寧に必要な答えを伝えていった。それは、小さいながらも立派な伝道活動であった。「神様の業に対して、ささやかながらお手伝いができたのは、とてもうれしいことでした」と、阿部姉妹はその喜びを表現する。

「伝道という意味では、わたしの動きはほんとうにささやかだったと思いますが、オリンピックという環境の中で、ごく自然に福音について話す機会を得たことはすばらしい経験でした。感謝の気持ちを込めて話す阿部姉妹のソルトレーク訪問は、オリンピックの感動とともに、主の業に対する新しい視点をもたらしてくれた貴重な経験であった。□

答えを
告げ
伝え
ました!

ジャンプの会場で、親しくなった日本の人々と(左端が阿部姉妹)。



の急な追加で宿が取れないことに困り果てていた記者のために、ソルトレーク・シティー出身の清水夫妻は知人宅へのホームステイの手配まで親身になって世話したという。「そうしたことで、個人的にもメディアの方々ととても親しくなることができました。彼らは帰国してから報告に訪れ、とてもよかった、想像していた以上でした、とおっしゃってくださいました。」メディアキットによってではなく、人と人が良い関係を築くところから、ほんとうの意味での教会への理解が生まれてくるのである。

新聞記事にモルモン書の聖句が

閉会式も近づいたころ、読売新聞の記者から清水長老に電話があった。「お宅にはモルモン書という本がありますよ

ね、平和について書きたいんですけど、その中に、平和に関する言葉がありますか?」もちろんあります、調べておきますから取りに来てください、と答えた。清水夫妻はモルモン書の中から平和に関する多くの聖句を探して付箋を付け、訪れた記者にそれを示して選んでもらった。

「たぶんテロ事件について何か書きたいのかもしれないと思いました。セキュリティが非常に大切な大会でしたから。で、ある聖句がいいなとおっしゃったのですが、それはイザヤ書からの引用ですと申し上げると、『いやそれは要らない、わたしは聖書を2回くらい読んでおります、ですからできたらモルモン書からの生粋の聖句がほしいです』ということでした。……しかし、モルモン

書の聖句が新聞に出たのは初めてのことです。」

読売新聞、2002年2月26日付

「何と彼らは祝福されているのか。彼らは平和を告げて、善のよきおとずれを告げて、……(モルモン書「モーサヤ書第二十七章」)。末日聖徒イエス・キリスト教会(モルモン教会)の神殿を中心に、展したソルトレークシティー。この街で十七日間におたて燃え続けていた聖火が消えた。昨年九月十一日の同時テロ以来、開催さえ危ぶまれた大会は、心配されたテロ

それは片隅で行われたのではない

確かに1901年、初めて宣教師が上陸したとき全国の新聞に報道されて以来、この100年間でこれほど集中して教会がメディアに登場したことはなかった。

1970年の日本万国博モルモン館には665万人が訪れ、1980年の東京神殿オープンハウスには15万人が訪れた。それに比べるとこのオリンピックは、直接

フ ォード・加奈子姉妹がオリ
ンピックのボランティア
に志願したのは、1999年の暮
れのことだった。ボランティア
選考、そしてトレーニングが
2000年夏には開始
された。

出演 しました!

「面接やトレー
ニングは和気藹々
としていて、笑い
が絶えない、実に楽し
いものでした。志願者の多くが
帰還宣教師で、面接の最中に
『出会い』や『再会』もありまし
た。」と最初の頃を話す。ボラン
ティア志願者が伝道した国名を
挙げながら自己紹介すると、「わ
たしはその国から来ました!」と
か「わたしもそこで伝道してい
た!」と名乗る人も多く、共通の
友人がいたという事実が判明す
ることも度々あったという。

フォード姉妹は国際オリンピ
ック委員会・国家オリンピック委
員会からの依頼で日本語の面接

試験官としても働いた。「わた
しとしては楽しんでやっていたの
ですが、志願者の自宅に突然電
話をかけ彼らの日本語能力を電
話越しにテストするのが仕事な
ので、多少恐れられていたかも
しれません。」と笑う。実に、フ
ォード姉妹が面接した志願者の9
割が日本からの帰還宣教師だっ
たという。ボランティアに志願
している人たちの環境は様々だ
ったが、「ボランティアに参加し
たい!」という情熱は、電話越し
にも強く伝わってきたという。

ボランティアトレーニングは
2001年2月から本格的に開始
されたが、「トレーニングという
堅苦しいイメージとは裏腹に『楽
しむ』『盛り上がる』という要素
が強かった」と当時を振り返る。
トレーニングは幾つものクラス
に分割され、1クラス30人程
度で行われ、トレーニングの一
環として、オリンピックのイメ
ージ映像(後にTVのCMとして

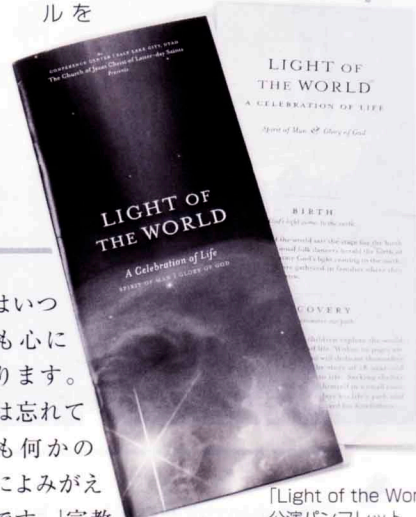
放映された)が上映されること
も度々あった。「すばらしい映像
で、感動で涙したのはわたしだ
けではなかった」とフォード姉妹
が語るほど、それは強烈な印象
の残るものだった。

同時多発テロショック

そんな盛り上がりを見せ、オ
リンピックの準備も順調に進ん
でいた折、ニューヨークでの同
時多発テロが発生した。アメリ
カ中がショックに凍りついた事
件だった。テロ事件の後で十分
なボランティアの数が集まるの
だろうかとの不安の聲が流れる
中、二人の幼い子どもを配慮し
て、フォード姉妹は後ろ髪を引
かれる思いでボランティアを辞
退する決意を固めた。結局は、
周囲の心配をよそに、ボラン
ティア応募総数は枠域を大幅に越
え、さらに多くの人たちが志願
することとなった。一度はボラ
ンティアをあきらめていたフォ



ード姉妹に同じワードの教会員
から声がかかった。それはオリ
ンピック期間中に教会がカンフ
ァレンスセンターで上演する
「LIGHT OF THE WORLD」と
呼ばれる大掛かりなミュージカ
ルを



「Light of the World」
公演パンフレット

ことはいつ
までも心に
留まります。
それは忘れて
いても何かの
拍子によみがえ
るのです。」宣教

師が訪れたとき、教会員と接したとき、
後々まで保存されたその種がいつか緑の
芽を吹くかもしれない。

それは、これからのわたしたちにかか
っているのである。□

広報宣教師のM・トム・清水長老と、順子・清水姉妹



教会が報道されたわけではないので、
個人への深い影響力という点では万博
などには及ばないだろう、と清水長老は
分析する。しかし、オリンピック開会式
の放送は全世界で35億人が見た、とN
BCは発表した。現在地上に住んでい
る半数の人間である。広く浅くではある
が、認知を上げたという点ではかつてな
い規模のものであったと言えるだろう。

そして清水長老はも
う一つの大きな成果
を語る。

「以前はメディアも
ほとんど興味がなか
ったので、人々の教
会への興味も薄かつ
た。しかし、オリンピ
ックを通して彼らはや
って来ました。

そして何より、この
大きな世界の
オリンピック
を舞台にした
とき、教会員

自身に、自分の教会と信仰に対する自
信を与えることができたのではないかと
思いますね。

ある人たちは長い間教会に来ていなか
ったけれども、オリンピックを見て、教
会に戻ろうと考えた教会員が何人もいた
と聞きました。

また自主的に全国の多くのワードや支
部でオープンハウスが開かれました。彼
らは近所の人を招いて、オリンピック紹
介のビデオ(広報部が制作し全国のユニ
ットに配布した『ソルトレーク・シティー
——信仰の地、希望の地』)を見せたり、
神殿のポストカードを配布したりしまし
た。……教会員たちはこれを機会にい
ろいろな所で自信を持って、周りの人々
と良い関係を結ぶことができたのでは
ないかと思いますね。」

マスコミの報道や世相は移り気なもの
なので、教会への関心も一時的なものに
なりはしないか、との質問に、清水長老
はこう締めくくった。「確かにオリンピ
ックの報道から福音への深い理解は得られ
ないでしょう。しかし、人が一度聞いた

ソルトレーク 五輪などPR

ゆかりの末日聖徒
教会オープンハウス

宇部時報
2001年
12月19日付

宇部市神前町一丁目
の末日聖徒イエス・キリス
ト教会山口地方宇部支部
をテーマにした写真展へ



山口地方宇部支部の
オープンハウス。



「Parade Of Nations」に出演した、當真 恵姉妹(東京ステーキ/ひばりが丘ワード出身)とフォード・加奈子姉妹(右)。

サポートするものであった。琴奏者として参加しないかとの誘いに、「危険を回避するためにボランティアを辞退したのに、再び気持ちを高鳴らせながら引き受けてしまった。」末日聖徒としての標準を守るなどの同意書への署名を行い、新たなボランティアとして場所を得ることとなった。セキュリティは固く、何度も厳しくチェックを受けなければならなかったが、「いつも幸せな気分浸っていた」そうだ。



世界中の人々に囲まれて

カンファレンスセンターで行われたショーは大きく3つのパートから構成されていた。

「LIGHT OF THE WORLD」(舞台キャスト)



「PARADE OF NATIONS」(プレショーとしてロビーで観客をもてなし、ショーの冒頭でそれぞれの国の国旗を持ち出演している人たち)

「WELCOME THE NATIONS」(プレショーのキャストとして、

ロビーで民族音楽を演奏したり、民族舞踊を披露する人たち)

開演の2時間前から入場した観客はロビーで「WELCOME THE NATIONS」のキャストによるプレショー(クアチア人、ターキッシュ・ブラックシー、ウェール人の木靴ダンス、ハンガリアン・ポトル、イングリッシュ・ラッパー・ソード、インディアン・フープ、マオリ・ハカといったダンスや、日本の琴、ポリビアのパーンの笛、ケルト・ハーブ、リュート、アルトホルンとバラライカなどによる音楽)を楽しんだ。

フォード姉妹は「WELCOME THE NATIONS」のキャストとして、日本文化を紹介すべく他の5人の日本人とともに琴を演奏した。



「LIGHT OF THE WORLD」のチケットは発売直後に完売し、約2万人を収容できるカンファレンスセンターも連日満席状態だった。2月1、2、5日にリハーサル公演が行われ、2月7日を皮切りに10公演が行われた。1,500人を超えるキャストが「LIGHT OF THE WORLD」に携わり、ロビーでのプレショーも常に盛況なにぎわいを見せていた。「100人近い数の人々に完全包囲されての演奏です。前も後も横も、人の山です。一曲弾き終わると立ち代り次の100に取り囲まれます。そして皆、様々な質問を投げかけていきます。『この楽器の名前は?』『この楽器は何の木でできているのか?』『音階はどうなっているのか?』……たった2時間で、同じ質問に100回以上答える日もありました。何千人という観客がロビーを埋め尽くしているのですから、雑音も半端ではあり

ません。自分が弾いている音がほとんど聞こえない、そんな中で琴を弾くというのは至難の業です。集中力に限界を感じることもありました。」笑顔で対応するのにも疲れ果てる日や、体力的にも精神的にも消耗し切って体も気持ちも言うことを聞いてくれない日もあったが、祈ることによって、「わたしの祈りは聞き届けられた」と実感し、祈ることによって気持ちが救われることが多かったという。「教会のイベントにボランティアとして参加することは、天父への奉仕そのものだと思います。だから精いっぱい、心を込めて任務を果たしたいと思いました。」



神様のもとで人類が一つとなる

「LIGHT OF THE WORLD」の舞台の最初に、様々な民族舞踊がステージ上で交互に繰り上げられ、モルモンタバナクル合唱団が合流して最後に世界各国の国旗を持った人たちが入場して来る場面がある。力強い演出に感動して涙を流す人も多い。その場面には、「様々な文化が国境を越えて一つになる」といったメッセージが込められてる。フォード姉妹はその場面に触れ、

「一つになるとは、こういうもの指すのかもしれないと感じました。そこには御霊がありました。ですから単に『一つになる』ということではなく、『神様のもとで人類が一つになる』ことがそこに表現されていました。」と語る。

カンファレンスセンターでのボランティアを振り返りながらフォード姉妹は言う。「想像もつかない人生の1ページがそこにはありました。まったく違った歴史、文化、言語を持ったわたしたちが、こうしてここで一つになり、同じ目標に向かってと



もに頑張れるというのは、ほんとうにすばらしい経験でした。まったく何の接点も持っていなかったわたしたちをつないだのは、まさに福音でした。」

様々な場面を経験し、祈りによって問題を解決したフォード姉妹は、ボランティア期間中を通じて感じていたことがあった。それは「天国で働いたら、きっとこんな感じなんだろうな」ということであった。□

この記事へのご感想は、kanazou@hotmail.com フォード姉妹まで。下——「Light of the World」舞台風景。中央の白い衣装の人々は、モルモンタバナクル合唱団。



専任宣教師

2002年2月(267期生)11人・海外2人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



かとう なほ
加藤 奈穂
札幌伝道部
福岡ステーキ
北九州ワード



かまた ゆうじろう
鎌田 裕次郎
東京南伝道部
仙台ステーキ
古川支部



おさか じゅん
小坂 隼
東京北伝道部
大阪堺ステーキ
和歌山ワード



しの ゆりこ
志野 百合子
東京北伝道部
大阪堺ステーキ
河内長野ワード



ひらい ありさ
平良 有茶
仙台伝道部
那覇ステーキ
小禄ワード



たなか りか
田中 力
福岡伝道部
東京東ステーキ
長生ワード



どうの あい
堂野 愛
東京南伝道部
大阪堺ステーキ
泉南ワード



まつしま しずか
松崎 静香
札幌伝道部
熊本ステーキ
熊本ワード



まつばら ゆり
松原 由理
福岡伝道部
金沢ステーキ
福岡ワード



わたなべ かおり
牟田 香織
仙台伝道部
福岡ステーキ
久留米ワード



むらた ゆうじ
村田 裕次
札幌伝道部
金沢ステーキ
高山支部



いわま あさこ
岩間 麻江
イリノイ州
ノーブー伝道部
大阪北ステーキ
花屋敷ワード



むらやま りこ
村山 絵里子
台湾・台中伝道部
福岡ステーキ
福岡ワード

*

奉献された教会堂

長野地方部諏訪支部

住 所 〒391-0001

長野県茅野市ちの
字葛井 315-2

電 話 0266-73-0848

竣工日 2001年11月29日

建築面積 402.70平方メートル

延床面積 396.83平方メートル

敷地面積 1692.66平方メートル

長崎地方部長崎支部

住 所 〒852-8051

長崎県長崎市
西北町 3-7

電 話 095-844-3712

竣工日 2001年12月14日

建築面積 241.38平方メートル

延床面積 658.80平方メートル

敷地面積 992.30平方メートル

役員の異動

2001年2月14日から2002年3月14日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の異動 (敬称略)

●御坊地方部新宮支部

支部長:上村 洋生

●長野地方部諏訪支部

支部長:越中 隆雄

●日本松山地方部

第一副部長:重松 征史

第二副部長:刈谷 真爾

●長野地方部上田支部

支部長:江崎 誠

●岡崎ステーキ三河支部

監督:Lima, Moizes Almeida

●日本鹿児島地方部

地方部長:川原 健郎

第一副部長:久木崎 真人

第二副部長:Petersen, Dennis Curt

●郡山地方部会津若松支部

支部長:斎藤 雄仁

●金沢ステーキ高岡ワード

監督:大井 博美

新設ユニット

2002年2月17日、岡崎ステーキ三河支
部が設立されました。使用言語はボル
トガル語、集会所は豊橋ワードと共用。

皆さんの情報をご提供ください

◎あなたや友人の経験、また地域のニ
ュースなど、全国の読者に紹介したい
有意義な情報をお寄せください。

◎お願い——海外に召される日本人宣
教師を紹介いたします。氏名〔フリガナ〕、
所属ステーキ/地方部、ワード/支部、
MTC入所月、伝道部名を明記のうえ、
編集室に写真を添えてお知らせください。
デジタルカメラでお撮りになった画像デ
ータ(JPEG)を添付しての電子メール入
稿(下記アドレスあて)も歓迎いたします。
◎あて先:〒106-0047 東京都港区南麻
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト
教会『リアホナ』編集室

TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org

◎国際機関誌『リアホナ』のお届け、

その他商品に関するお問い合わせは——
教会配送センター

TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392

